

平成27年度  
学生生活実態調査  
報告書

Ito  
Campus



伊都キャンパス

Hakozaki  
Campus



箱崎キャンパス

Hospital  
Campus



病院キャンパス

Chikushi  
Campus



筑紫キャンパス

Ohashi  
Campus



大橋キャンパス

# 目次

まえがき	1	(6) 学生教育研究災害傷害保険への加入の有無	23
調査の概要	2	(7) 学生教育研究災害傷害保険に加入していない理由	23
<b>第1章 住居について</b>		<b>第5章 悩みについて</b>	
(1) 住居形態	3	(1) 悩みの有無	25
(2) 住居(部屋)を選ぶ際に考慮した条件	3	(2) 悩みの内容	25
(3) 九大の学生寄宿舍に入りたいと思うか	4	(3) 悩みの相談先	26
(4) 九大の学生寄宿舍に入りたい理由	5	(4) 相談窓口の認知度	27
(5) 九大の学生寄宿舍に入りにくい理由	5	(5-1) ハラスメントを受けた経験	27
<b>第2章 通学・事故等について</b>		(5-2) ハラスメントの種類	28
(1) 主な通学方法	7	(6-1) 他人がハラスメントを受けているのを見た経験	28
(2) 片道の通学時間	7	(6-2) 他人が受けていたハラスメントの種類	29
(3-1) 任意保険の有無(自転車)	8	(6-3) ハラスメントの状況について	30
(3-2) 任意保険の有無(原付)	9	<b>第6章 生活について</b>	
(3-3) 任意保険の有無(バイク)	9	(1) 睡眠時間	31
(3-4) 任意保険の有無(自動車)	9	(2) 平日の起床時間のリズム	31
(4) キャンパス間の主な移動理由	10	(3) 土日祝日に学校に行く理由	32
(5) 移動時に交通事故を起こした経験	10	(4) 現在、力を入れていること	32
(6) 交通事故を起こした時の状況	11	(5) 大学生生活の満足度	33
(7) 学生の交通マナー	11	(6) 大学生生活に不満な点	34
(8) 交通マナーの改善策について(自由記述)	12	(7) 1日のインターネットの使用時間	34
(9) 悪質な訪問販売等の被害を受けた経験	12	(8) SNSの利用状況	35
(10) 危険ドラッグの購入を勧められた経験	13	(9) SNSの利用で危険な(嫌な)思いをした経験	36
(11) 身の危険を感じた経験	13	<b>第7章 収入・支出について</b>	
(12) 身の危険を感じた内容	14	(1-1) 1か月の平均収入額(平均金額)	37
<b>第3章 食事について</b>		(1-2) 1か月の平均支出額(構成比)	38
(1) 朝食の有無	15	(2) 家族等からの送金と修学との関係	39
(2) 朝食を食べていない理由	15	<b>第8章 アルバイトについて</b>	
(3) 食事の場所	16	(1) アルバイトの状況	40
(4) 学内の食堂の利用状況	17	(2-1) アルバイトをしている理由	40
(5) 学内の食堂の改善すべき点	18	(2-2) アルバイトの職種	41
<b>第4章 健康管理について</b>		(2-3) 1週間の勤務日数	42
(1) 最近の体調	19	(2-4) 1週間のアルバイト時間	43
(2) 入学後に怪我をしたときの状況	20		
(3) 怪我や体調不良の主な原因	20		
(4) 身体面、心理面での悩みの解消方法	21		
(5) 喫煙の有無	22		

(2-5) アルバイト収入の使い道	……43
(2-6) アルバイトと学業の関係	……44
(2-7) アルバイトの勤務地	……45

## 第9章 課外活動(サークル、ボランティア)について

(1) サークル(課外活動)への参加状況	……46
(2-1) サークルに加入した主な理由	……46
(2-2) サークルの満足度	……47
(2-3) サークル活動の場所	……48
(2-4) 1週間あたりのサークル活動時間	……50
(2-5) サークル活動と学業との関係	……51
(3) サークルに加入していない理由	……51
(4) ボランティア活動の経験	……52
(5-1) ボランティア活動の内容	……53
(5-2) ボランティア活動の頻度	……53
(5-3) ボランティア活動の感想	……54

## 第10章 入学・授業等関係について

(1) 大学に入学した理由	……55
(2) 志望校決定時に九大に関して 知りたかった情報	……56
(3) 九大に入学した主な理由	……56
(4) 大学院生の出身学部等	……57
(5) 大学院生の九大に進学した理由	……58
(6) 現所属以外の大学院の受験の有無	……58
(7) 大学院受験と並行した 就職活動の有無	……59
(8) 授業内容の難易度	……59
(9) 授業の満足度	……60
(10) 授業に不満な理由	……60
(11-1) 大学院生の研究環境の満足度	……61
(11-2) 大学院生の研究環境に不満な理由	……61
(12) 大学院生の学会参加等に必要な 費用の捻出元	……62
(13-1) 学部・学科等の変更希望	……63
(13-2) 学部・学科等を変えたい理由	……63
(14-1) 大学院生の現在の所属の変更希望	……64
(14-2) 大学院生の現在の所属を 変えたい理由	……65
(15) 教員と直接話す機会の有無	……65
(16) 教員と直接話す機会がない理由	……66
(17) 教員とずっと直接話をしたいと思うか	……66
(18) 教員に期待すること	……67

(19) 大学の予習復習に費やしている時間	……68
(20) 大学の学習(授業以外)を 行っている場所	……69
(21) 1か月間の読書の状況	……69
(22) 新聞を読む頻度	……70
(23) 新聞を読まない理由	……71
(24) 修学上の問題を抱えた経験	……71
(25) 大学のピア・サポート制度や 学習相談を利用した経験	……72

## 第11章 図書館について

(1) 図書館の利用頻度	……74
(2) 図書館の利用目的	……74
(3) 図書館でよく利用するスペース	……75
(4) 図書館の満足度	……76
(5) 図書館に改善してほしいこと	……76

## 第12章 卒業後の進路について

(1) 卒業後の進路希望	……78
(2) 将来の就職に関して重要視するもの	……78
(3) 希望する勤務地	……79
(4) 就職に関して大学に希望すること	……80
(5-1) 就きたい職業第1位	……81
(5-2) 就きたい職業第2位	……82
(5-3) 就きたい職業第3位	……82

## 第13章 海外渡航・国際交流について

(1) 九大入学後に海外渡航をした回数	……83
(2) 海外渡航の目的	……84
(3) 交換留学制度の認知度	……84
(4) 外国語での会話の状況	……85
(5) 語学力を高めるために行っていること	……85
(6) 留学や研究を目的とした海外渡航の意向	……86

## 第14章 自由記述

Q 01 [本調査について]	……87
Q 02 [教育体制について]	……88
Q 03 [学生支援・相談体制について]	……93
Q 04 [大学の経済支援等の諸制度について]	……95
Q 05 [大学の施設・設備について]	……97
Q 06 [大学生生活全般について]	……99
Q 07 [女子学生にお尋ねします]	……102

## まえがき

学生生活実態調査は、本学の学生ひとり一人が自己実現に向けてのキャンパスライフを生き生きとエンジョイできるように、学生在生活・学修環境などの実態を把握し、何処にどのような課題があるかを解明し、学生の修学支援・改善に役立てるための情報収集を目的として、4年ごとに実施しているものです。グローバル化や価値観等の多様化に伴い、近年、大学を取り巻く社会状況や経済状態は、めまぐるしく絶えず変化し続け、将来の見通しが不透明な状況が続いています。それだけに、4年前(平成24年)の学生生活スタイルとは大きく異なり、学生自身も様々な側面で、精神的・経済的にも大きな問題や悩み・不安等を抱えているのではと、危惧していました。

今回は、4年前のウェブを活用した調査から、紙媒体による調査に変更しましたが、回収率は前回(約20%)に比べ非常に高く(約40%)、学生の積極的な協力により精度の高いデータが得られたことに感謝しています。

本報告書を熟読していただけるとお分かりになると思いますが、特徴的な側面として、例えば、

- 1) 授業に臨むにあたっての、日常的な予習復習時間が少ない
- 2) 経済的不安から、長期のアルバイトに時間を費やす学生(特に大学院生)が多い
- 3) ICT機器を利用した情報収集が主であり、新聞等の利用が非常に少ない
- 4) 大学生としての特権である図書館利用や読書量が少ない
- 5) 教員との対話が行えずに、不満を抱いている学生が多い(特に大学院生)
- 6) 留学や研究を目的とした海外渡航を希望する学生が増大している
- 7) キャンパス間の移動時間や経済的負担の大きさに問題を感じている
- 8) 自転車利用者の事故が多いが道路交通法改正の認知度が低く任意保険加入者が少ない等を指摘することができます。

本学では、学生の修学相談、学修支援、留学・進学等の支援体制を充実させるだけでなく、生活・経済的支援、就職活動支援等の充実・改善に取り組んできました。特に、山川賞、基幹教育奨励賞などの奨学制度、授業料免除制度の見直しなど、経済情勢の悪化に起因する経済的困窮を抱える学生への支援、さらには就職支援や博士後期課程学生への経済支援にも取り組んできています。が、今回の調査結果を踏まえると、学部生・大学院生の生活・学修環境のさらなる充実・改善のためには、新たな対策を講じていかねばならないと考えています。

本学は、平成27年9月に理学部移転を終え、平成30～31年にかけて文系学部(教育・人文・経済・法学)及び農学部さらには中央図書館等の伊都キャンパスへの移転完了をめざしています。それまでの間、学生をはじめ教職員にはキャンパス間の移動時間や経済的負担で迷惑をかけることとなりますが、本学が置かれている状況を十分にご理解の上、今しばらく我慢していただきたいと願っています。

多くの教職員の皆さんが本報告書をご活用いただき、学生ひとり一人が自己実現に向けて充実したキャンパスライフを実感できるように、ご指導ご支援くださることを心から切望しています。最後になりましたが、本調査にあたって、協力いただき貴重な情報を提供してくれた多くの学生の皆さん、調査内容の分析や報告書の取りまとめにご尽力くださった教職員の方々に厚くお礼申し上げます。

平成28年3月

九州大学理事・副学長  
丸 野 俊 一

# 調査の概要

## 1. 調査の目的

本学学生のご生活環境・学習環境など学生生活の実態を把握することにより、今後の学生支援の充実及び改善に役立てるため実施したものである。

## 2. 調査の組織

平成 27 年 4 月、九州大学学生支援委員会に「平成 27 年度学生生活実態調査実施部会」を設置し、さらに本部会に「学生生活実態調査実施ワーキンググループ」を設置して調査を担当した。

## 3. 調査の時期・対象

平成 27 年 10 月 1 日現在、学部と大学院に在籍する学生を対象とした。（休学者及び社会人学生は除く）

## 4. 調査の方法

担当係から調査票を対象学生に配布し回収を行った。

## 5. 回収状況

対象学生 17,345 名（学部生 11,585 名、大学院生 5,760 名）のうち、6,744 名（学部生 4,307 名、大学院生 2,437 名）から有効回答数を得て、回収率は 38.9%（学部生 37.2%、大学院生 42.3%）であった。〔前回調査時 19.6%（学部生 18.7%、大学院生 21.5%）〕

学部名	回答数	割合
文学部	312	7.2%
教育学部	50	1.2%
法学部	179	4.2%
経済学部	259	6.0%
理学部	417	9.7%
医学部	166	3.9%
医学部保健学科	294	6.8%
歯学部	160	3.7%
薬学部	180	4.2%
工学部	1,590	36.9%
芸術工学部	239	5.5%
農学部	385	8.9%
21世紀プログラム	74	1.7%
無回答	2	0.0%
合計（人）	4,307	100%

学府名	回答数	割合
人文科学府	72	3.0%
地球社会統合科学府	181	7.4%
人間環境科学府	141	5.8%
法学府	2	0.1%
法務学府	17	0.7%
経済学府	30	1.2%
理学府	109	4.5%
数理学府	2	0.1%
システム生命科学府	138	5.7%
医学系学府	262	10.8%
医学系学府保健学専攻	46	1.9%
歯学府	84	3.4%
薬学府	92	3.8%
工学府	654	26.8%
芸術工学府	71	2.9%
システム情報科学府	197	8.1%
総合理工学府	11	0.5%
生物資源環境科学府	255	10.5%
統合新領域学府	53	2.2%
無回答	20	0.8%
合計（人）	2,437	100%

## 6. 集計の方法

本書では調査結果を小数点第 2 位で四捨五入しているため、合計の数字が 100.0%にならない場合がある。

## 7. その他

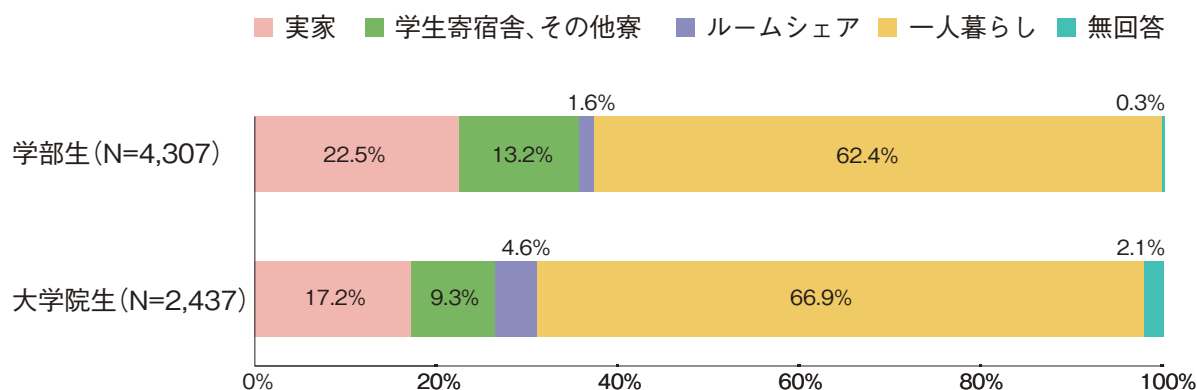
文中の「前回調査」とは、平成 23 年度学生生活実態調査を指す。

# 第1章 住居について

## (1)住居形態

前回調査に比べ、「一人暮らし」の割合はほぼ変化なく、「実家」の割合が減少し(学部生 28%→23%、大学院生 25%→17%)、「学生寄宿舍・その他寮」が大きく増加しています(学部生 6%→13%、大学院生 5%→9%)。学生寄宿舍の増加は、ドミトリー 3(136 室)と伊都協奏館(581 室)の設置が大きく影響しているものと思われます。

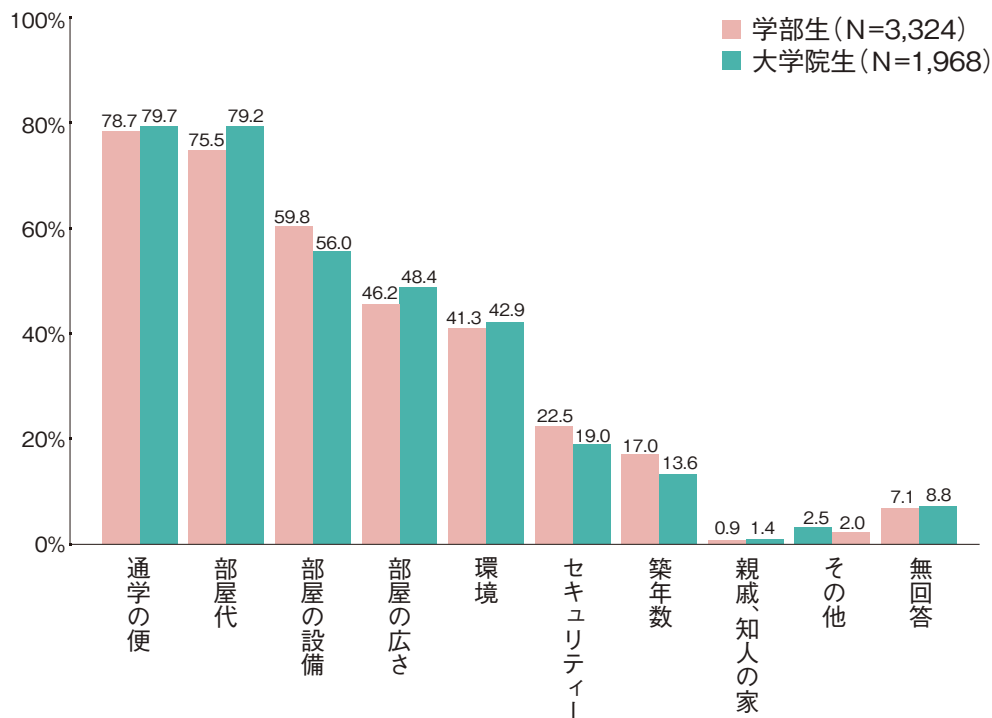
(人)	調査数	実家	学生寄宿舍、 その他寮	ルームシェア	一人暮らし	無回答
学部生	4,307	970	567	71	2,686	13
大学院生	2,437	418	227	111	1,630	51



## (2)住居(部屋)を選ぶ際に考慮した条件【複数回答4つまで】

前回調査と同様に「部屋代」と「通学の便」が、今回も上位にあがっています。(5)の「九大の学生寄宿舍に入りにくい理由」では「部屋の狭さ」が上位にありますが、この設問の「部屋の広さ」については、想定されるほど上位には位置づけられていないようです。

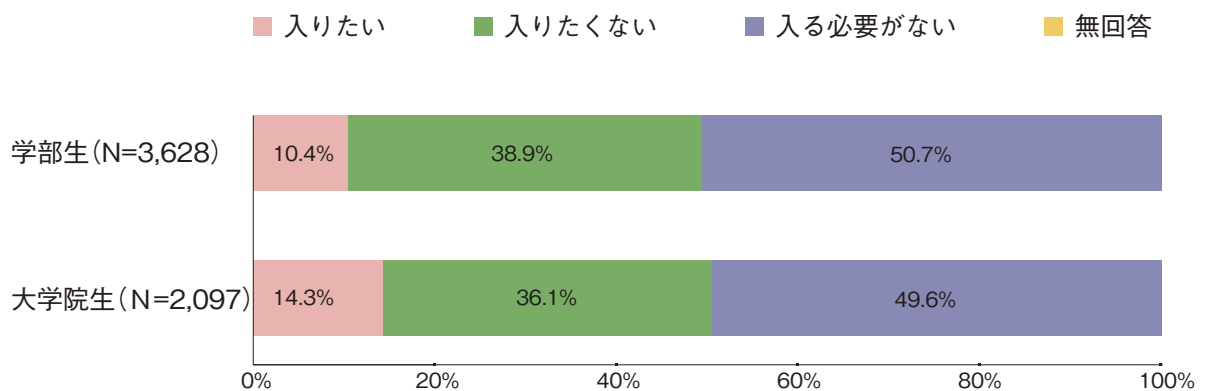
(人)	調査数	通学の便	部屋代	部屋の設備	部屋の広さ	環境	セキュリティー	築年数	親戚、知人の家	その他	無回答
学部生	3,324	2,615	2,510	1,988	1,536	1,372	747	566	31	82	235
大学院生	1,968	1,569	1,558	1,103	953	845	374	268	28	40	173



### (3) 九大の学生寄宿舍に入りたいと思うか

全体の傾向は、前回調査と大きくは変わりませんが、「入りたい」が大学院で幾分増加しています(学部 12%→10%, 大学院 11%→14%)。研究活動の多忙な大学院生には、キャンパス内に位置する学生寄宿舍の需要は高まっているものと思われます。

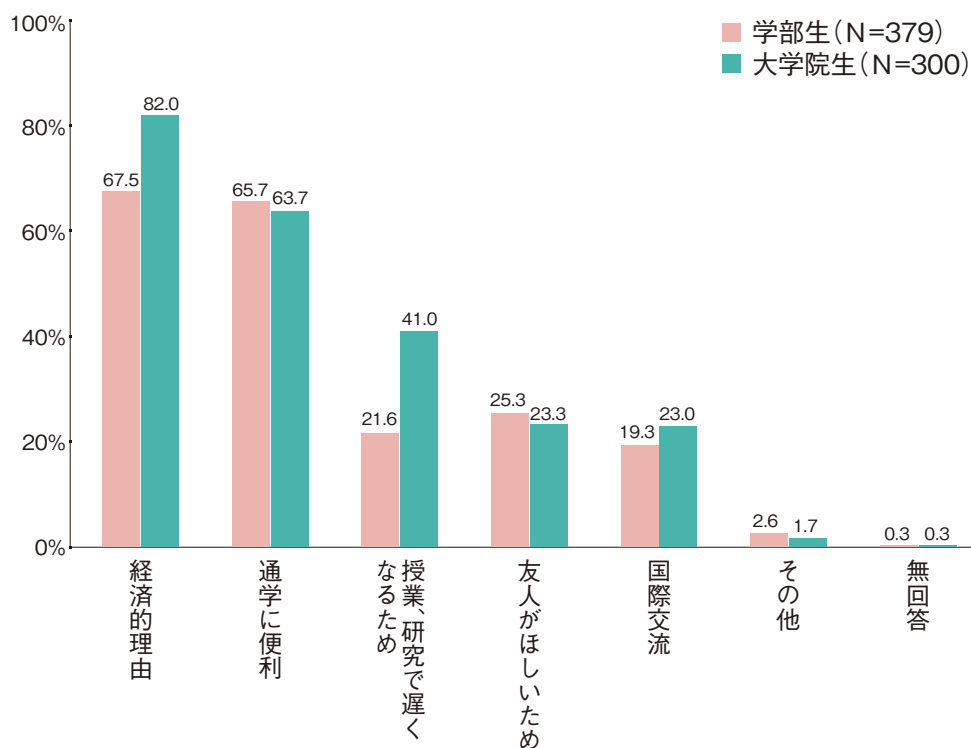
(人)	調査数	入りたい	入りたくない	入る必要がない	無回答
学部生	3,628	379	1,411	1,838	—
大学院生	2,097	300	757	1,040	—



#### (4) 九大の学生寄宿舍に入りたい理由

「経済的理由」が前回調査と同様に1位となり、「通学に便利」の割合が前回調査に比べ増加しています。「国際交流」を理由とする学生は20%前後であり、学生寄宿舍に入居を希望する学生にとって、国際寮としての意識はそれほど高くない状況にあるようです。

(人)	調査数	経済的理由	通学に便利	授業、研究で遅くなるため	友人がほしいため	国際交流	その他	無回答
学部生	379	256	249	82	96	73	10	1
大学院生	300	246	191	123	70	69	5	1

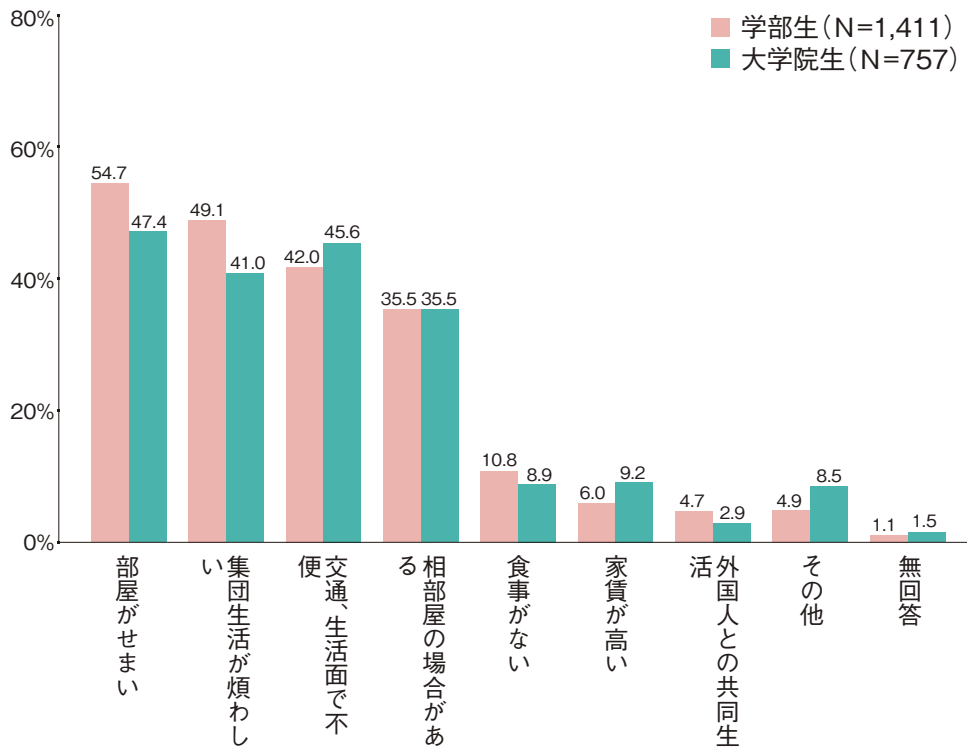


#### (5) 九大の学生寄宿舍に入りたくない理由

「部屋がせまい」「集団生活が煩わしい」「交通・生活の不便さ」は、前回調査と同様に3大要因となっています。「外国人との共同生活」については、想定される以上には高くなく、この設問においては、国際交流が学生寄宿舍の入居希望の障害にはなっていないようです。

(人)	調査数	部屋がせまい	集団生活が煩わしい	交通、生活面で不便	相部屋の場合がある	食事が無い	家賃が高い	外国人との共同生活	その他	無回答
学部生	1,411	772	693	593	501	152	84	67	69	16
大学院生	757	359	310	345	269	67	70	22	64	11



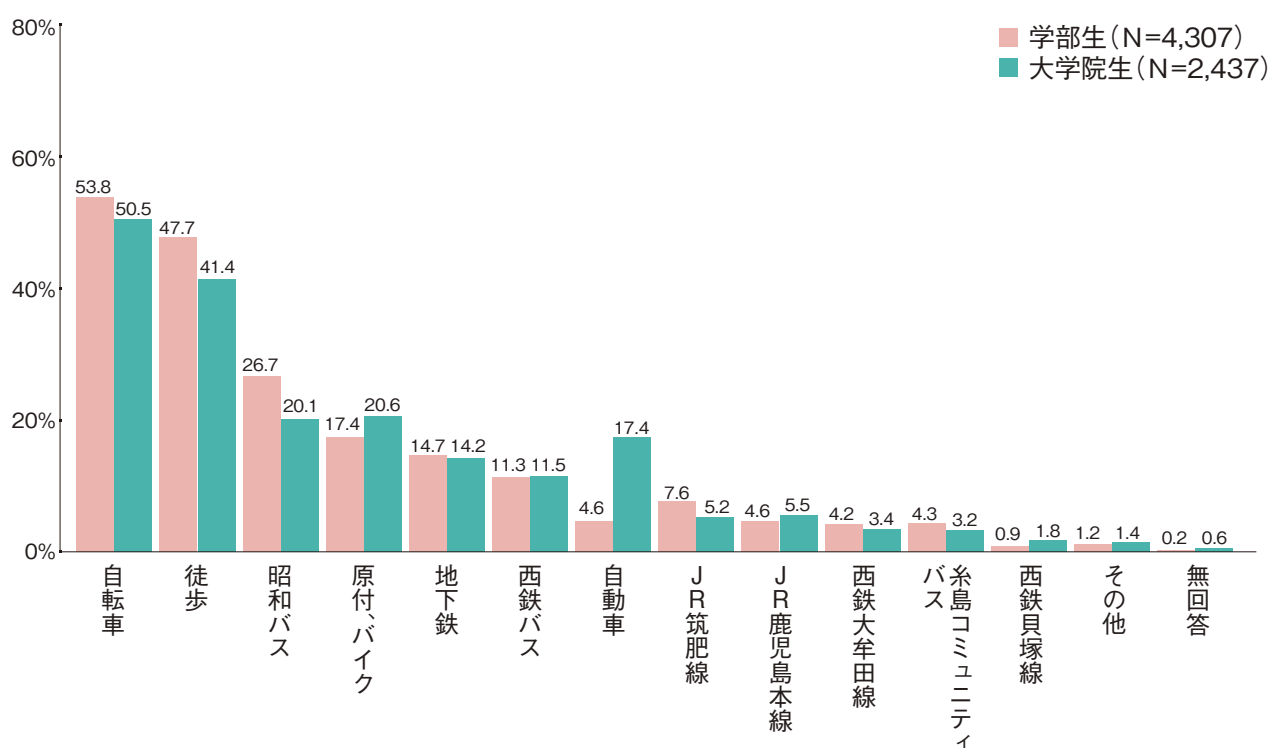


## 第2章 通学・事故等について

### (1) 主な通学方法【複数回答5つまで】

学部生、大学院生ともに自転車が最も多く、次いで徒歩が多いという結果となりました。学部生と大学院生とを比較すると、原付・バイクや自動車などの交通手段を持つ割合が大学院生の方が高いという特徴があります。

(人)	調査数	自転車	徒歩	昭和バス	原付、バイク	地下鉄	西鉄バス	自動車	JR筑肥線	JR鹿児島本線	大牟田線 西鉄	糸島コミュニティバス	西鉄貝塚線	その他	無回答
学部生	4,307	2,316	2,055	1,148	751	635	487	200	328	200	180	185	40	53	10
大学院生	2,437	1,231	1,008	491	503	346	280	423	126	135	84	79	45	35	14

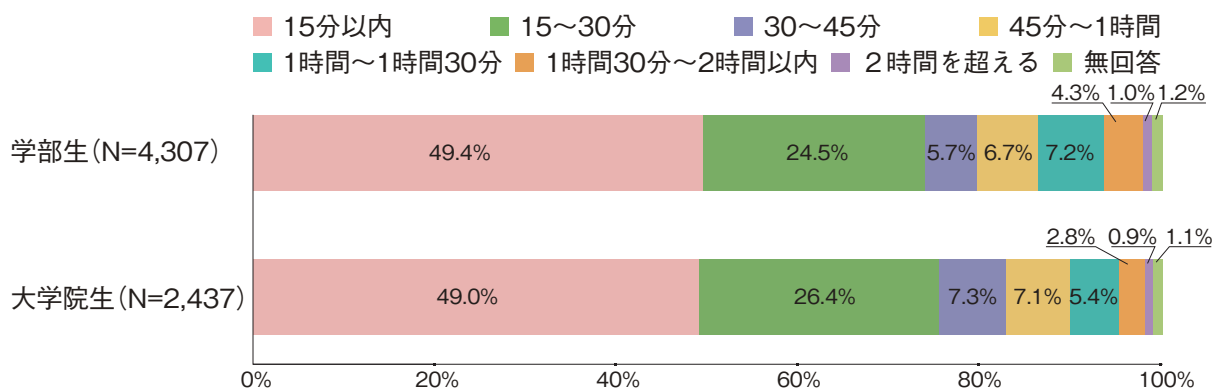


### (2) 片道の通学時間

#### 学生の4分の3は30分以内のところに住んでいる

通学方法において自転車や徒歩が多いという前問の結果から、キャンパスの近くに住んでいる学生が多いことが推測されますが、片道の通学時間を見ても、15分以内が半数近くに達し、15～30分と合わせると4分の3ほどに達しますので、学部生、大学院生ともにキャンパスの近くに住んでいることがわかります。

(人)	調査数	15分以内	15～30分	30～45分	1時間～45分	1時間30分～1時間	1時間30分～2時間以内	2時間を超える	無回答
学部生	4,307	2,128	1,056	246	288	308	184	45	52
大学院生	2,437	1,194	643	178	174	131	69	21	27

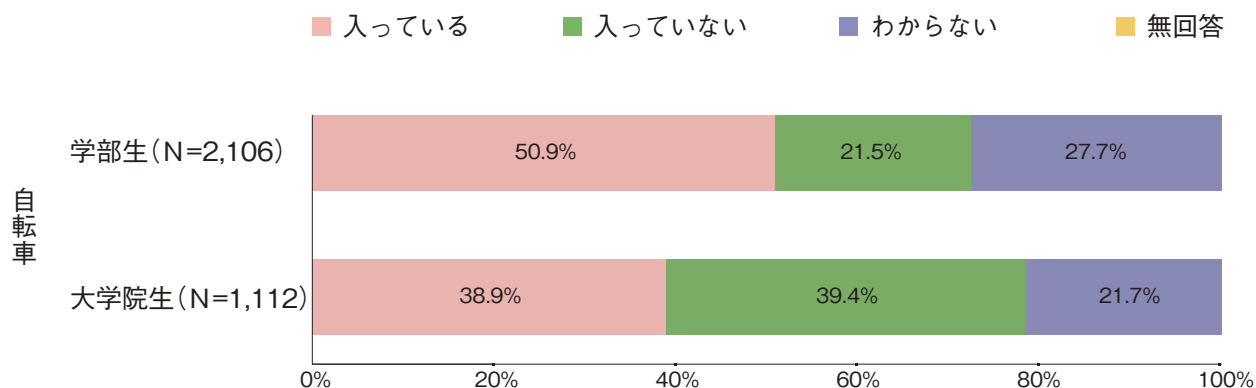


### (3-1) 任意保険の有無(自転車)

#### 自転車利用者の任意保険加入率の低さが気になる

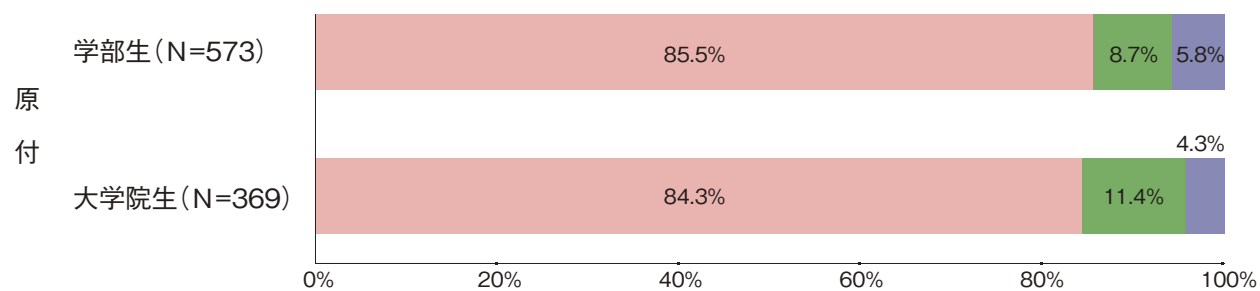
任意保険については、自転車、原付、バイク、自動車と、車両の種類が高価なものになるにつれ、加入率も高まるという傾向がみられました。自転車の場合、加入率は5割に満たないのが、自動車では9割以上に達します。自転車の加入率の低さは、自転車も車両なのだという自覚を欠いているといえるでしょう。自転車も車両に含まれ、歩行者と接触事故を起こした場合には加害者となるわけですから、もう少し自覚を持つ必要があります。前回調査と比べても加入率が低下しているため、大学は学生の自覚を促すための啓発活動に努めなければなりません。

(人)	調査数	入っている	入っていない	わからない	無回答
学部生	2,106	1,071	452	583	—
大学院生	1,112	433	438	241	—



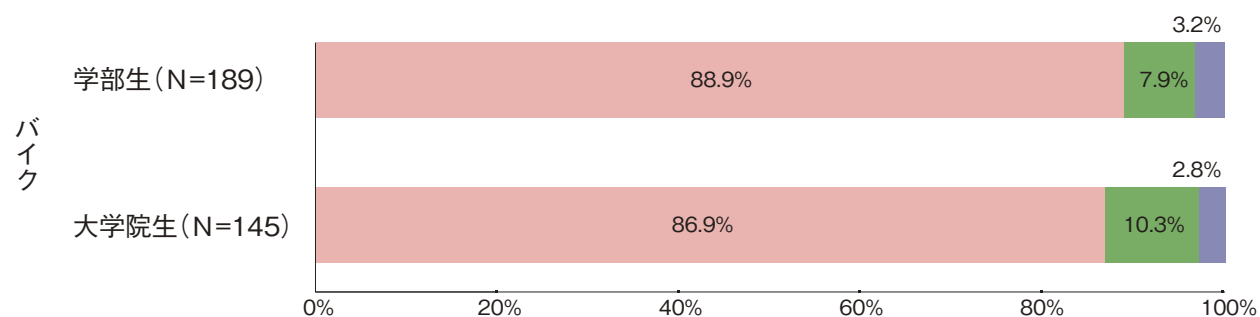
## (3-2)任意保険の有無(原付)

(人)	調査数	入っている	入っていない	わからない	無回答
学部生	573	490	50	33	—
大学院生	369	311	42	16	—



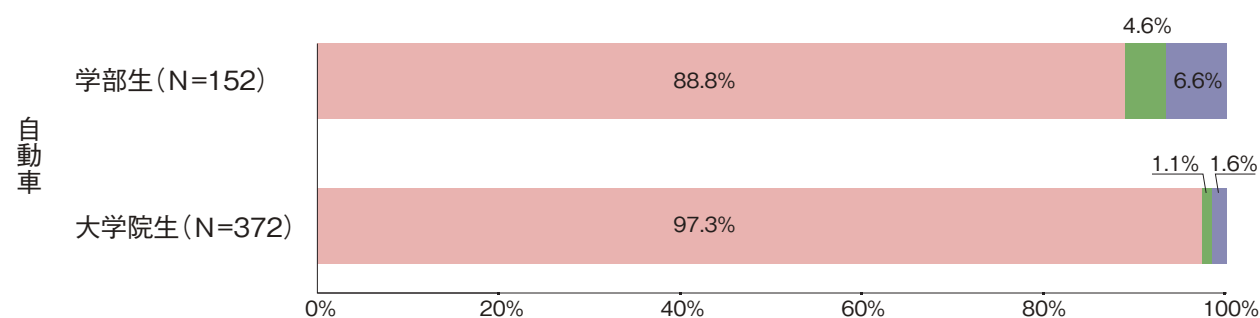
## (3-3)任意保険の有無(バイク)

(人)	調査数	入っている	入っていない	わからない	無回答
学部生	189	168	15	6	—
大学院生	145	126	15	4	—



## (3-4)任意保険の有無(自動車)

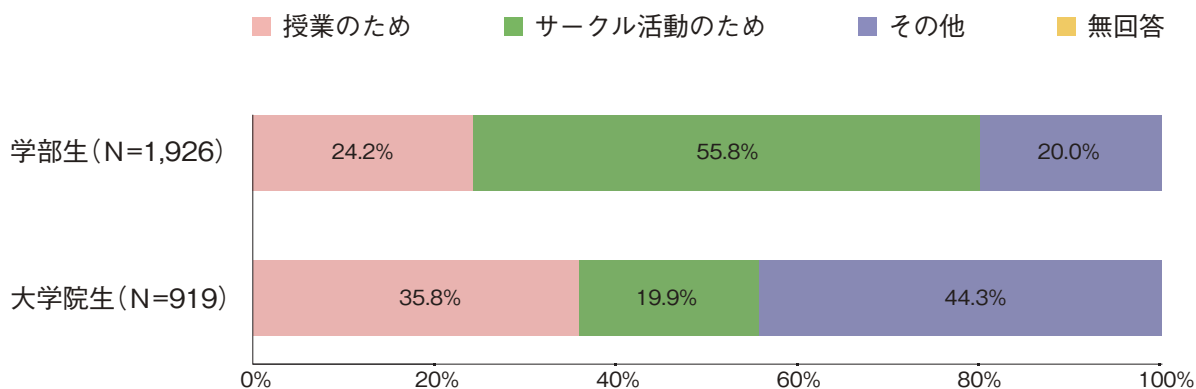
(人)	調査数	入っている	入っていない	わからない	無回答
学部生	152	135	7	10	—
大学院生	372	362	4	6	—



#### (4) キャンパス間の主な移動理由

キャンパス間の主な移動理由は、学部生では「サークル活動のため」が過半数に達し、大学院生では「授業のため」が過半数には達しなかったものの、「サークル活動のため」を上回りました。

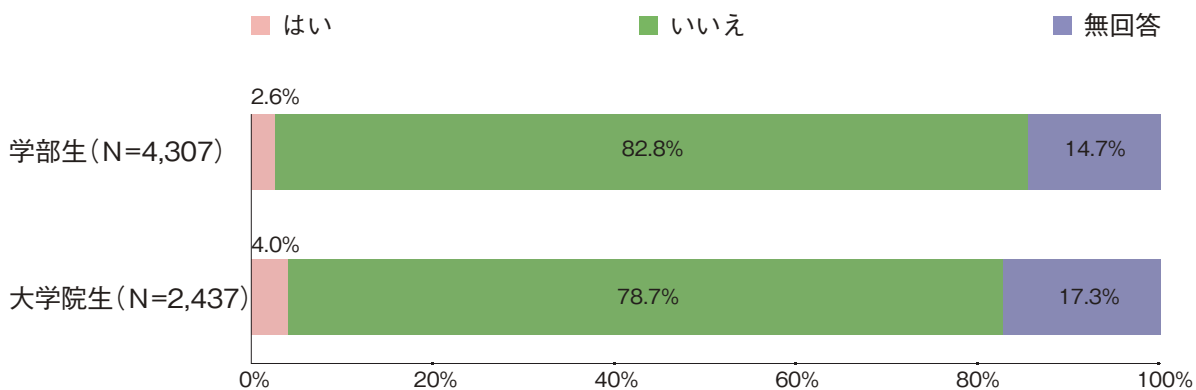
(人)	調査数	授業のため	サークル活動のため	その他	無回答
学部生	1,926	466	1,074	386	—
大学院生	919	329	183	407	—



#### (5) 移動時に交通事故を起こした経験

交通事故の経験は、「はい」が3%前後、「いいえ」が80%前後と高い結果となりましたが、後者の割合は前回調査では9割前後と高かったため、低下しているのが気になります。

(人)	調査数	はい	いいえ	無回答
学部生	4,307	110	3,566	631
大学院生	2,437	97	1,919	421

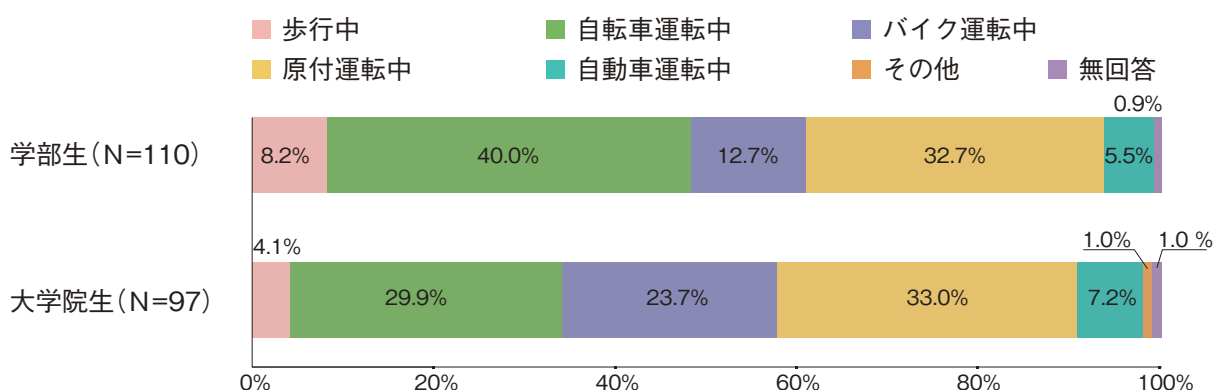


## (6)交通事故を起こした時の状況

### 交通事故は自転車および原付運転中に多い

交通事故を起こした学生は合計で207名いて、学部生が110名、大学院生が97名でした。このうち、自転車運転中が73件、原付運転中が68件と、両者の運転中に事故の発生が多いといえます。7頁の(1)の結果からわかるように、運転機会は自転車の方が多いわけですから、発生割合という点では、原付が高いと考えられますので、原付の利用者に対しては、いっそうの注意を喚起する必要があります。

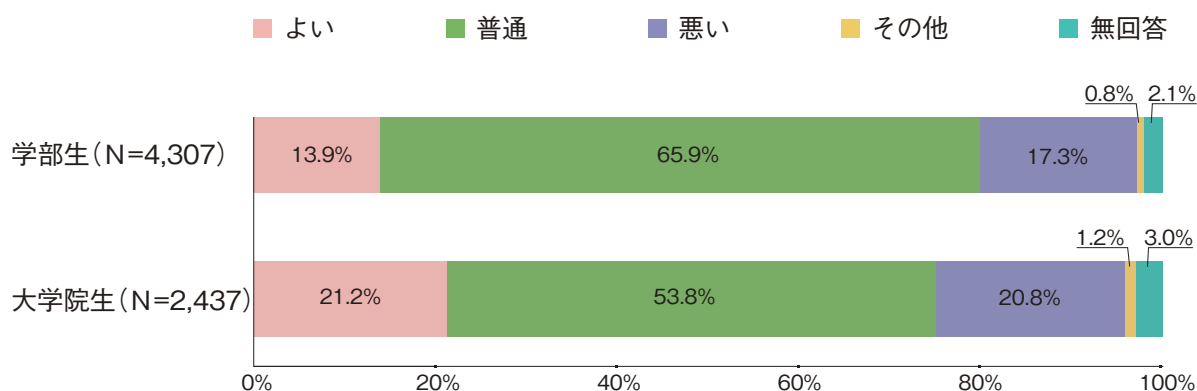
(人)	調査数	歩行中	自転車運転中	バイク運転中	原付運転中	自動車運転中	その他	無回答
学部生	110	9	44	14	36	6	—	1
大学院生	97	4	29	23	32	7	1	1



## (7)学生の交通マナー

学生の交通マナーに対しては、学部生、大学院生とも「普通」が過半数に達しています。また、学部生よりも大学院生の方が「よい」と答えた回答者が多く、年齢を経るにつれ、交通マナーに対する認識がたかまっているものと思われます。

(人)	調査数	よい	普通	悪い	その他	無回答
学部生	4,307	598	2,840	743	35	91
大学院生	2,437	516	1,311	508	29	73



## (8)交通マナーの改善策について(自由記述)

### 講習会等を開いて、学生の自転車や原付の運転マナー改善を図ることが望ましい

前問では、「普通」と回答した人が最も多かったものの、マナーの改善を求める意見を求めたところ、逆に交通マナーが悪いという実態を浮かび上がらせる結果が示されました。すなわち、自転車や原付の運転マナーに関して、「警察の指導」「マナー講習会を全学年におこなう」「入学時の説明に加える。入学してすぐが一番素直にきく(オリエンテーション)」「メール等で注意を促す」「自転車・原付専用レーンの設置」等、ソフト面およびハード面の双方においてさまざまな意見が寄せられました。

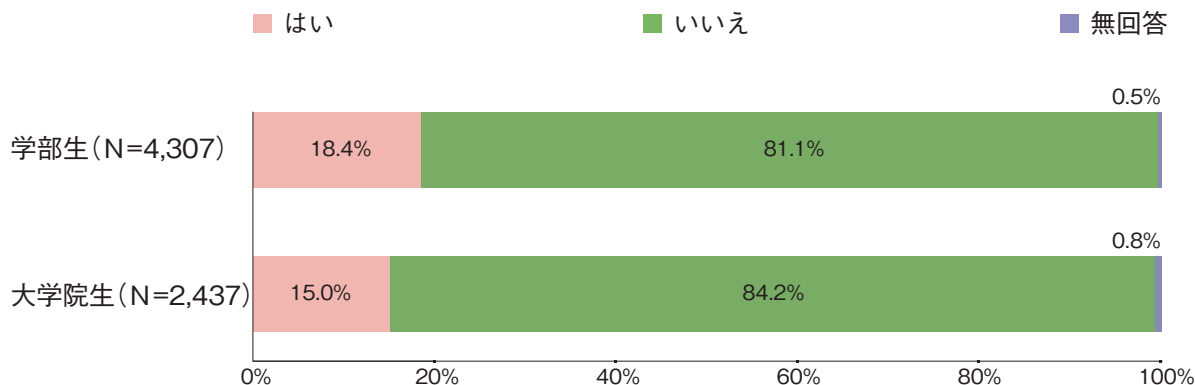
2015年6月には道路交通法が改正され、自転車に対する取り締まりが強化されたという背景もありますので、新入生に対しては入学時のオリエンテーションで、在学生に対しても適当な時期において、交通マナー向上のための講習会の開催が望まれます。また、ハード面においては、自転車専用レーンを設ける、道路に段差をつけてスピードが出せないようにする等、予算措置が可能なところから、交通問題の改善につながる対応を行うことが望まれます。

## (9)悪質な訪問販売等の被害を受けた経験

### 悪質な訪問販売等の被害を受けた経験は前回と比べて倍増している

悪質な訪問販売等の被害を受けた経験については、学部生が18%、大学院生が15%と、学部生の方が若干高い傾向がみられますが、平成23年調査の結果が、いずれも8%だったことと比べると、ほぼ倍増しているといえ、学生に対して注意を喚起する必要があります。

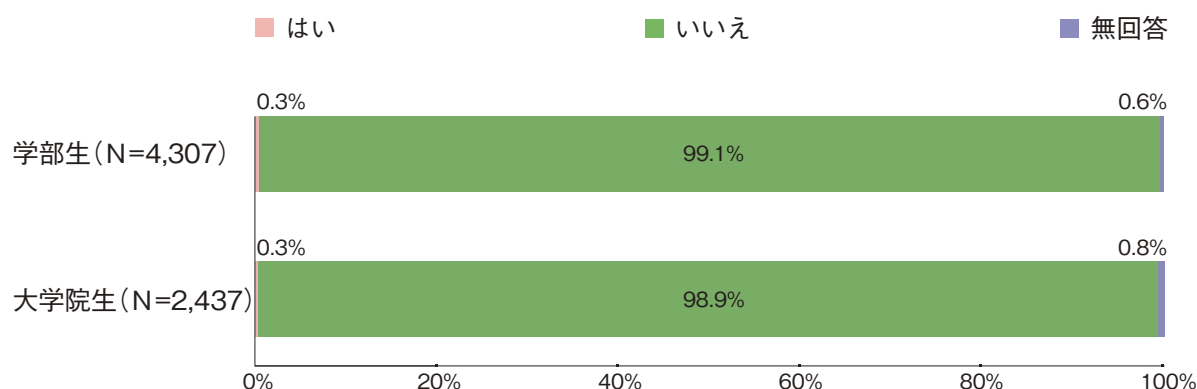
(人)	調査数	はい	いいえ	無回答
学部生	4,307	792	3,494	21
大学院生	2,437	365	2,052	20



## (10) 危険ドラッグの購入を勧められた経験

危険ドラッグの購入を勧められた経験は、学部生で15件(0.3%)、大学院生で8件(0.3%)と少なく、その割合も平成23年調査とほぼ同じですが、皆無ではないため、注意を喚起する必要があります。

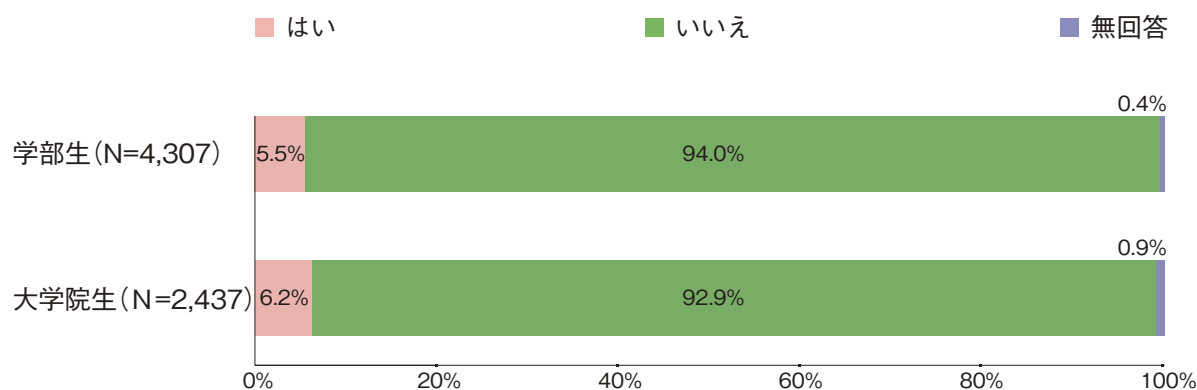
(人)	調査数	はい	いいえ	無回答
学部生	4,307	15	4,270	22
大学院生	2,437	8	2,410	19



## (11) 身の危険を感じた経験

学内で身の危険を感じた人は、学部生および大学院生ともに6%前後で、この割合は平成23年調査とほぼ同じです。その内訳は、各種ハラスメントが85件と最も多く、次いで、ストーカー行為(61件)、暴力(54件)、金品強要(17件)の順でした。件数自体はそれほど多くはないものの、学外のみならず学内も安全な場所ではないという認識を持ってもらう必要があります。

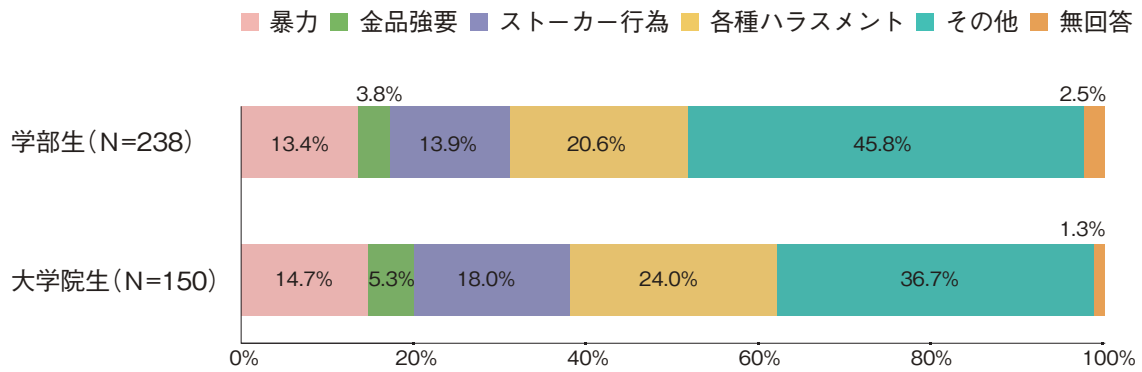
(人)	調査数	はい	いいえ	無回答
学部生	4,307	238	4,050	19
大学院生	2,437	150	2,265	22





## (12)身の危険を感じた内容

(人)	調査数	暴力	金品強要	ストーカー行為	各種ハラスメント	その他	無回答
学部生	238	32	9	33	49	109	6
大学院生	150	22	8	27	36	55	2

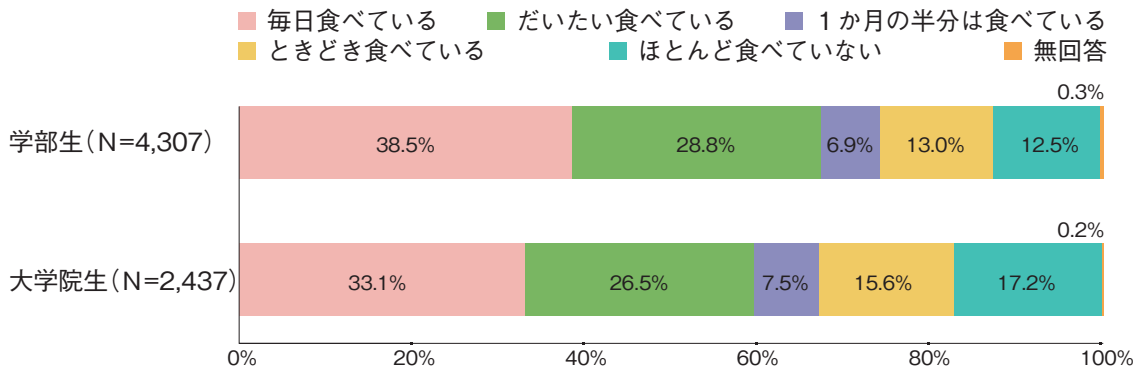


# 第3章 食事について

## (1) 朝食の有無

学部学生では、朝食を「毎日食べている」「だいたい食べている」者の割合は67%、大学院生では60%で前回調査時とほぼ一緒の傾向でした。

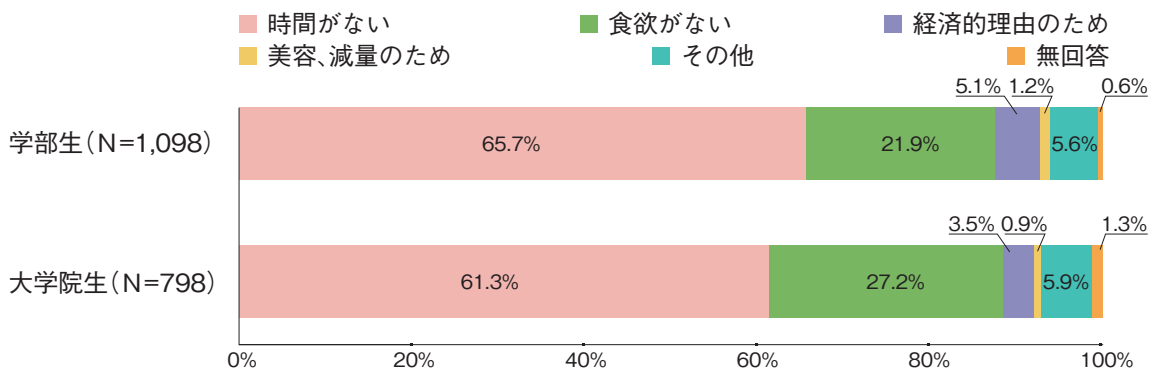
(人)	調査数	毎日食べている	だいたい食べている	1か月の半分は食べている	ときどき食べている	ほとんど食べていない	無回答
学部生	4,307	1,658	1,241	298	561	537	12
大学院生	2,437	807	645	183	379	419	4



## (2) 朝食を食べていない理由

朝食を食べていない理由も前回調査時と同様に「時間がない」「食欲がない」割合が90%近く占めています。

(人)	調査数	時間がない	食欲がない	経済的理由のため	美容、減量のため	その他	無回答
学部生	1,098	721	240	56	13	61	7
大学院生	798	489	217	28	7	47	10



### (3) 食事の場所

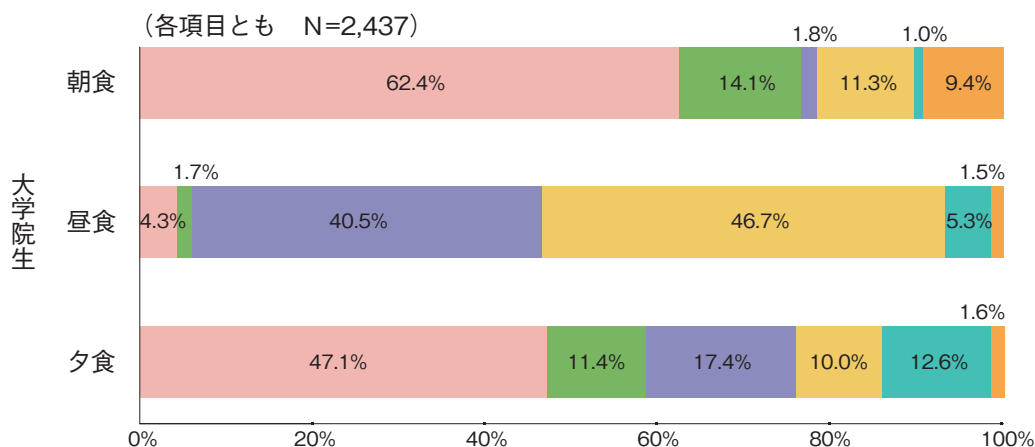
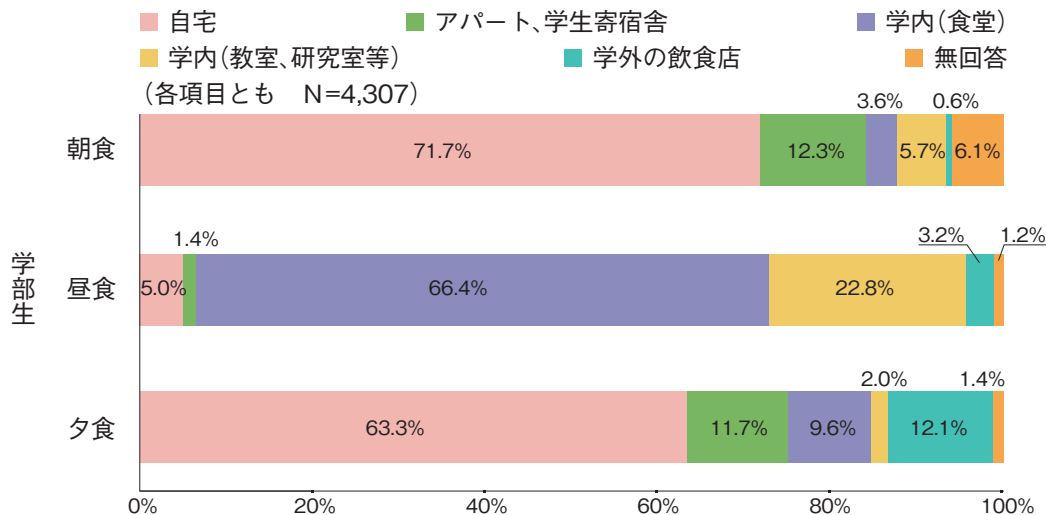
学部生、大学院生ともに昼食は90%近くが学内で食事していますが、大学院生になると、食堂よりも教室・研究室で食事をする割合が大きくなっています。朝食は自宅、アパートが多数を占め、夕食は、学部生では自宅、アパートが75%を占めますが、大学院では59%に減少し、外食が増加します。これらの傾向も前回調査時とそれほど変わりません。

#### (学部生)

(人)	調査数	自宅	アパート、 学生寄宿舍	学内(食堂)	学内(教室、 研究室等)	学外の 飲食店	無回答
朝食	4,307	3,090	528	156	244	26	263
昼食	4,307	214	62	2,858	984	136	53
夕食	4,307	2,726	502	412	87	521	59

#### (大学院生)

(人)	調査数	自宅	アパート、 学生寄宿舍	学内(食堂)	学内(教室、 研究室等)	学外の 飲食店	無回答
朝食	2,437	1,520	343	45	276	24	229
昼食	2,437	105	42	987	1,138	128	37
夕食	2,437	1,147	277	423	244	308	38



### (4) 学内の食堂の利用状況

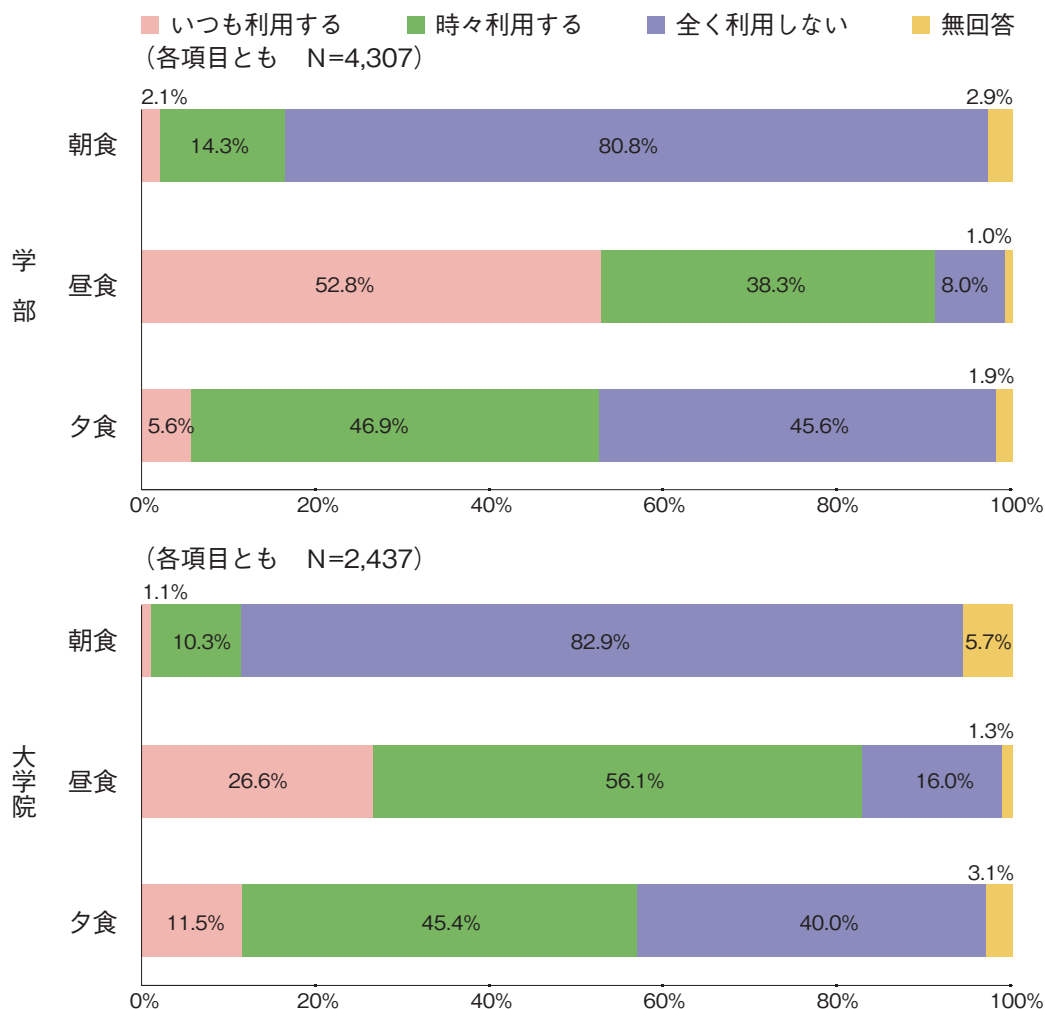
朝食での利用は依然として少ないのですが、前回に比べ微増しています。昼食については学内食堂が大半を占め、前回調査時に比べて大学院生では「全く利用しない」割合が25%から16%に減少しています。夕食については「いつも利用する」が5-10%、「時々利用する」を含めると50%強となり、伊都キャンパスの学生数が増えたために食堂を利用する者の割合が増加してきているのではないかと思います。

#### (学部生)

(人)	調査数	いつも利用する	時々利用する	全く利用しない	無回答
朝食	4,307	90	614	3,480	123
昼食	4,307	2,273	1,649	343	42
夕食	4,307	240	2,021	1,964	82

#### (大学院生)

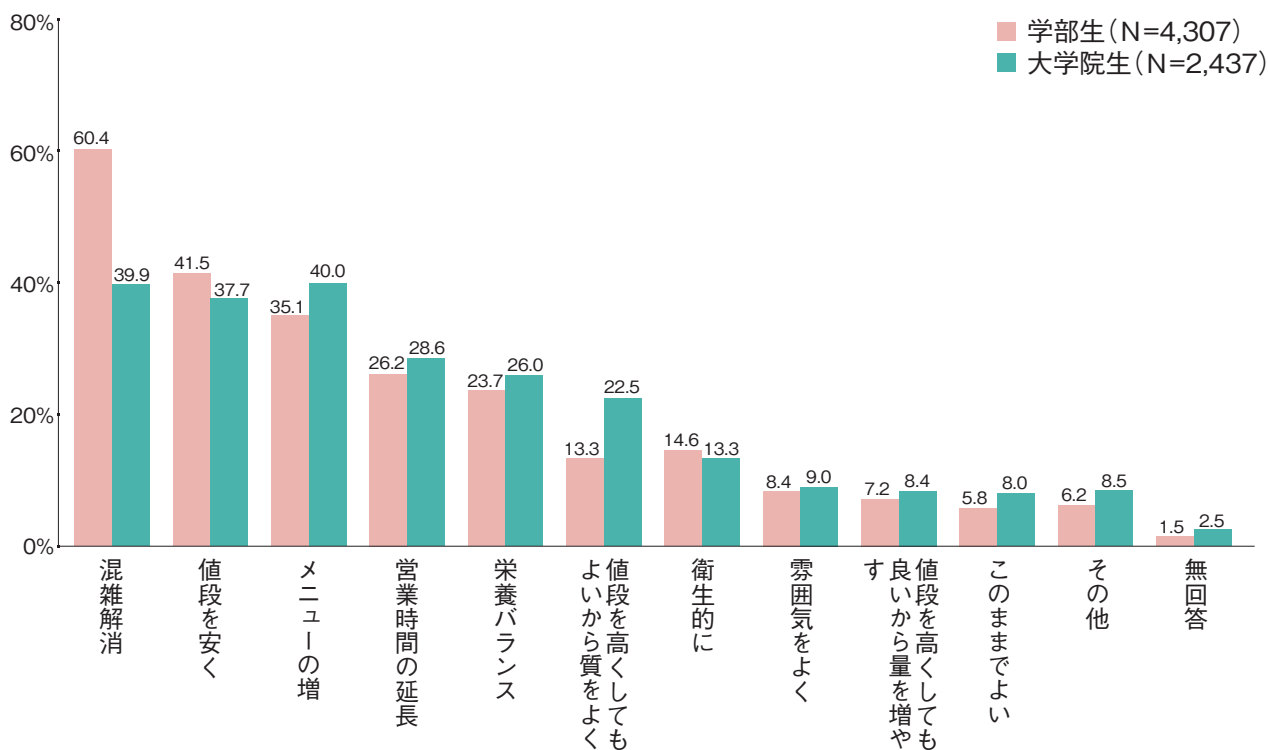
(人)	調査数	いつも利用する	時々利用する	全く利用しない	無回答
朝食	2,437	27	251	2,021	138
昼食	2,437	648	1,367	390	32
夕食	2,437	281	1,107	974	75



## (5) 学内の食堂の改善すべき点

1位「混雑解消」、2位「値段」、3位「メニュー」の順位は前回調査時と同じです。「混雑解消」の要望が大学院生に比べて学部生で高いのは、午後の授業の有無にあると思われます。「営業時間の延長」は前回のアンケートの項目には見られませんでした。今回の調査では4位に入っています。これらの要望については食堂等の事業者へ伝えるなど改善に努めて参ります。

調査数 (人)	混雑解消	値段を安く	メニューの増	営業時間の延長	栄養バランス	値段を高くしても よいから質をよく	衛生的に	雰囲気をよく	値段を高くしても 良いから量を増やす	このままでよい	その他	無回答	
学部生	4,307	2,600	1,786	1,512	1,128	1,020	571	628	361	312	249	268	63
大学院生	2,437	973	919	974	698	634	548	323	219	204	195	207	61



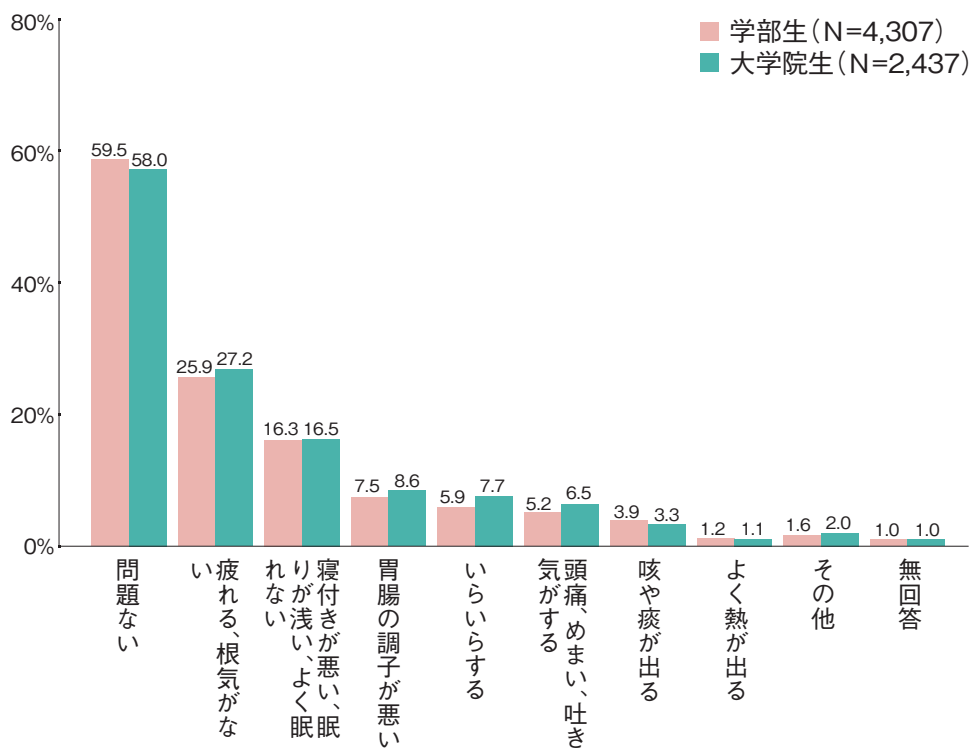
# 第4章 健康管理について

## (1) 最近の体調

### 健康不安が増加

前回(平成23年)、前々回(平成19年)の同じ質問に対して7割以上の学生が「問題ない」と回答しているのに対して、今回「問題ない」と回答した学生は学部生・大学院生ともに6割を切っていました(58.9%)。「問題ない」以外の回答項目は前回・前々回と異なるため今回との比較は難しいですが、これまで「病気とは思えないが調子が悪い」に相当する部分が増加したものと考えられます。

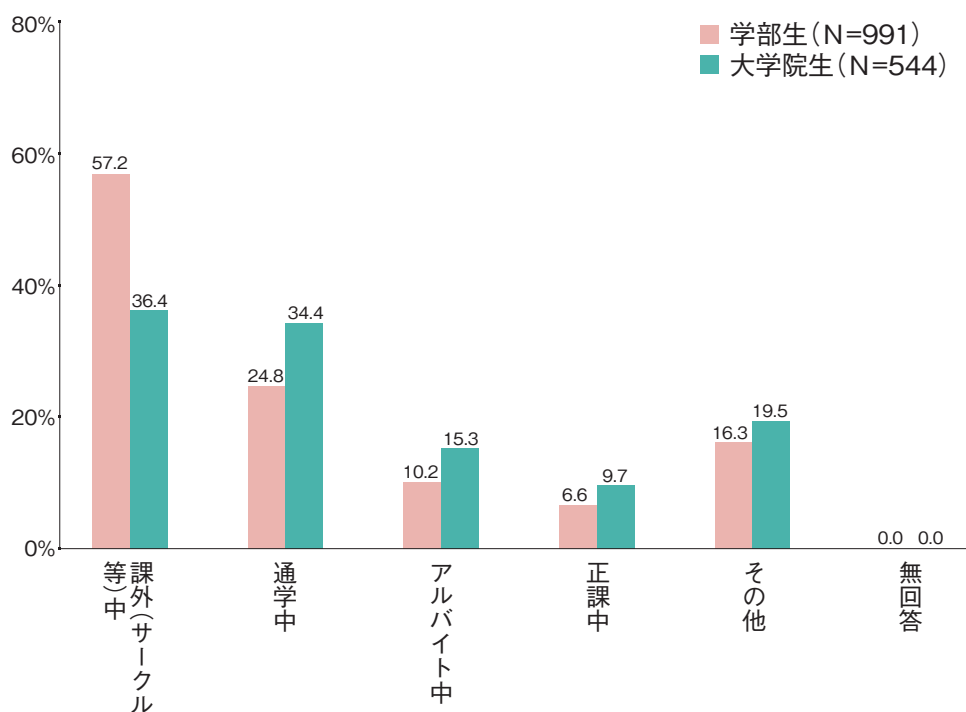
	調査数 (人)	問題ない	疲れる、 根気がない	寝付きが悪い、 眠りが浅い、 よく眠れない	胃腸の調子が 悪い	いらいらする	頭痛、めまい、 吐き気がする	咳や痰が出る	よく熱が出る	その他	無回答
学部生	4,307	2,561	1,115	704	322	255	225	169	52	67	42
大学院生	2,437	1,414	664	402	209	188	158	80	26	48	24



## (2) 入学後に怪我をしたときの状況

入学後に怪我をした学生についてその発生状況を尋ねたところ、学部生は課外(サークル等)活動中が最も多く(57.2%)、大学院生は課外(サークル等)活動中(36.4%)と通学中(34.4%)が同程度で、前回と同様でした。

(人)	調査数	(サークル等) 課外 中	通 学 中	ア ル バ イ ト 中	正 課 中	そ の 他	無 回 答
学部生	991	567	246	101	65	162	—
大学院生	544	198	187	83	53	106	—

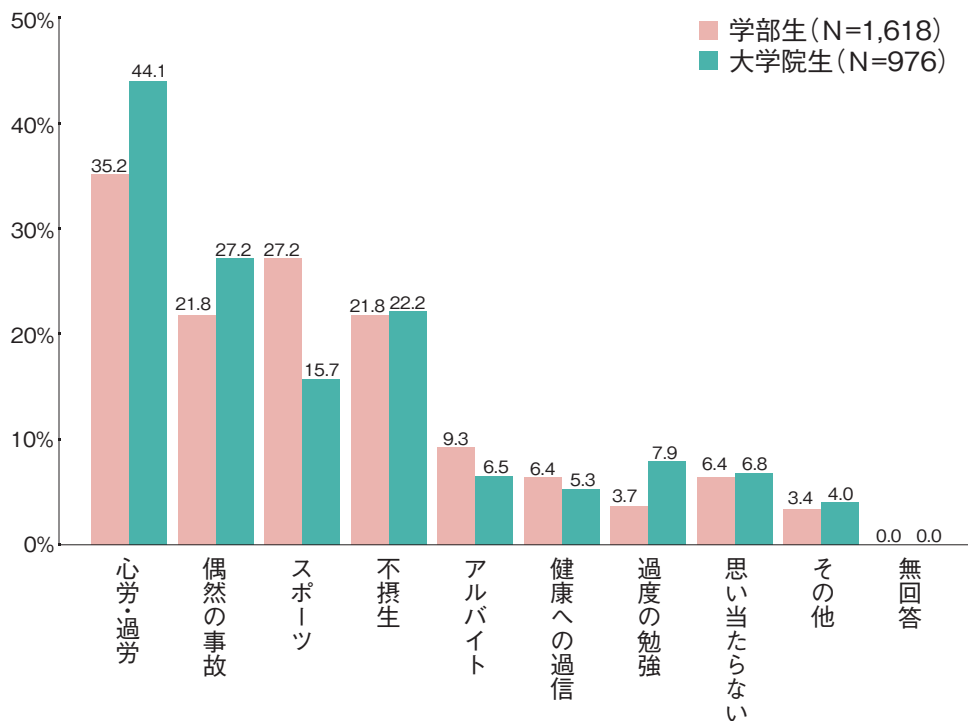


## (3) 怪我や体調不良の主な原因

### 心労や過労、不摂生に要注意

怪我や体調不良にいたった学生について考えられる主な原因を尋ねたところ、心労や過労(38.6%)、偶発的な事故(23.8%)は大学院生の方が多く、スポーツ(22.8%)を原因に挙げるのは学部生が相対的に多い状況でした。また不摂生を原因とする場合は学部生・大学院生ともに変わりませんでした(22.0%)。

(人)	調査数	心 労 ・ 過 労	偶 然 の 事 故	ス ポ ー ツ	不 摂 生	ア ル バ イ ト	健 康 へ の 過 信	過 度 の 勉 強	思 い 当 た ら な い	そ の 他	無 回 答
学部生	1,618	569	353	440	353	151	103	60	103	55	—
大学院生	976	430	265	153	217	63	52	77	66	39	—



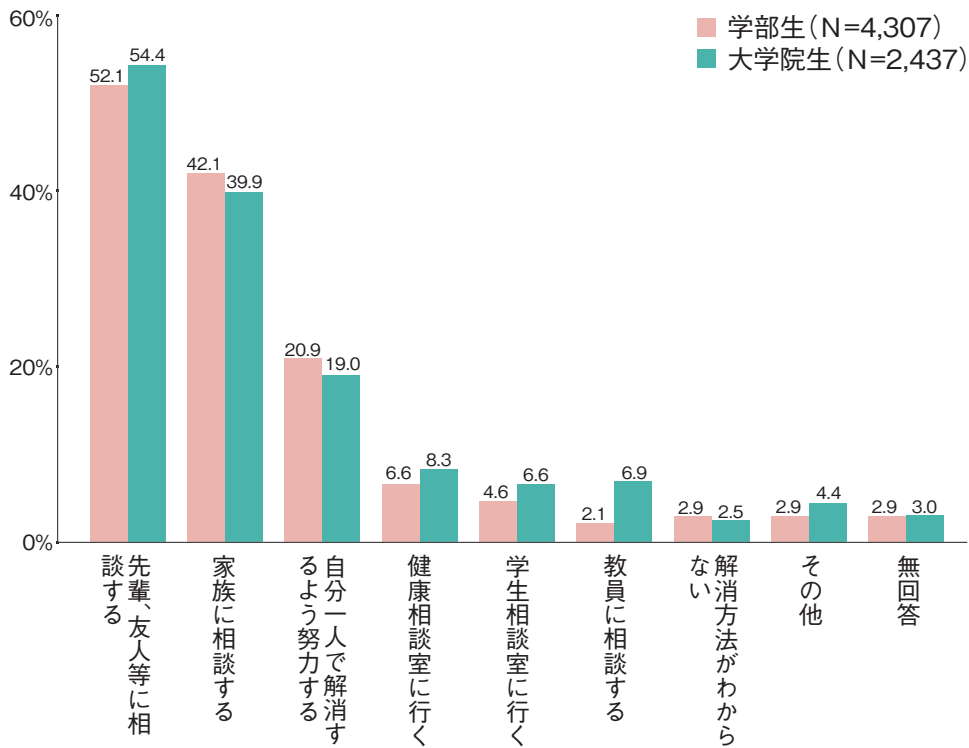
#### (4) 身体面、心理面での悩みの解消方法

##### やはり先輩や友人が一番頼り

身体面や心理面で悩みがある学生に対してその解消方法を尋ねたところ、先輩や友人等(52.9%)ついで家族(41.4%)に相談する場合が最も多く、自分一人で解消するよう努力する学生も2割を占めました。これらの傾向は学部生・大学院生の間で大きな違いは見られませんでした。前々回(平成19年)と比較すると自分一人で解消するよう努力する割合は減って、教員へ相談したり学内施設(健康相談室や学生相談室)を利用する割合が少しながら増加しています。

(人)	調査数	先輩、友人等に相談する	家族に相談する	自分一人で解消するよう努力する	健康相談室に行く	学生相談室に行く	教員に相談する	解消方法がわからない	その他	無回答
学部生	4,307	2,244	1,814	902	284	198	90	124	125	124
大学院生	2,437	1,325	973	462	202	162	167	61	107	73



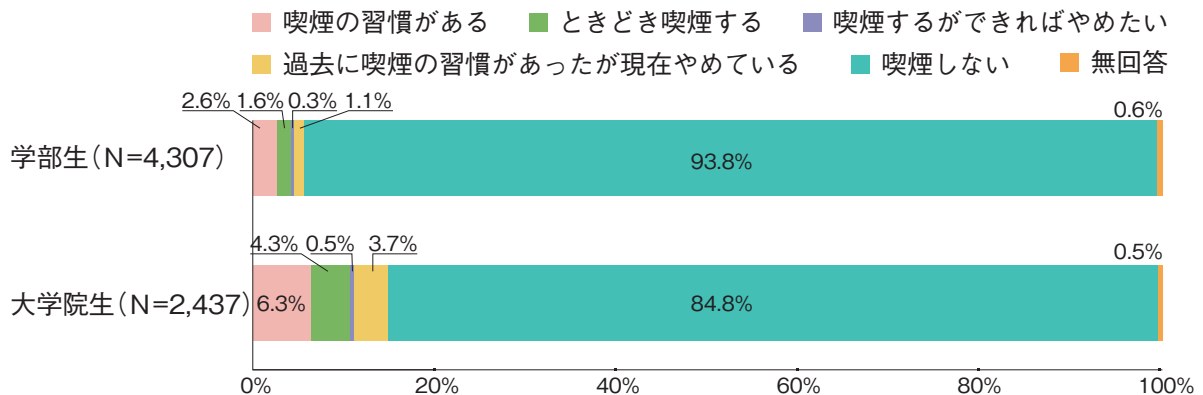


## (5) 喫煙の有無

### 喫煙者はさらに少数派に

今回、喫煙に関しては前回(平成 23 年)、前々回(平成 19 年)より詳細な質問をしました。「喫煙しない」学生と「過去に喫煙の習慣があったが現在やめている」学生を合計すると学部生で 94.9% (前回 89%)、大学院生で 88.5% (前回 85%) となり、喫煙者はさらに少数派になっているといえそうです。前回(平成 23 年)、前々回(平成 19 年)と同様に学部生より大学院生に喫煙者が多いといえます。

(人)	調査数	喫煙の習慣がある	ときどき喫煙する	喫煙するができればやめたい	過去に喫煙の習慣があったが現在やめている	喫煙しない	無回答
学部生	4,307	114	67	15	47	4,040	24
大学院生	2,437	153	105	12	89	2,066	12

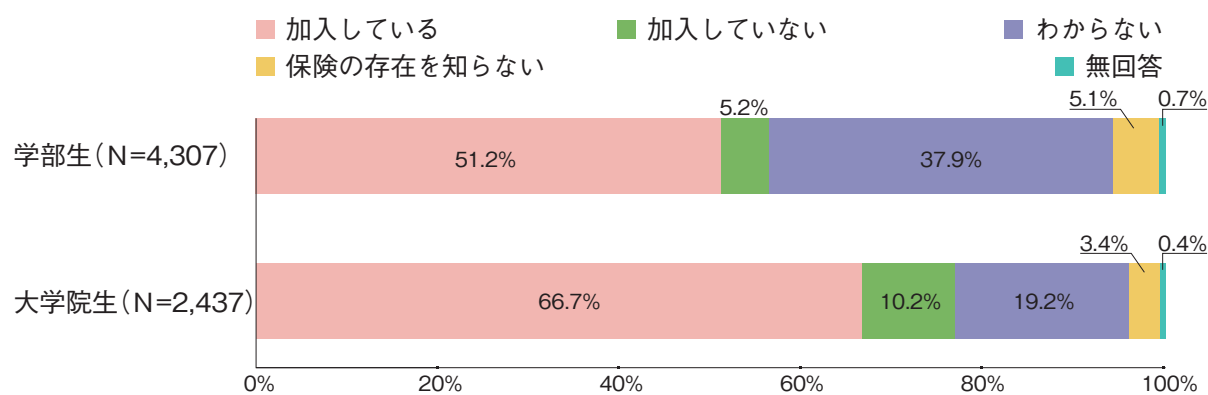


## (6) 学生教育研究災害傷害保険への加入の有無

### 前回同様で大学院生が多く加入

学生教育研究災害傷害保険への加入状況は前回(平成23年)と同様で、学部生51.2%(前回54%)、大学院生66.7%(前回68%)でした。しかし前々回(平成19年)は学部生(76.7%)大学院生(75.1%)ともに7割以上が加入していたことから、今後の動向が気になります。

(人)	調査数	加入している	加入していない	わからない	保険の存在を知らない	無回答
学部生	4,307	2,204	223	1,632	220	28
大学院生	2,437	1,626	248	469	84	10

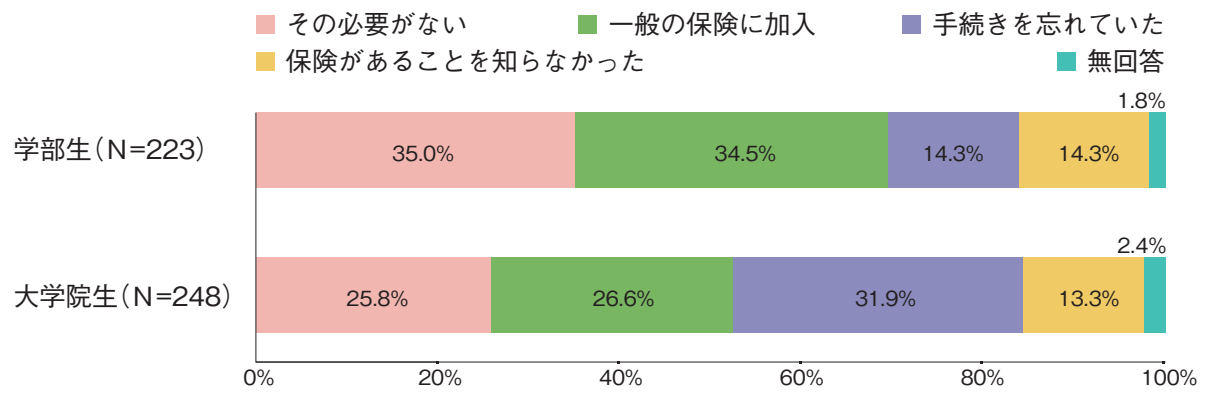


## (7) 学生教育研究災害傷害保険に加入していない理由

### 加入しない理由は学部生と院生で異なる

学生教育研究災害傷害保険に加入していない理由を前回(平成23年)、前々回(平成19年)と同じ選択肢で質問をしたところ、学部生は一般の保険に加入しており(34.5%)その必要がない(35.0%)学生が多く、大学院生は手続きを忘れていたことが最多でした(31.9%)。これらの傾向は前回と同様であり、学生教育研究災害傷害保険を知らない学生の割合は前回・前々回より減少していました。

(人)	調査数	その必要がない	一般の保険に加入	手続きを忘れていた	保険があることを知らなかった	無回答
学部生	223	78	77	32	32	4
大学院生	248	64	66	79	33	6



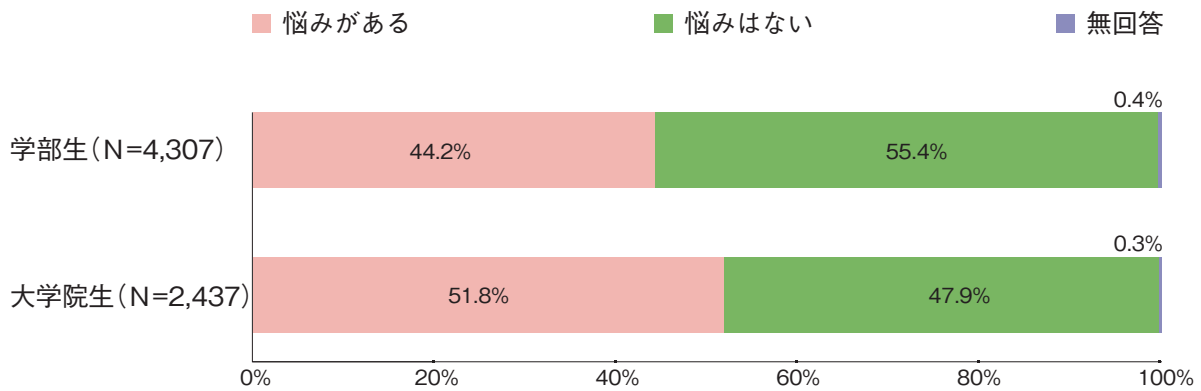
# 第5章 悩みについて

## (1) 悩みの有無

### ほぼ半数の学生が悩みを抱えている

学部生の44%、大学院生の52%が悩みを抱えている結果でした。前回(平成23年)の同じ質問では学部生の55%、大学院生の57%が悩みを抱えている結果でした。

(人)	調査数	悩みがある	悩みはない	無回答
学部生	4,307	1,905	2,386	16
大学院生	2,437	1,262	1,167	8

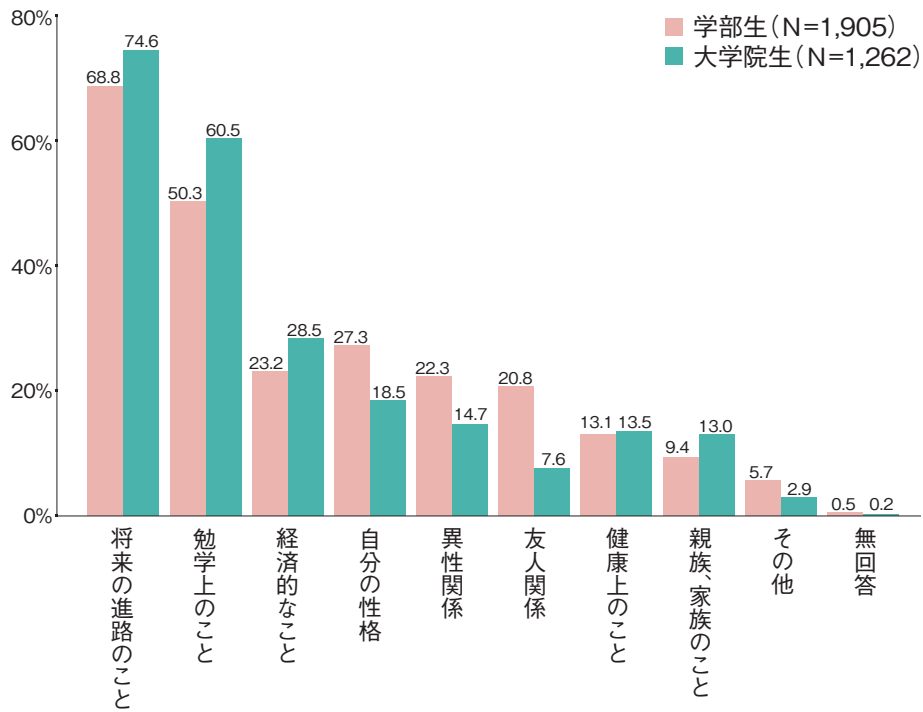


## (2) 悩みの内容

### 悩みの内容は前回同様で将来的なことが最多

どのようなことで悩んでいるかについての質問では、前回(平成23年)・前々回(平成19年)と同様で、「将来の進路のこと」が最多で、「勉学上のこと」が続いています。それ以下では今回「経済的なこと」が大学院生で多いのに対して、学部生では「自分の性格」や「異性・友人関係」も多いことがうかがえます。

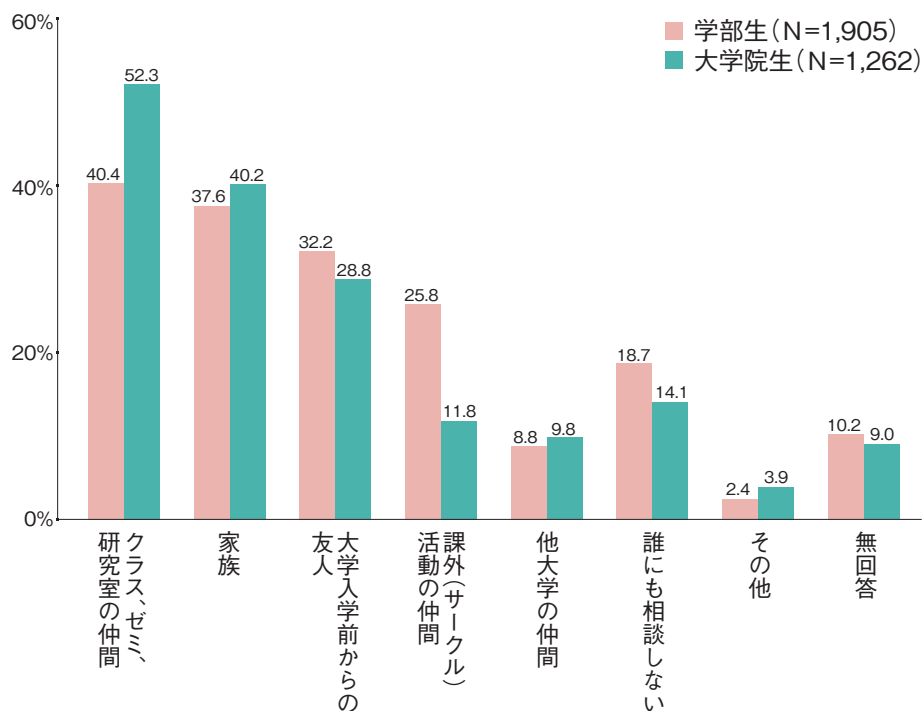
(人)	調査数	将来の進路のこと	勉学上のこと	経済的なこと	自分の性格	異性関係	友人関係	健康上のこと	親族、家族のこと	その他	無回答
学部生	1,905	1,310	959	442	520	425	396	249	180	109	9
大学院生	1,262	941	763	360	234	186	96	170	164	36	2



### (3) 悩みの相談先

悩みの相談先は、学部生・大学院生ともに「クラス・ゼミ・研究室の仲間」、「家族」、「大学入学前からの友人」の順でした。

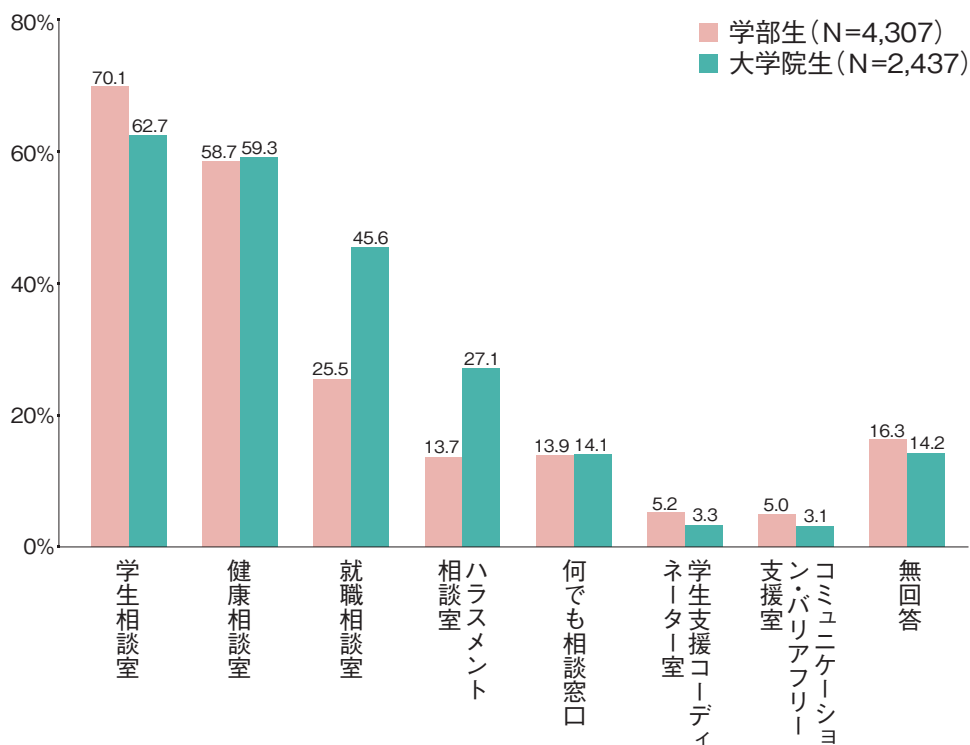
調査数 (人)	クラス、ゼミ、 研究室の仲間	家族	大学入学前 からの友人	課外(サークル) 活動の仲間	他大学の仲間	誰にも 相談しない	その他	無回答	
学部生	1,905	769	717	613	491	167	356	45	195
大学院生	1,262	660	507	364	149	124	178	49	114



## (4) 相談窓口の認知度

相談窓口の利用状況についての質問には相談窓口の認知度が影響することが前回分かりましたので、今回認知度について質問しました。学部生・大学院生ともに「学生相談室」と「健康相談室」の認知度が高い結果でした。また「就職相談室」と「ハラスメント相談室」は学部生より大学院生に認知度が高い結果となりました。

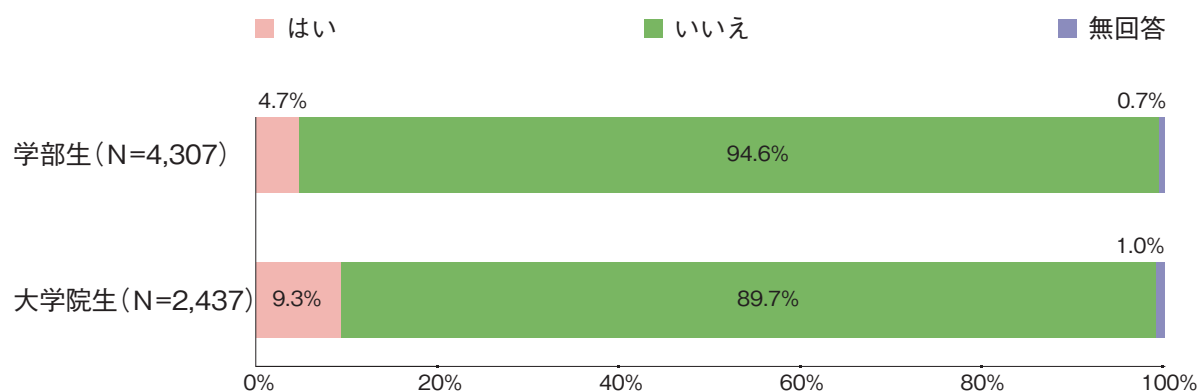
(人)	調査数	学生相談室	健康相談室	就職相談室	ハラスメント相談室	何でも相談窓口	学生支援 コーディネーター 室	コミュニケーション・ バリアフリー 支援室	無回答
学部生	4,307	3,021	2,527	1,100	592	598	225	216	704
大学院生	2,437	1,528	1,446	1,111	660	343	81	75	347



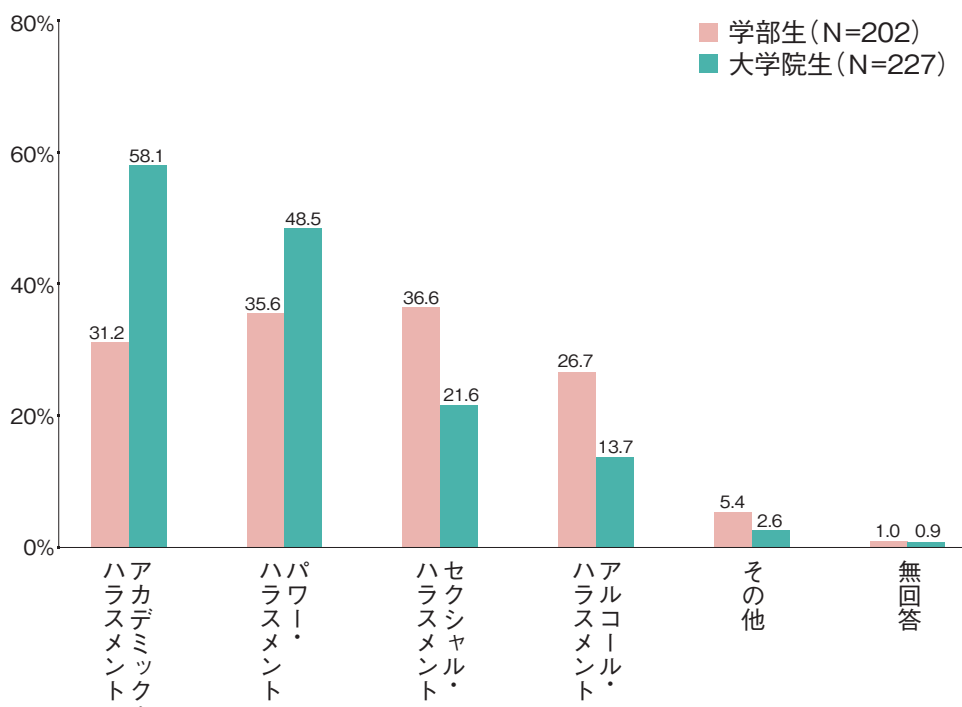
### (5-1) ハラスメントを受けた経験

今回学部生の202人、大学院生の227人(計429名)がハラスメントを受けた経験があるとの回答でした。大学院生ではアカデミック・ハラスメントやパワー・ハラスメントが大部分で、学部生ではセクシャル・ハラスメントやアルコール・ハラスメントも多い結果でした(重複あり)。前回「アカデミック・ハラスメントまたはパワー・ハラスメントを感じたことがある」学生は計164名、「セクシャル・ハラスメントを感じたことがある」学生が33名でした。学生生活実態調査への回答数自体が今回大きく増えていますので比較は困難です。

(人)	調査数	はい	いいえ	無回答
学部生	4,307	202	4,076	29
大学院生	2,437	227	2,186	24



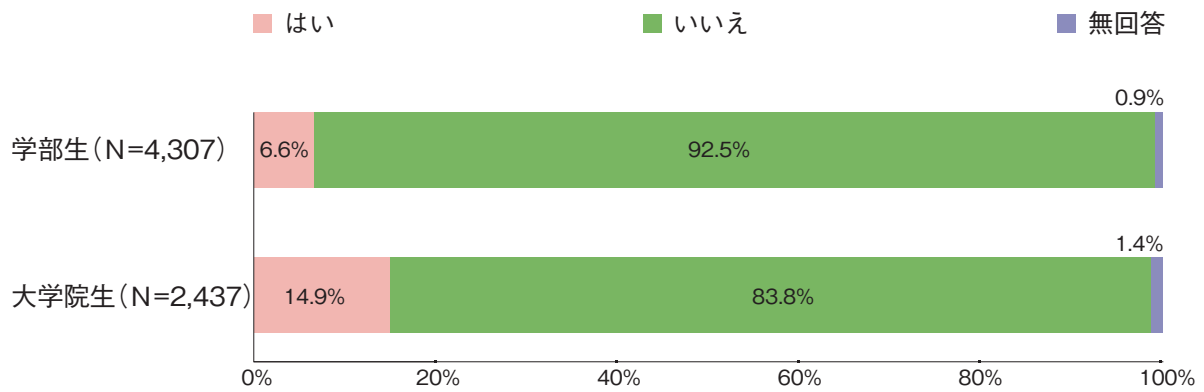
## (5-2) ハラスメントの種類



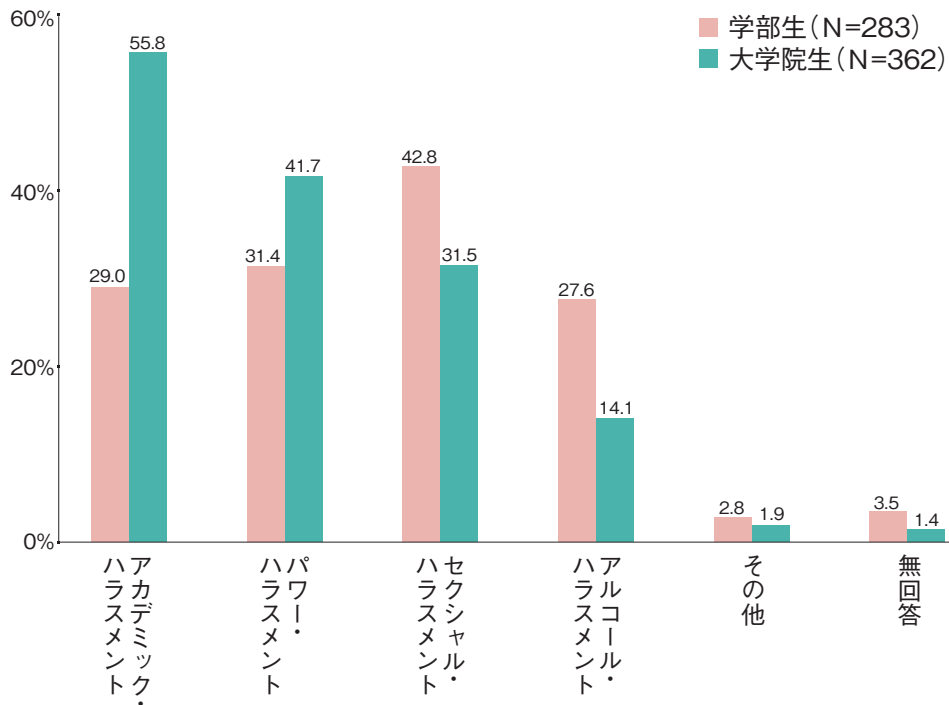
## (6-1) 他人がハラスメントを受けているのを見た経験

学部生の 283 人(前回調査で 201 名)、大学院生の 362 人(前回調査で 112 名)が、他人がハラスメントを受けているのを見たとの回答でした。他人が受けていたハラスメントの種類も自身が経験したことがあるハラスメントのそれと同じ傾向でした(重複あり)。

(人)	調査数	はい	いいえ	無回答
学部生	4,307	283	3,986	38
大学院生	2,437	362	2,041	34



(6-2) 他人が受けていたハラスメントの種類





### (6-3) ハラスメントの状況について

ハラスメントを自身が感じたり、他人が受けているのを見たりした状況に関する自由記述では、残念ながら本学でも複数のキャンパスで、いくつか報告がありました。

教員が関係する事例としてサークル活動でのアルコールハラスメントや、ゼミでの卒論指導や学位指導におけるアカデミックハラスメント、女性研究者に対するマタニティハラスメントなど内容はさまざまです。

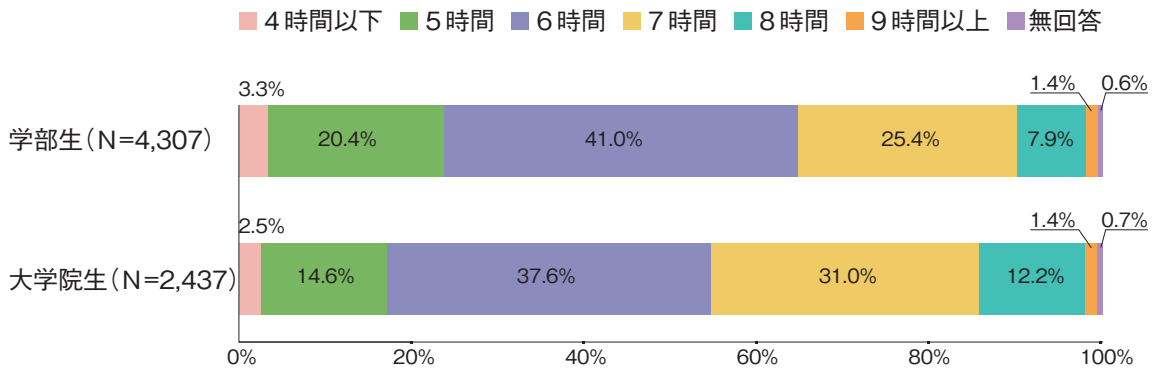
総じて学生側も教員側も余裕が少なくなっている背景が浮かび上がってきます。しかし中にはアルバイト先での過重勤務や学生どうし(先輩から後輩へ、または異性間)のハラスメントもあり、これらに対しても注意喚起が必要であると考えられます。

# 第6章 生活について

## (1) 睡眠時間

多くの学生の睡眠時間は5-7時間という結果で、前回と大きな変化は見られませんでした。

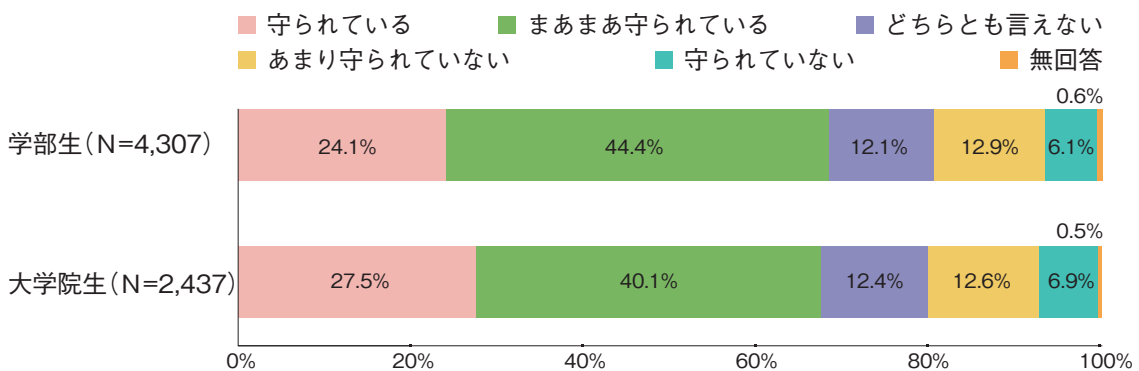
(人)	調査数	4時間以下	5時間	6時間	7時間	8時間	9時間以上	無回答
学部生	4,307	143	878	1,764	1,096	340	61	25
大学院生	2,437	60	357	916	755	297	35	17



## (2) 平日の起床時間のリズム

平日の起床時間のリズムは学部生・大学院生ともに過半数でほぼ守られているという結果でした。

(人)	調査数	守られている	まあまあ守られている	どちらとも言えない	守られていない	あまり守られていない	無回答
学部生	4,307	1,037	1,911	519	554	262	24
大学院生	2,437	671	978	303	306	167	12

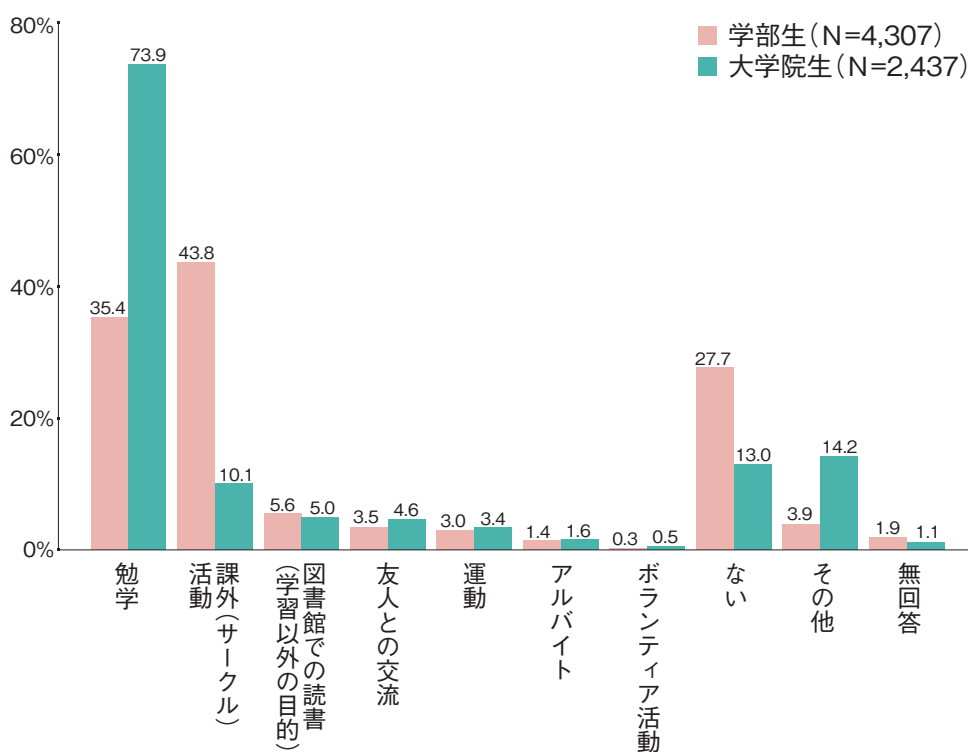


### (3) 土日祝日に学校に行く理由

#### 学部生はサークルで、大学院生は勉学で

休日に登校する理由は勉学と課外(サークル)活動に大きく分かれ、学部生は課外(サークル)活動が多く、大学院生は勉学が多い結果でした。これらは前回の結果と同様でしたが、「友人との交流」は今回減少していました。

(人)	調査数	勉学	課外(サークル)活動	図書館での読書(学習以外の目的)	友人との交流	運動	アルバイト	ボランティア活動	ない	その他	無回答
学部生	4,307	1,526	1,886	240	150	131	61	11	1,192	167	80
大学院生	2,437	1,800	246	123	113	82	40	11	316	347	26

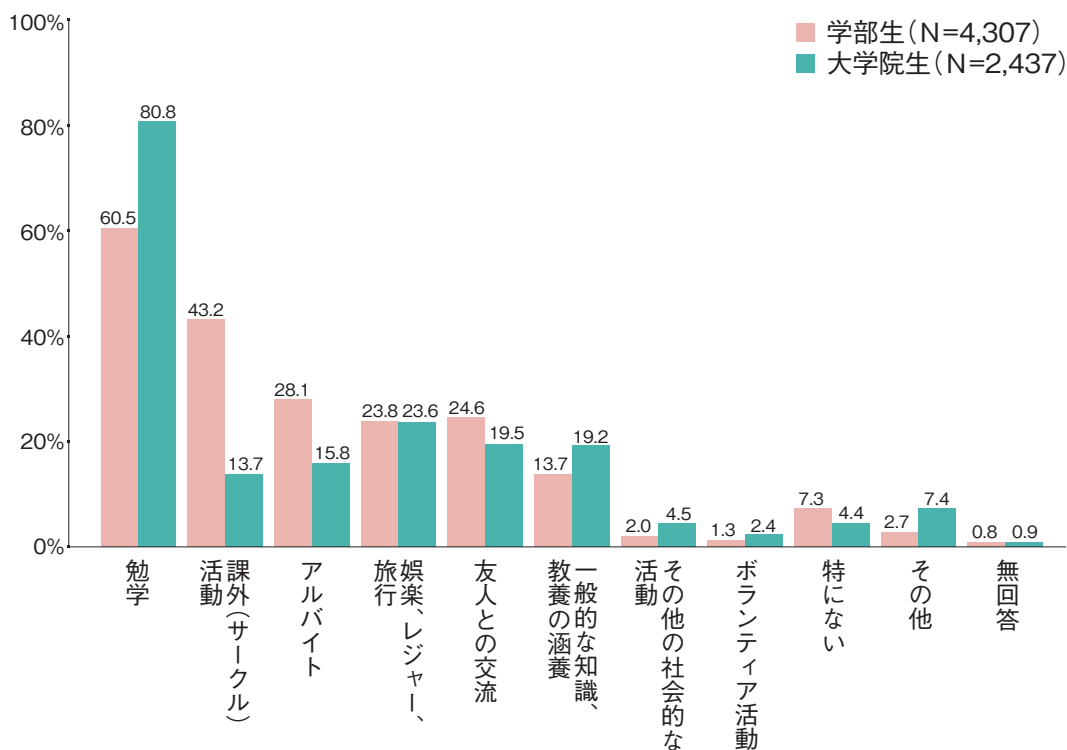


### (4) 現在、力を入れていること

#### 勉学が第一

学部生・大学院生ともに勉学がトップで、前回・前々回と同様でした。ついで学部生は課外(サークル)活動、アルバイトと続くのに対して、大学院生では娯楽・レジャー・旅行、友人との交流、知識・教養の涵養が続いています。

	調査数 (人)	勉学	課外(サークル)活動	アルバイト	娯楽、レジャー、旅行	友人との交流	一般的な知識、教養の涵養	その他の社会的な活動	ボランティア活動	特にない	その他	無回答
学部生	4,307	2,606	1,861	1,212	1,025	1,060	592	84	57	315	115	34
大学院生	2,437	1,970	334	384	576	474	468	109	59	107	181	23

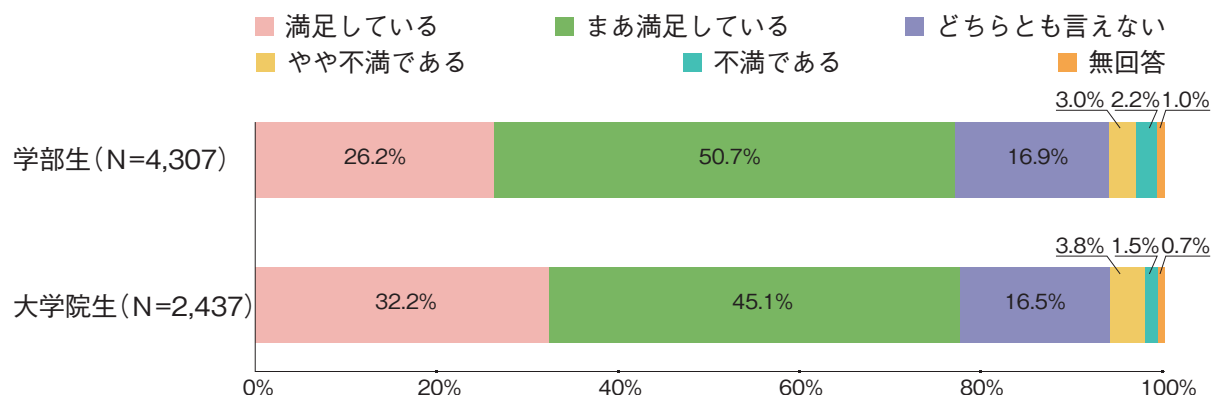


### (5) 大学生生活の満足度

#### 7割以上が満足・まあまあ満足

「満足している」と「まあまあ満足している」を合わせると学部生が76.9%、大学院生が77.4%となり、ともに約4分の3の学生が大学生生活におおむね満足している状況がうかがえました。前回・前々回は特定の相談窓口(学習相談、生活相談、健康相談など)や支援サービス(就職支援、課外活動支援など)に対する満足度調査でしたので、それらの認知度が結果に大きく影響していました。

	調査数 (人)	満足している	まあまあ満足している	どちらとも 言えない	やや不満である	不満である	無回答
学部生	4,307	1,128	2,184	728	131	93	43
大学院生	2,437	788	1,100	402	93	36	18



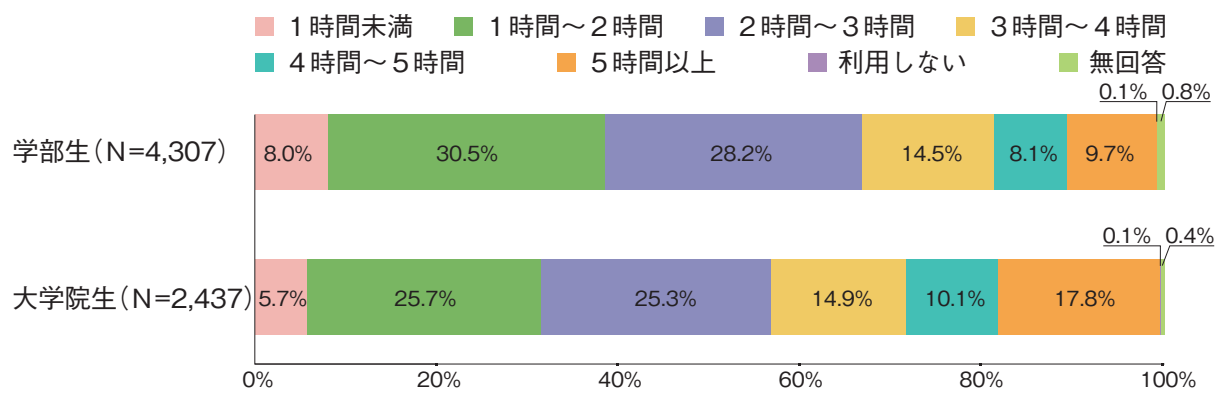
## (6) 大学生生活に不満な点

大学生生活の不満な点について、特に①大学の環境や支援の面、②自身の生活面、③対人関係に関する意見が多く寄せられました。①の中で大学の環境面(ハードの面)についての不満は、移転が進む伊都キャンパスの立地や施設、老朽化した箱崎キャンパスの設備に関する具体的なものでした。一方で大学の修学や就職、健康面での支援(ソフトの面)にも改善を望む声が多々ありました。本学はキャンパスが分散していることから、カリキュラムもより柔軟に組む必要があるようです。就職活動への支援は早めに充実させるべきでしょう。②の生活面の不満は都心へのアクセスや通学費、周辺施設(商業施設、娯楽施設、アルバイト先など)についてのものでした。③の対人的な面に関しては教職員(研究室での指導、授業方針や授業内容、相談時の対応など)、友人(向上心や学習意欲の低さ、または友人が出来ないということ)、さらには自分自身(自身の性格や交友関係)に対する不満もありました。また留学生からの英語による記述(日本人学生の内向性、英語による授業の少なさなど)に対しても謙虚に耳を傾けるべきと感じました。

## (7) 1日のインターネットの使用時間

一日のインターネットの使用時間は学部生・大学院生ともに1-3時間の学生が最も多い結果でした。3時間以上利用する学生は学部生で32.3%、大学院生で42.8%でした。インターネットの使用目的は別として使用時間は大学院生の方が相対的に長い結果でした。

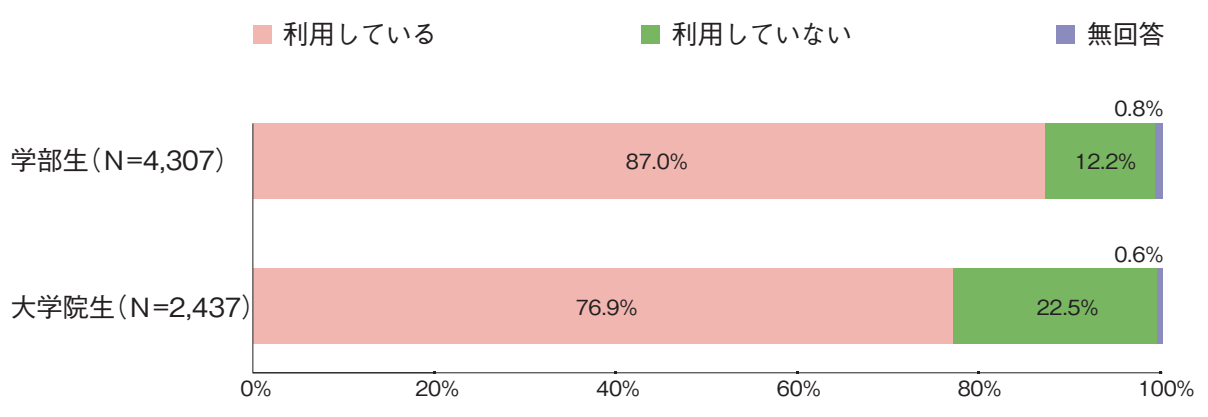
(人)	調査数	1時間未満	1時間～2時間	2時間～3時間	3時間～4時間	4時間～5時間	5時間以上	利用しない	無回答
学部生	4,307	343	1,315	1,215	626	350	418	6	34
大学院生	2,437	139	627	616	363	246	434	2	10



### (8) SNSの利用状況

SNS を利用している学生は学部生で 87%、大学院生で 77% となり、学部生の方が相対的に多い結果でした。

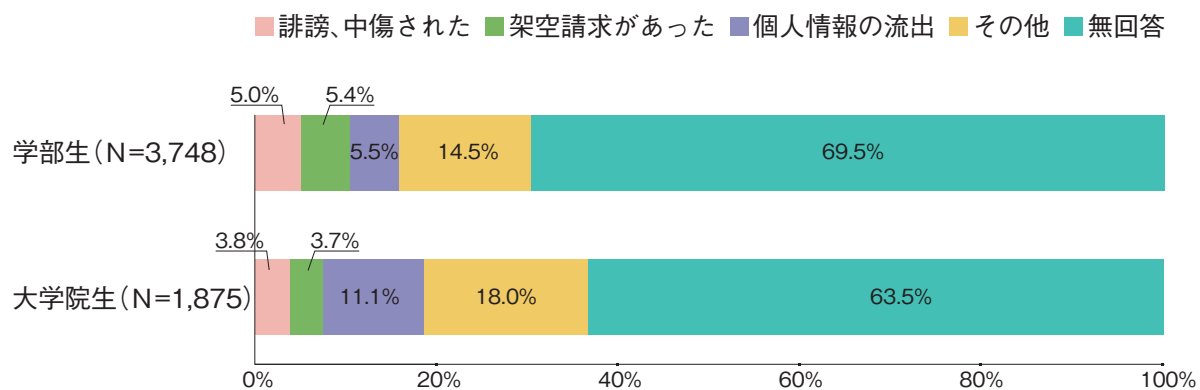
(人)	調査数	利用している	利用していない	無回答
学部生	4,307	3,748	524	35
大学院生	2,437	1,875	548	14



## (9) SNSの利用で危険な(嫌な)思いをした経験

SNSを利用して何らかの危険な(嫌な)思いをした学生は学部生で30.4%、大学院生で36.6%でした。危険な(嫌な)思いの内容では具体的な事例(誹謗中傷・架空請求・個人情報の流出など)以外の「その他」が最も多い結果ですし、無回答であった学生の心の中も気になります。

(人)	調査数	誹謗、中傷された	架空請求があった	個人情報の流出	その他	無回答
学部生	3,748	189	203	208	544	2,604
大学院生	1,875	71	69	208	337	1,190



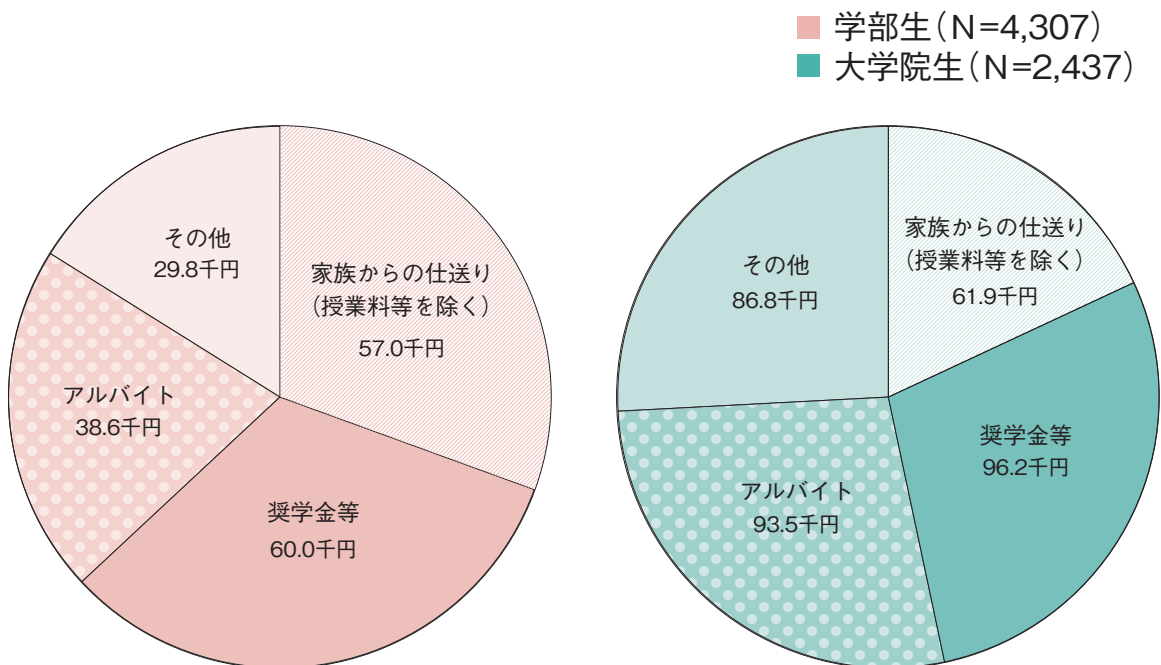
# 第7章 収入・支出について

## (1-1) 1か月の平均収入額(平均金額)

### 家族からの仕送り額は同じでも、大学院生の総収入は学部生の1.8倍

1か月の平均収入金額における授業料等を除いた家族からの仕送りは、学部学生が57.0千円、大学院生が61.9千円でほぼ同額であるのに対し、収入総額は、学部学生が185.4千円、大学院生が338.4千円でした。これは、大学院生の奨学金、アルバイト、その他による収入が学部学生と比べて、著しく高いことによります。

(千円)	家族からの仕送り (授業料等を除く)	奨学金等	アルバイト	その他	合計
学部生	57.0	60.0	38.6	29.8	185.4
大学院生	61.9	96.2	93.5	86.8	338.4





【参考】平成23年度調査報告書との比較(千円)

(千円)	奨学金等 (学部)	奨学金等 (院生)	アルバイト (学部)	アルバイト (院生)
平成 23 年	239.7	61.5	38.74	27.32
平成 27 年	59.95	96.15	38.63	93.45

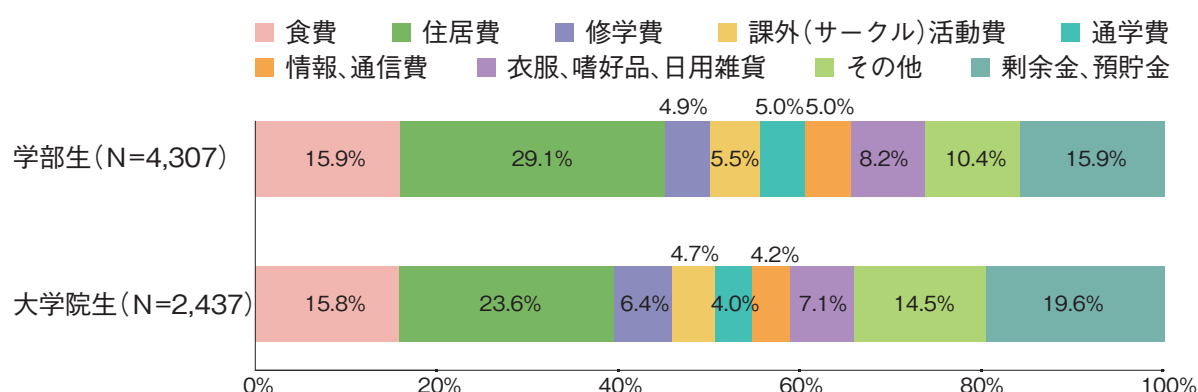
学部生の奨学金等収入が約 4 分の 1 に  
院生のアルバイト収入が約 3 倍に

(1-2) 1 か月の平均支出額(構成比)

各支出費目の構成比は、学部学生と大学院生で大きな違いはない

各支出費目の構成比は、学部学生と大学院生で大きな違いはありませんでした。例えば毎日の生活に必要な基礎支出費(食費、住居費)の構成比は、学部学生が 45.0%、大学院生が 39.4%でした。ただし、金額で比較した場合、大学院生の平均収入が学部学生のその約 1.8 倍にあたることから、基礎支出費は学部学生が 83,400 円であるのに対し、大学院生は 133,300 円で、学部学生の約 1.6 倍となっており、食費に限れば、学部学生の 29,500 円に対して、大学院生は 53,500 円を支出しており、食生活における差異が認められました。

(%)	食費	住居費	修学費	課外(サークル)活動費	通学費	情報、通信費	衣服、嗜好品、日用雑貨	その他	剰余金、預貯金
学部生	15.9	29.1	4.9	5.5	5.0	5.0	8.2	10.4	15.9
大学院生	15.8	23.6	6.4	4.7	4.0	4.2	7.1	14.5	19.6

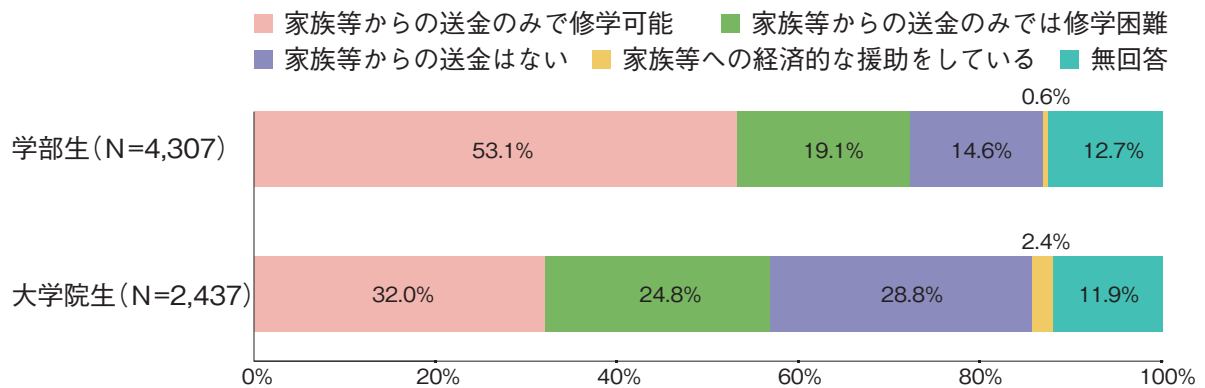


## (2) 家族等からの送金と修学との関係

### 大学院生は学部学生と比べて経済的自立の傾向が強い

学部学生の53.1%が家族等からの送金のみで修学可能な状況にあり、大学院生では32.0%でした。一方で、28.8%の大学院生が「家族からの送金はない」状況で修学しており、学部学生の14.6%と比較して、自立の傾向が強いことがうかがえます。

(人)	調査数	家族等からの送金のみで修学可能	家族等からの送金のみでは修学困難	家族等からの送金はない	家族等への経済的な援助をしている	無回答
学部生	4,307	2,287	822	627	25	546
大学院生	2,437	780	605	702	59	291



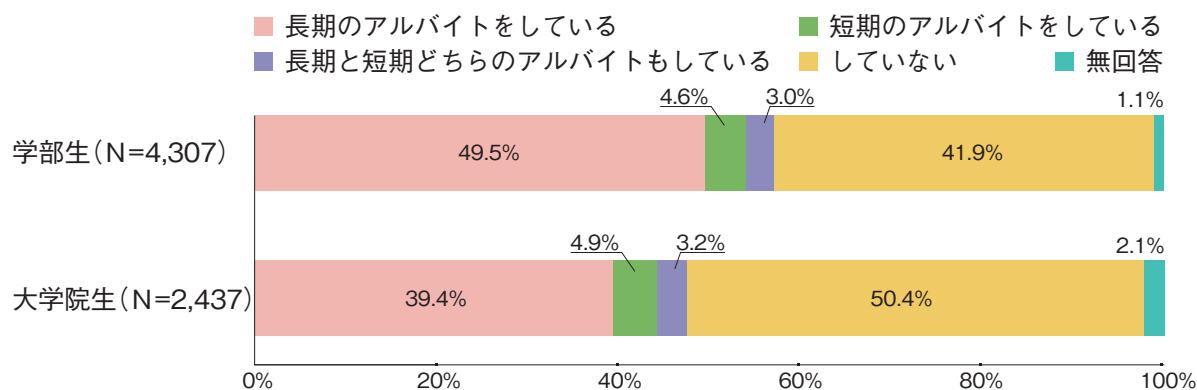
## 第8章 アルバイトについて

### (1) アルバイトの状況

#### アルバイトとの関係は2極化が進んでいる

アルバイトを「していない」学生は学部で41.9%、大学院で50.4%であり、これは前回調査時(平成23年度)と比較してほぼ同じ割合でした。一方、「長期のアルバイトをしている」学生は、学部で49.5%、大学院で39.4%を占め、前回調査時(学部生36.0%、大学院生26.9%)に比べ大きく伸びています。このように、アルバイトとの関係は2極化が進んでいるようです。

(人)	調査数	長期のアルバイトをしている	短期のアルバイトをしている	長期と短期どちらのアルバイトもしている	していない	無回答
学部生	4,307	2,132	196	128	1,803	48
大学院生	2,437	960	119	78	1,228	52

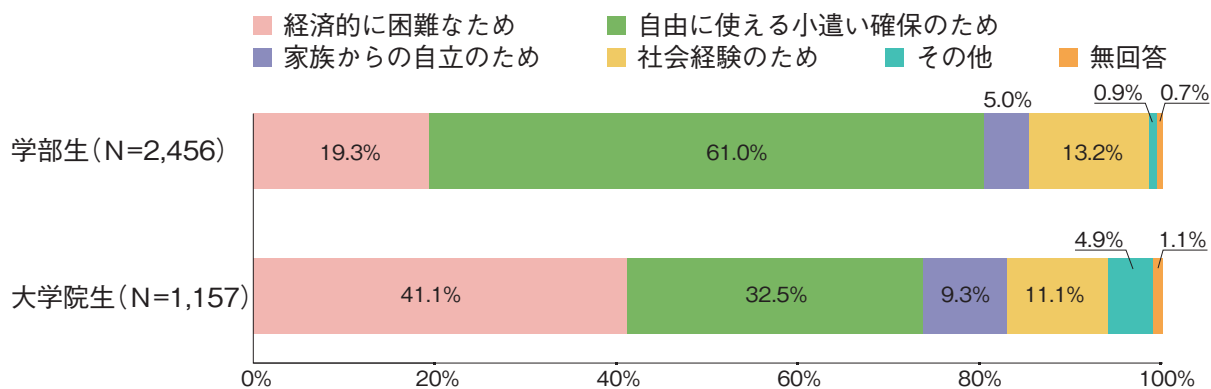


### (2-1) アルバイトをしている理由

#### 大学院生は「経済的に困難なため」の回答が増加

アルバイトをしている理由については、学部生では「自由に使える小遣い確保のため」が最も多く(61.0%)、次が「経済的に困難なため」の19.3%でした。一方、大学院生では「経済的に困難なため」が41.1%で最も多く、「自由に使える小遣い確保のため」の32.5%が次に続きます。前回調査時(平成23年度)には、大学院生でも「自由に使える小遣い確保のため」が最も多い回答でした。このように、大学院生では「経済的に困難なため」の回答割合が高くなったことが特徴的である。

	調査数 (人)	経済的に困難なため	自由に使える 小遣い確保のため	家族からの自立のため	社会経験のため	その他	無回答
学部生	2,456	475	1,498	122	324	21	16
大学院生	1,157	475	376	108	128	57	13

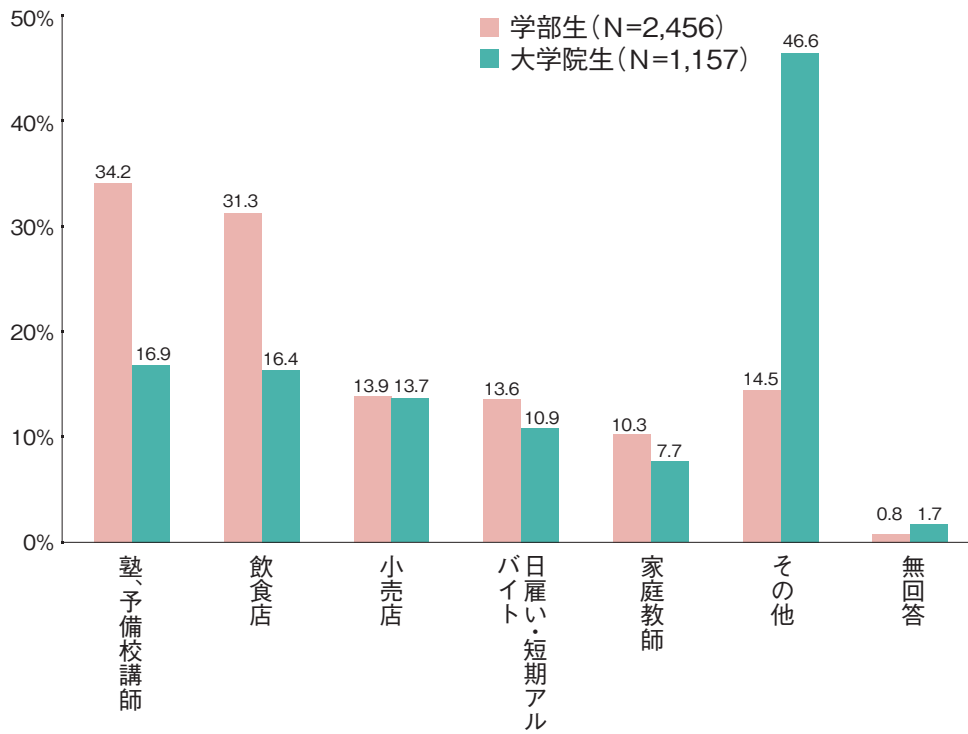


## (2-2) アルバイトの職種

### 教育関連と販売サービスが中心

「その他」を除くと、学部生、大学院生ともに「塾・予備校講師」が最も高い割合を占め、「飲食店」がそれに次いでいます。しかし、「飲食店」、「小売店」を一括して「販売サービス」とした場合、学部生、大学院生ともに「販売サービス」が最も高くなっています。大学院生では、「その他」の46.5%が特徴的で、多様な職種(特殊技能、調査・技術、研究・学会運営の補助等)がうかがえます。

	調査数 (人)	塾、 予備校講師	飲食店	小売店	短期 日雇い・ アルバイト	家庭教師	その他	無回答
学部生	2,456	839	768	341	333	252	355	19
大学院生	1,157	195	190	159	126	89	539	20

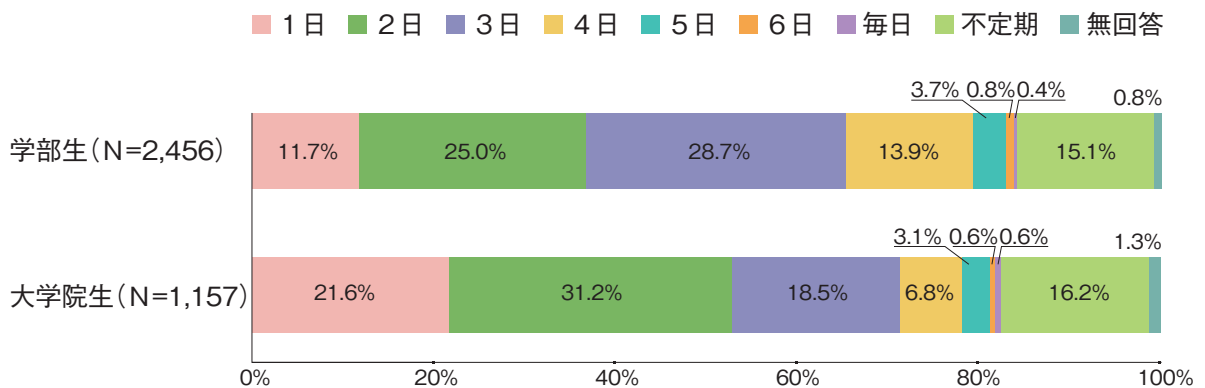


## (2-3) 1週間の勤務日数

### 大学院生に比べ学部学生の勤務日数が多い

「不定期」を除いた場合、学部生では3日(28.7%)が最も多く、2日(25.0%)、4日(13.9%)と続きます。一方、大学院生では2日(31.2%)が最も多く、1日(21.6%)、3日(18.5%)と続きます。また、4日以上毎日の合計では、学部生が18.8%、大学院生が11.1%でした。このように、大学院生に比べ学部生の勤務日数が多い傾向にあります。

調査数 (人)	1日	2日	3日	4日	5日	6日	毎日	不定期	無回答
学部生	287	613	704	341	92	19	10	371	19
大学院生	250	361	214	79	36	7	7	188	15

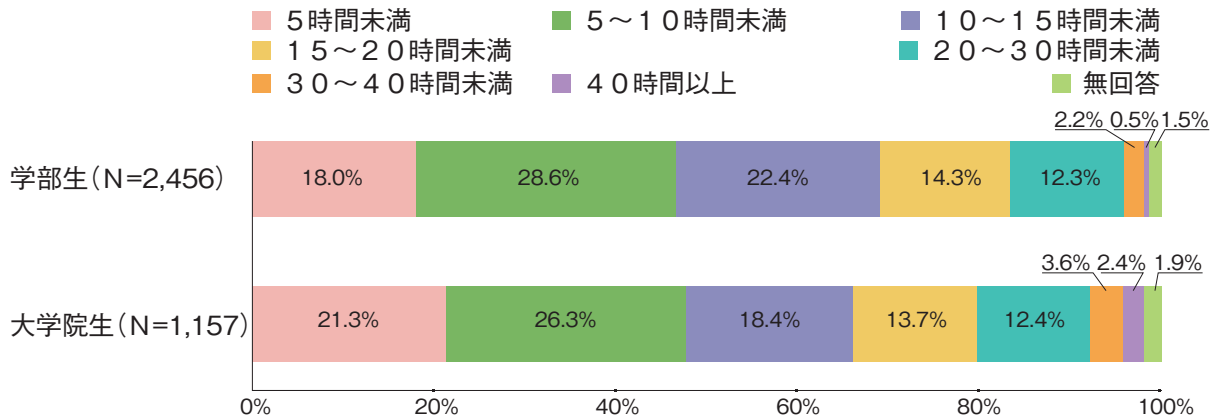


## (2-4) 1週間のアルバイト時間

### 学部生と大学院生のアルバイト時間はほぼ同じ。 7割弱が週15時間未満

1週間のうちの就労時間が15時間までの合計は、学部学生が69.0%、大学院生が66.0%で、7割弱の学生が15時間未満の就労となっていました。また、15-30時間でも、学部学生が26.6%、大学院生が26.1%と、両者でほぼ同じ割合を占めています。前回調査時(平成23年度)では、10時間までの合計が学部学生で62.4%、大学院生で64.0%と6割を超えていたので、この4年間で学部学生、大学院生ともにアルバイト時間がやや増加している傾向にあります。

(人)	調査数	5時間未満	未5満 10時間	未10満 15時間	未15満 20時間	未20満 30時間	未30満 40時間	40時間以上	無回答
学部生	2,456	443	703	551	352	303	54	13	37
大学院生	1,157	246	304	213	158	144	42	28	22

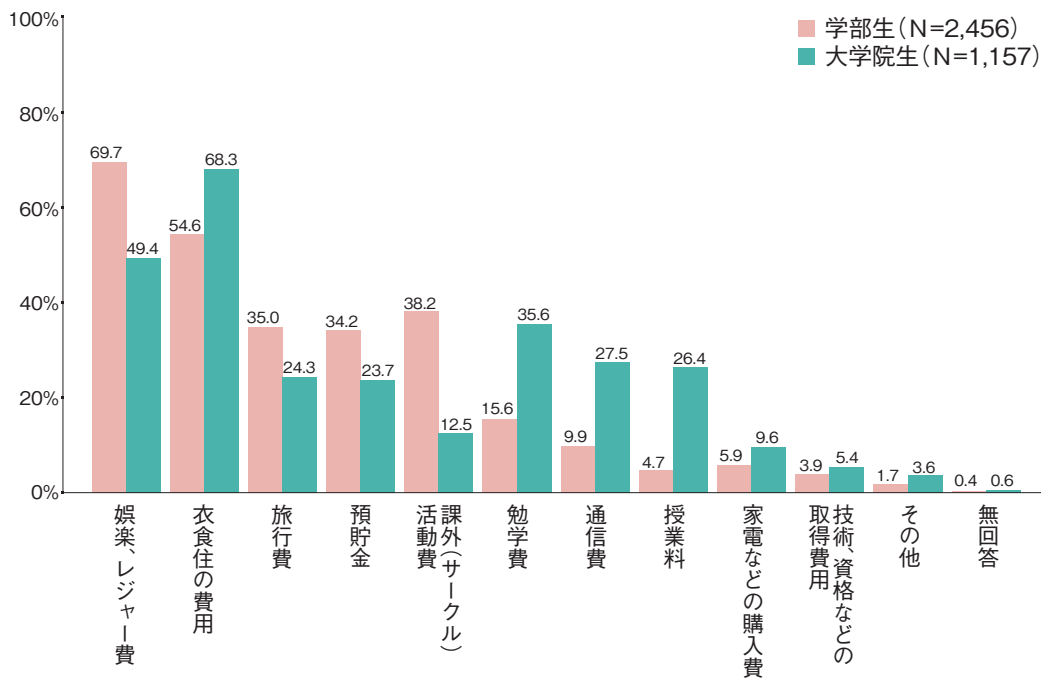


## (2-5) アルバイト収入の使い道

### アルバイト収入の使い道は、学部生と大学院生とで異なっている

学部生、大学院生ともに「娯楽、レジャー費」という余暇と「衣食住の費用」という生活への使途の割合が高くなっています。学部生では「娯楽、レジャー費」、「旅行費」、「預貯金」、「課外(サークル)活動費」等が大学院生に比べ高い比率を示す一方で、大学院生では「衣食住の費用」、「勉学費」、「通信費」、「授業料」等の比率が学部生より高く、両者の生活様式の差を反映していると考えられます。

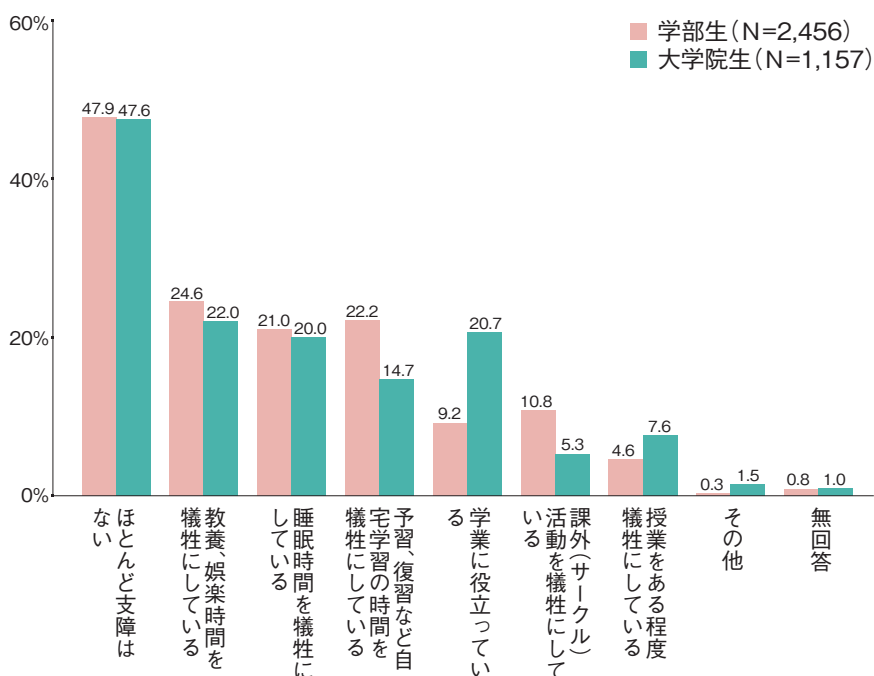
(人)	調査数	レジャー、 娯楽、 レジャー費	衣食住の 費用	旅行費	預貯金	課外(サークル) 活動費	勉学費	通信費	授業料	家電などの 購入費	技術、資格な どの取得費用	その他	無回答
学部生	2,456	1,713	1,342	859	841	938	382	242	115	145	95	41	10
大学院生	1,157	571	790	281	274	145	412	318	305	111	63	42	7



## (2-6) アルバイトと学業の関係

学部生、大学院生ともに5割弱の学生が「ほとんど支障はない」と回答し、最も大きな割合を占めました。一方で、2割前後の学部生、大学院生が「教養、娯楽時間」、「睡眠時間」、「予習、復習など自宅学習の時間」を犠牲にしている、と回答しました。「ほとんど支障はない」は前回調査時(平成23年度)でも最も多い回答でした。

調査数 (人)	ほとんど支障はない	教養、娯楽時間を犠牲にしている	睡眠時間を犠牲にしている	予習、復習など自宅学習の時間を犠牲にしている	学業に役立つしている	課外(サークル)活動を犠牲にしている	授業のある程度犠牲にしている	その他	無回答	
学部生	2,456	1,177	603	516	546	226	265	112	8	19
大学院生	1,157	551	254	231	170	240	61	88	17	12

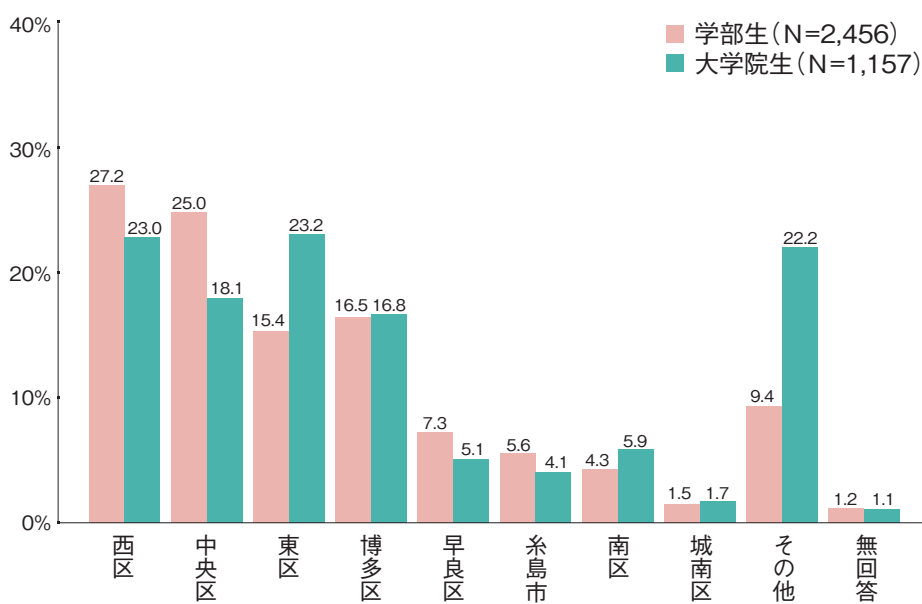


## (2-7) アルバイトの勤務地

### アルバイト勤務地の違いは大学移転を反映している

学部生は、西区、中央区、博多区、東区の順に多く、一方、大学院生は、東区、西区、その他、中央区、博多区の順に多いことがわかりました。これは、今回の調査時(平成27年10月)が大学移転中のこともあり、学部生と大学院生の居住地の違いをある程度反映しているものと考えられます。

(人)	調査数	西区	中央区	東区	博多区	早良区	糸島市	南区	城南区	その他	無回答
学部生	2,456	669	614	378	405	180	137	105	36	232	30
大学院生	1,157	266	209	268	194	59	47	68	20	257	13





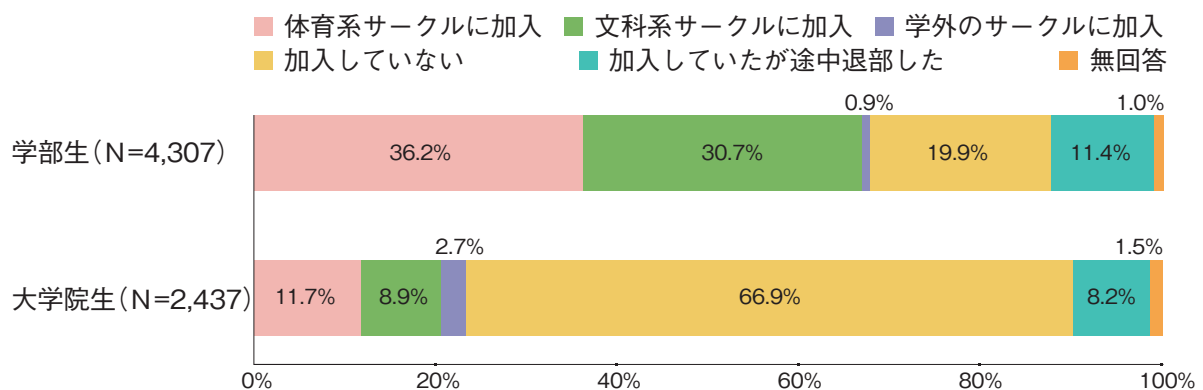
## 第9章 課外活動(サークル、ボランティア)について

### (1)サークル(課外活動)への参加状況

#### 学部生の7割弱、大学院生の2割ほどがサークルに参加

サークルへの参加状況を見ると、学部生は加入者が7割弱で、加入率は高いといえます。その内訳は、体育系(36.2%)、文科系(30.7%)、学外(0.9%)となっています。おおむね、学部生のサークル活動への参加状況は良好といえましょう。しかし、大学院生の場合、加入していないが3分の2ほどに達し加入状況は低いといえます。平成23年調査と比べると、学部生の加入割合は横ばいで、大学院生は低下(約3割→2割)しているといえます。

(人)	調査数	体育系サークル に加入	文科系サークル に加入	学外のサークル に加入	加入していない	加入していたが 途中退部した	無回答
学部生	4,307	1,558	1,321	39	857	491	41
大学院生	2,437	286	217	66	1,631	201	36

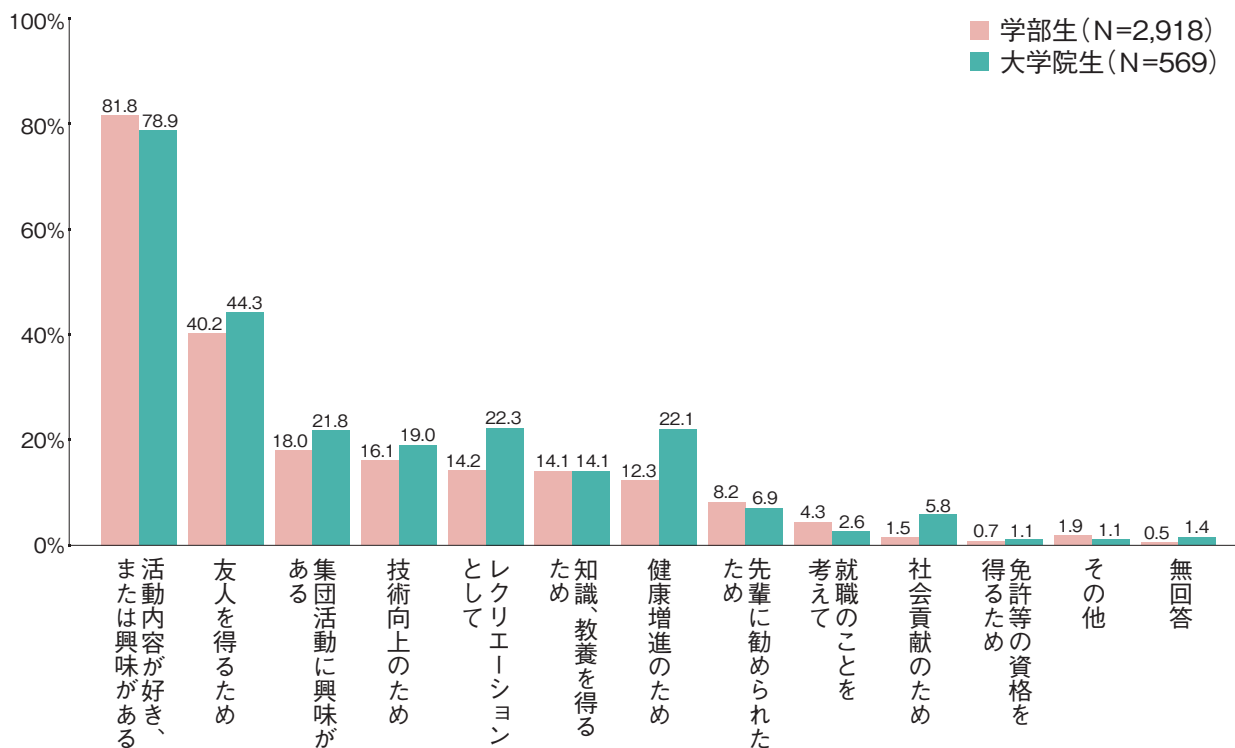


### (2-1)サークルに加入した主な理由

#### サークルへの加入理由は「活動内容が好き、興味がある」が多い

サークルに加入した理由については、学部生、大学院生ともに、「活動内容が好き、または興味がある」が8割前後に達して最も高く、次いで、「友人を得るため」が4割前後の順でした。このように、自らの好みや興味を反映した加入理由となっています。

	調査数 (人)	活動内容が好き、 または興味がある	友人を得るため	集団活動に興味がある	技術向上のため	レクリエーションとして	知識、教養を得るため	健康増進のため	先輩に勧められたため	就職のことを考えて	社会貢献のため	免許等の資格を得るため	その他	無回答
学部生	2,918	2,386	1,172	525	470	414	410	358	239	125	43	19	56	14
大学院生	569	449	252	124	108	127	80	126	39	15	33	6	6	8

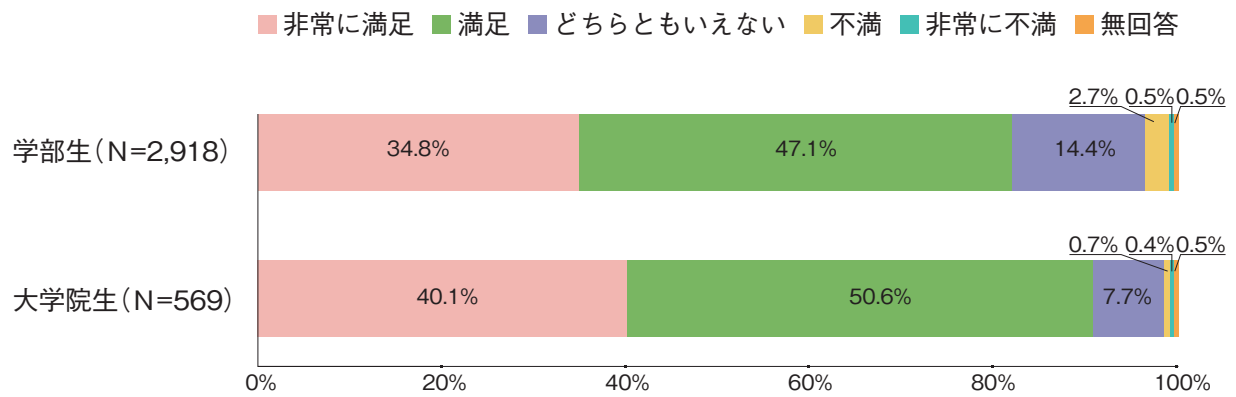


## (2-2) サークルの満足度

### サークルへの満足度は高い

前述のように、サークル加入の理由が好みや興味を反映したものであるため、満足度を尋ねても、「満足」(学部生 47.1%、大学院生 50.6%)の割合が最も高く、次いで「非常に満足」(学部生 34.8%、大学院生 40.1%)の順で、「不満」および「非常に不満」を足しても、その割合は3%程度と少ない点に特徴がみられます。

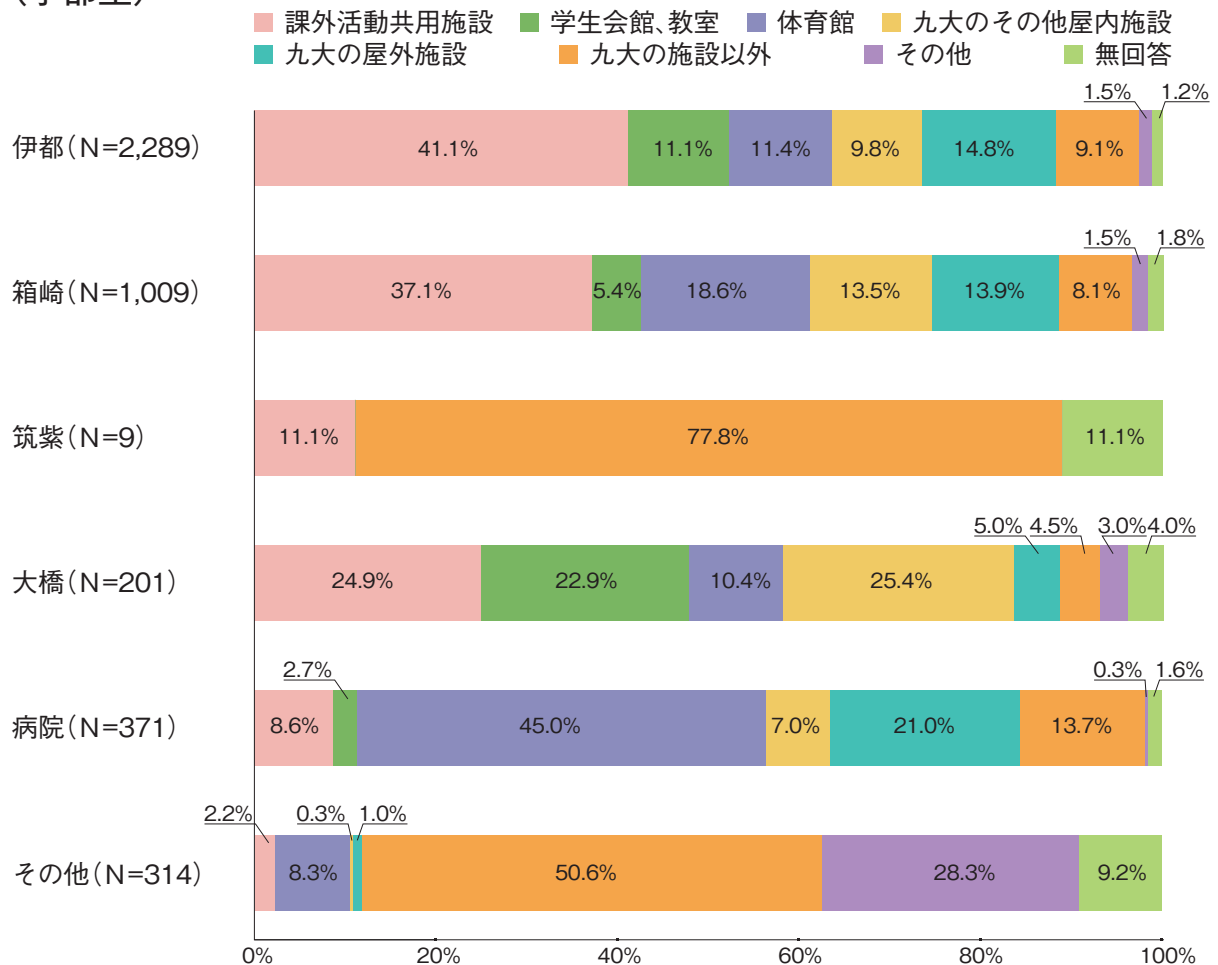
	調査数 (人)	非常に満足	満足	どちらとも いえない	不満	非常に不満	無回答
学部生	2,918	1,015	1,373	421	79	15	15
大学院生	569	228	288	44	4	2	3



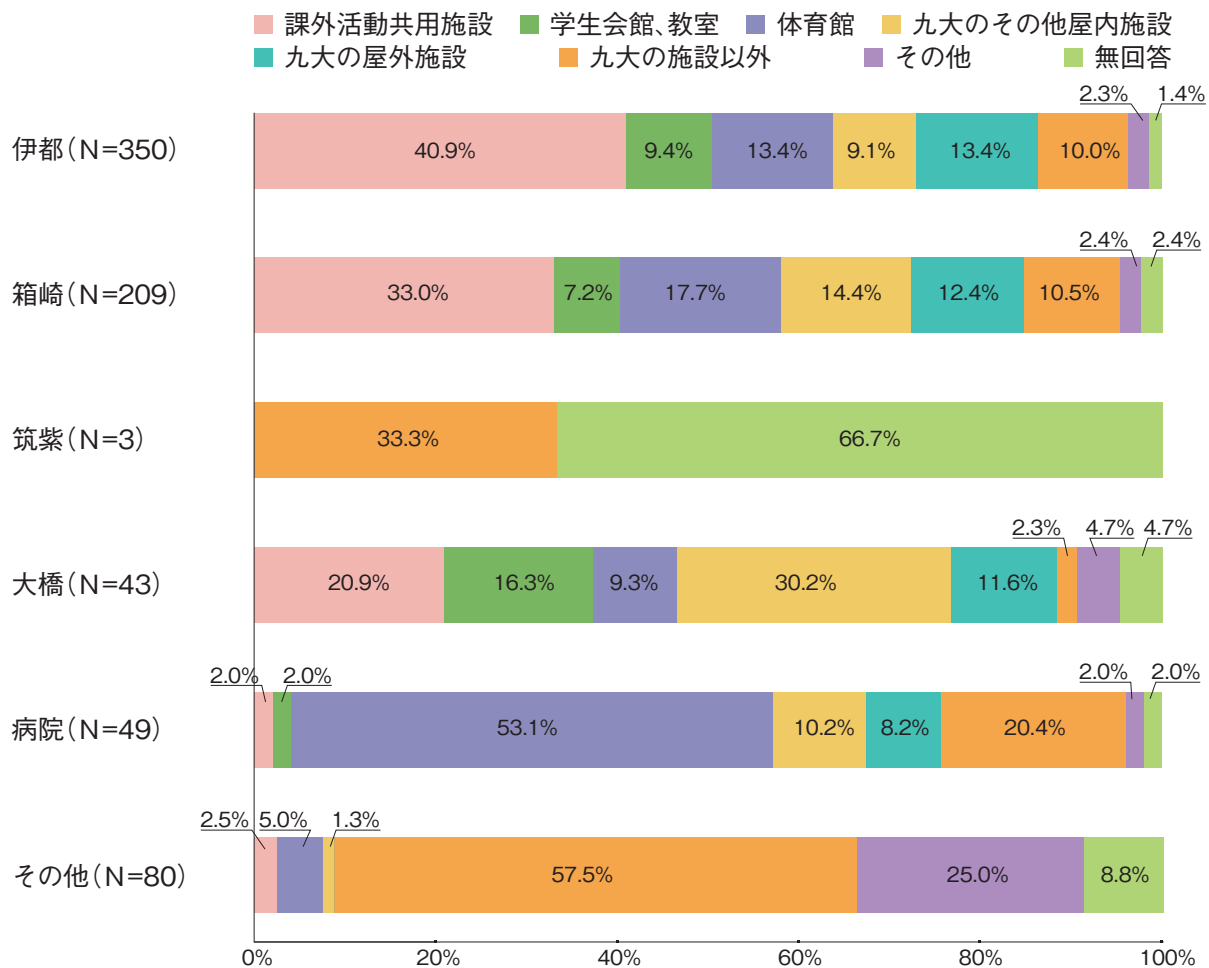
### (2-3) サークル活動の場所

次に、活動の場所をみると、概ね、学内の施設で活動が行われているようです。サークルの活動内容やキャンパスにおける施設の配置によって活動場所が異なりますが、伊都地区と箱崎地区では課外活動共用施設、大橋地区では九大のその他屋内施設、筑紫地区では学外施設、病院地区では体育館が、それぞれ最も多い活動の場所となっています。

#### (学部生)



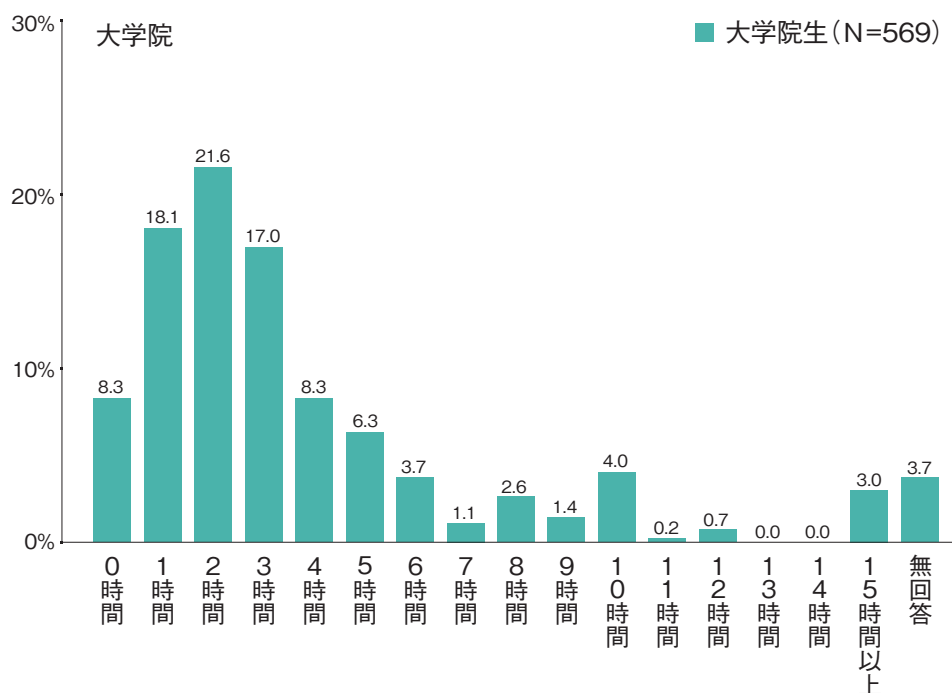
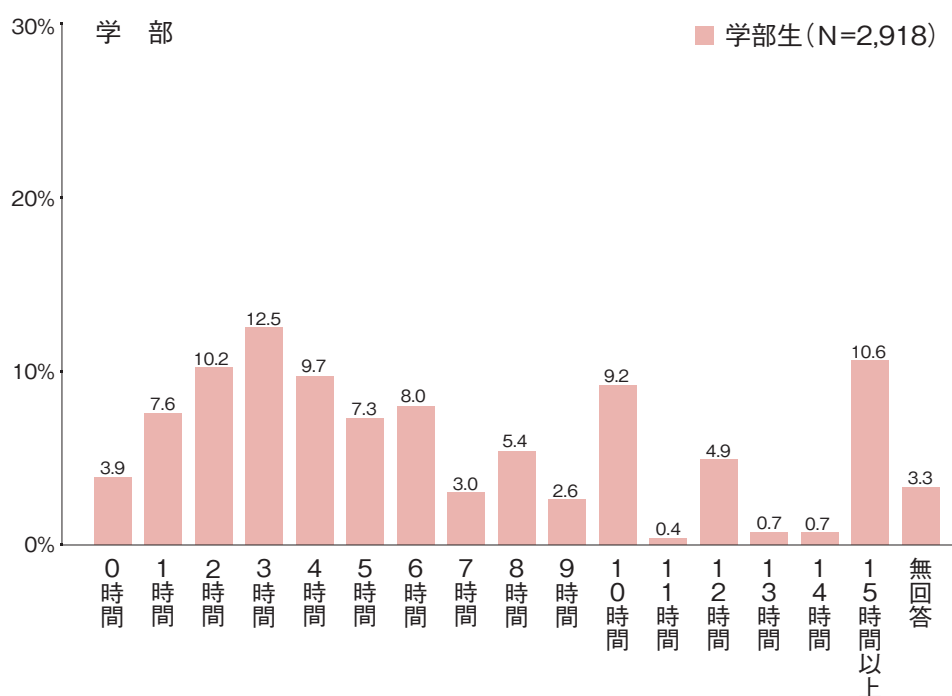
(大学院生)



## (2-4) 1週間あたりのサークル活動時間

活動時間では、学部生では3時間、大学院生では2時間が最も多く、おおむね、1-4時間に集中しているようですが、学部生のなかには週に10時間以上の活動を行っているサークルも見られるため、平均では学部生が7.0時間、大学院生が3.3時間となっていて、学部生の方が2倍ほど長くなっています。

(人)	調査数	0時間	1時間	2時間	3時間	4時間	5時間	6時間	7時間	8時間	9時間	10時間	11時間	12時間	13時間	14時間	15時間以上	無回答
学部生	2,918	115	223	297	364	283	213	233	88	159	77	267	12	143	19	20	310	95
大学院生	569	47	103	123	97	47	36	21	6	15	8	23	1	4	-	-	17	21

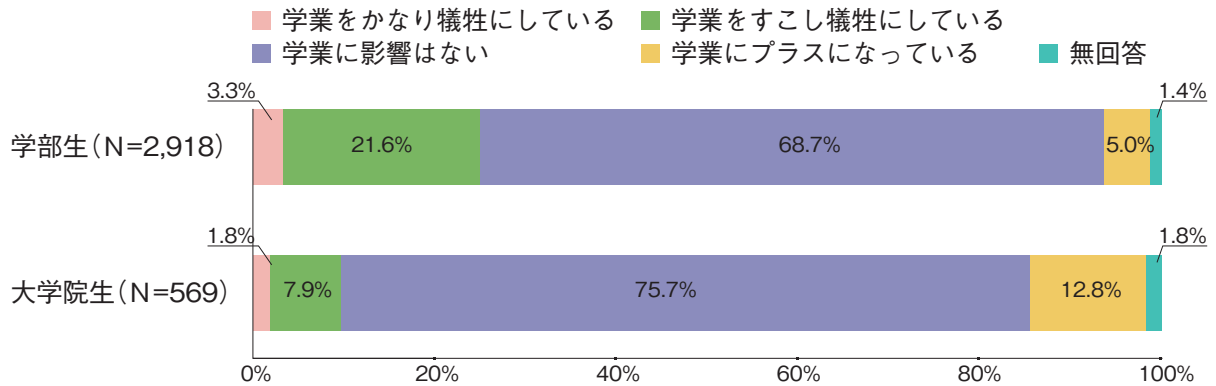


## (2-5) サークル活動と学業との関係

### サークル活動は学業に影響しない

学業との関係を見ると、「学業に影響はない」が学部生で68.7%、大学院生で75.7%と最も高く、次いで、「学業を少し犠牲にしている」が学部生で21.6%、大学院生で7.9%、「学業にプラスになっている」が学部生で5.0%、大学院生で12.8%となっており、概ね学業との両立が成り立っていると見受けられます。とくに、大学院生の場合、プラスになっていると答えた学生が12.8%と学部生の倍以上あり、サークル活動が学業にとって肯定的に評価されているようです。

(人)	調査数	学業をかなり犠牲にしている	学業をすこし犠牲にしている	学業に影響はない	学業にプラスになっている	無回答
学部生	2,918	95	629	2,006	146	42
大学院生	569	10	45	431	73	10

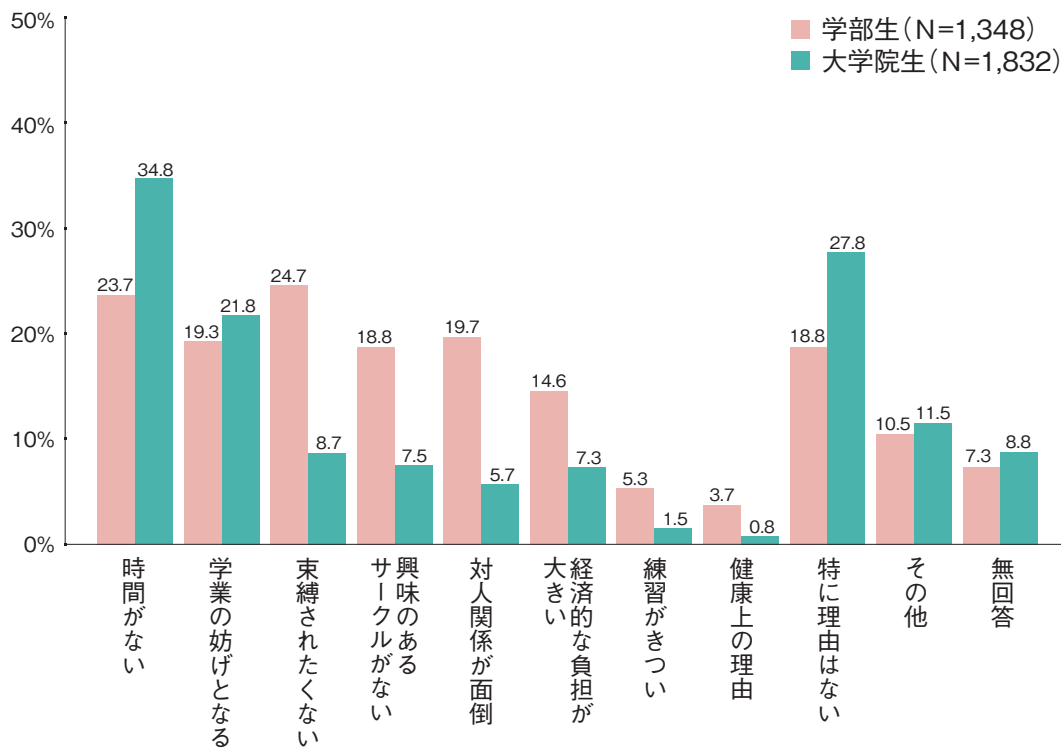


## (3) サークルに加入していない理由

### 個を優先するライフスタイルが強まった?

サークルに加入しない理由をみると、学部生では、「束縛されたくない」(24.7%)、「時間がない」(23.7%)、「対人関係が面倒」(19.7%)、「学業の妨げとなる」(19.3%)など、集団活動のプラスの側面よりもマイナスの側面を指摘する回答が目立ちますが、大学院生の場合には、「時間がない」(34.8%)、「特に理由はない」(27.8%)、「学業の妨げとなる」(21.8%)など、学業優先の姿勢が明らかとなっています。

(人)	調査数	時間がない	学業の妨げとなる	束縛されたくない	興味のあるサークルがない	対人関係が面倒	経済的な負担が大きい	練習がきつい	健康上の理由	特に理由はない	その他	無回答
学部生	1,348	320	260	333	254	266	197	71	50	254	142	98
大学院生	1,832	637	400	160	138	105	134	27	14	509	210	162

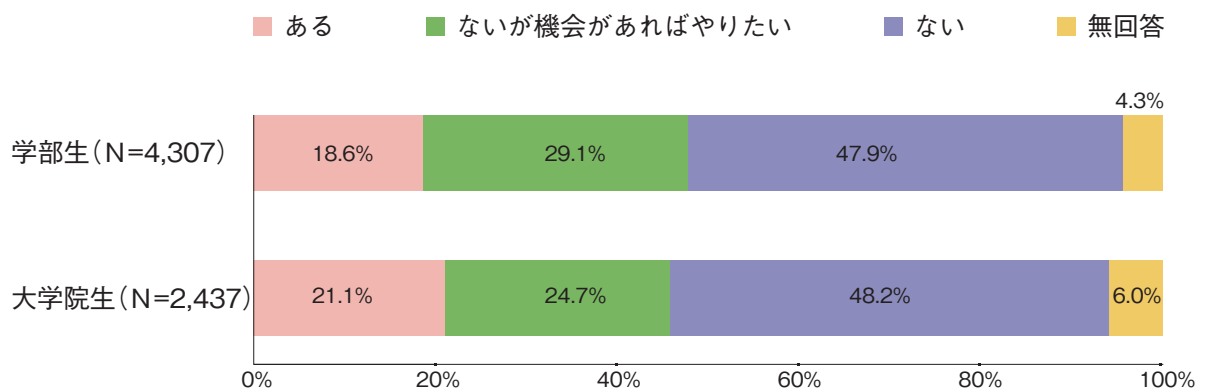


#### (4) ボランティア活動の経験

### ボランティア活動の経験は少ない。もっと経験が必要

ボランティア活動の経験は、学部生、大学院生ともに半数近くの学生が「経験なし」と答えていて、ボランティア経験が豊富だと言われている欧米の学生に比べると、学業中心的な日本の大学教育の特徴を垣間見た気がします。「経験あり」と答えた学生は学部生、大学院生、いずれも 20%前後にとどまっています。今後は、大学側もボランティア活動の紹介に力を入れる必要があると思われます。

	調査数	ある	機会があればやりたい ない	ない	無回答
学部生	4,307	803	1,255	2,063	186
大学院生	2,437	515	601	1,175	146

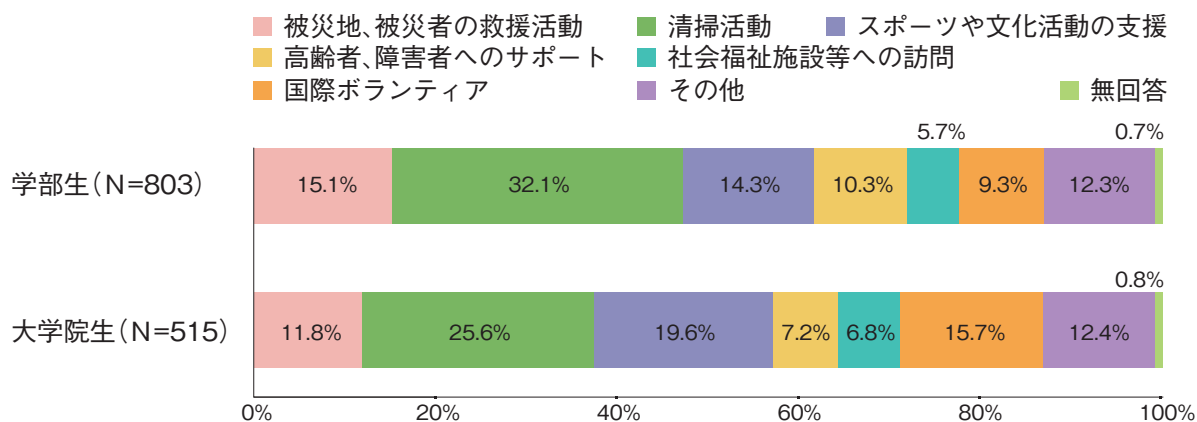


### (5-1) ボランティア活動の内容

#### ボランティア活動の経験は清掃活動が最も多い

ボランティア活動の内容では、学部生では「清掃活動」(32.1%)、「被災地、被災者の救援活動」(15.1%)、「スポーツや文化活動の支援」(14.3%)、大学院生では「清掃活動」(25.6%)、「スポーツや文化活動の支援」(19.6%)、「国際ボランティア」(15.7%)の順で多く、身近な場面での活動経験があるようです。「国際ボランティア」において、大学院生と学部生との差が開いていて、それなりの年の功を感じました。

(人)	調査数	被災地、被災者の救援活動	清掃活動	スポーツや文化活動の支援	高齢者、障害者へのサポート	社会福祉施設等への訪問	国際ボランティア	その他	無回答
学部生	803	121	258	115	83	46	75	99	6
大学院生	515	61	132	101	37	35	81	64	4



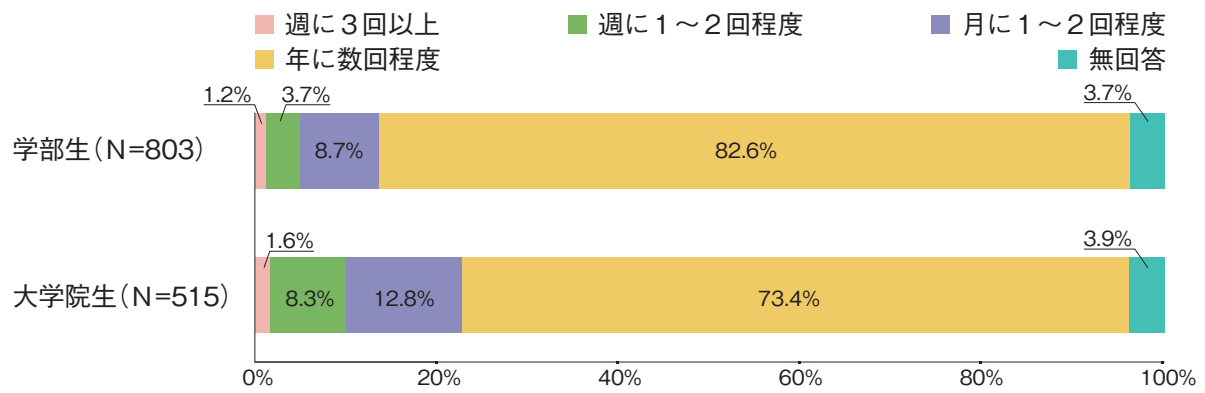
### (5-2) ボランティア活動の頻度

#### ボランティア活動の経験は年に数回程度

活動の頻度をみると、年に数回程度が圧倒的に多く、学業やサークル活動への支障はないように思われます。

(人)	調査数	週に3回以上	週に1~2回程度	月に1~2回程度	年に数回程度	無回答
学部生	803	10	30	70	663	30
大学院生	515	8	43	66	378	20



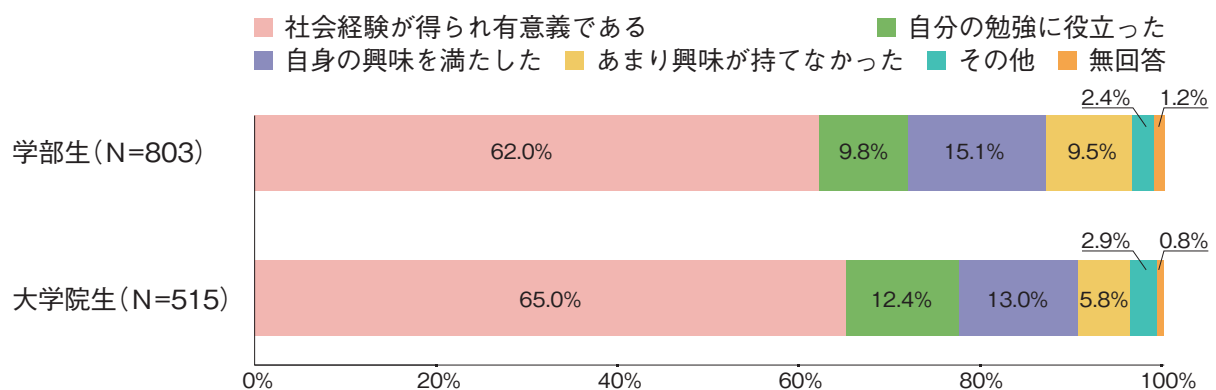


### (5-3) ボランティア活動の感想

#### ボランティア活動は有意義

ボランティア活動の感想をみると、「社会経験が得られ有意義である」が6割以上に達し、次いで、「自身の興味を満たした」「自分の勉強に役立った」が多く、おおむね、ボランティア活動の経験は肯定的に評価されているように思われます。

学生層	調査数	社会経験が得られ有意義である	自分の勉強に役立った	自身の興味を満たした	あまり興味が持てなかった	その他	無回答
学部生 (人)	803	498	79	121	76	19	10
大学院生	515	335	64	67	30	15	4



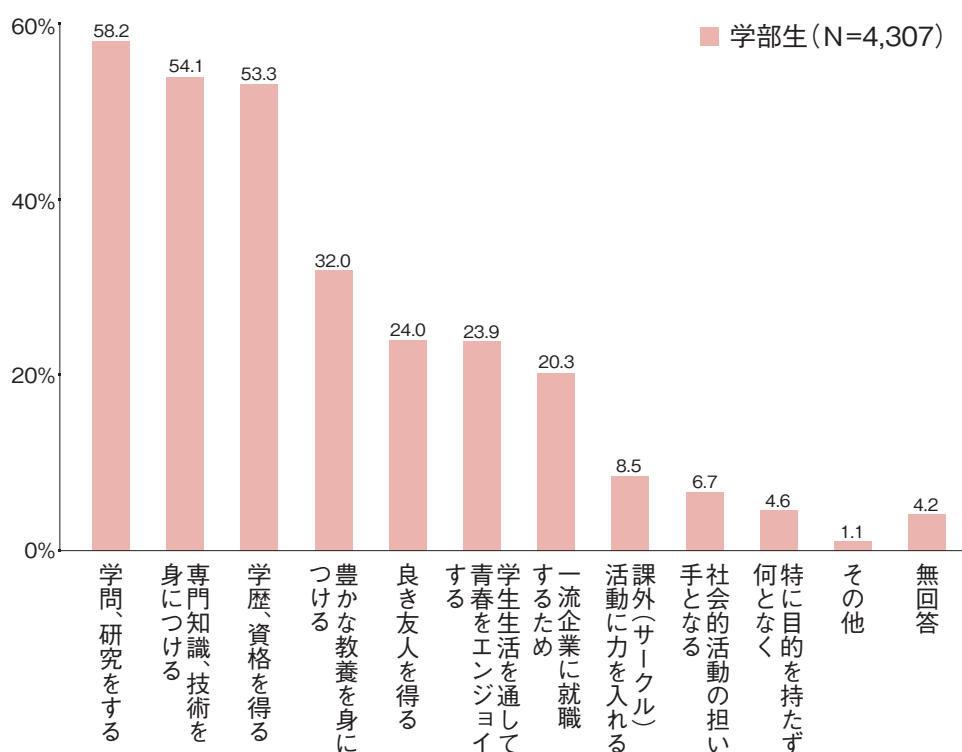
# 第10章 入学・授業等関係について

## (1) 大学に入学した理由

### 大学には学問、研究、専門知識、技術、学歴、資格に魅力を感じている

大学に入学した学部生の5割以上は「学問・研究」や「学歴、資格」を目的にしているようです。また、文系・理系に分離したところ、「専門知識・技術」、「豊かな教養」や「良き友人」、「青春をエンジョイ」において捉え方が異なることが判りました。前回の調査では1割程度が選択していた「目的を持たずに何となく」は半分以下に減っていますが、これが経年変化なのか、測定精度に依るものなのかは興味があるところであり、今後の変化にも注目したいと思います。

調査数 (人)	学問、研究をする	専門知識、技術を身につける	学歴、資格を得る	豊かな教養を身につける	良き友人を得る	学生生活を通して青春をエンジョイする	一流企業に就職するため	課外(サークル)活動に力を入れる	社会的活動の担い手となる	特に目的を持たず何となく	その他	無回答	
学部生	4,307	2,505	2,328	2,294	1,380	365	875	288	1,030	1,033	196	49	179

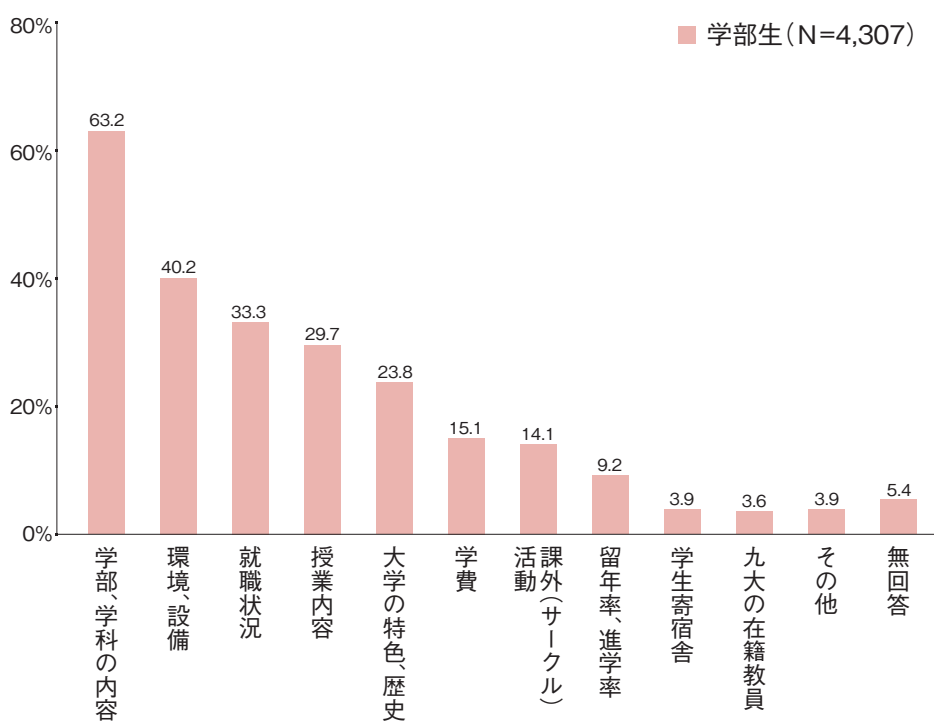


## (2) 志望校決定時に九大に関して知りたかった情報

### 学部・学科の内容が知りたい

志願時に知りたかった大学の情報としては、「学部・学科の内容」や「環境・設備」、「就職状況」が挙がっています。また、「授業内容」や「留年率・進学率」については文系・理系でやや要求度が異なるようです。

調査数 (人)	学部、学科の内容	環境、設備	就職状況	授業内容	大学の特色、歴史	学費	課外(サークル)活動	留年率、進学率	学生寄宿舎	九大の在籍教員	その他	無回答	
学部生	4,307	2,724	1,730	1,435	1,281	1,025	650	606	396	167	154	170	234

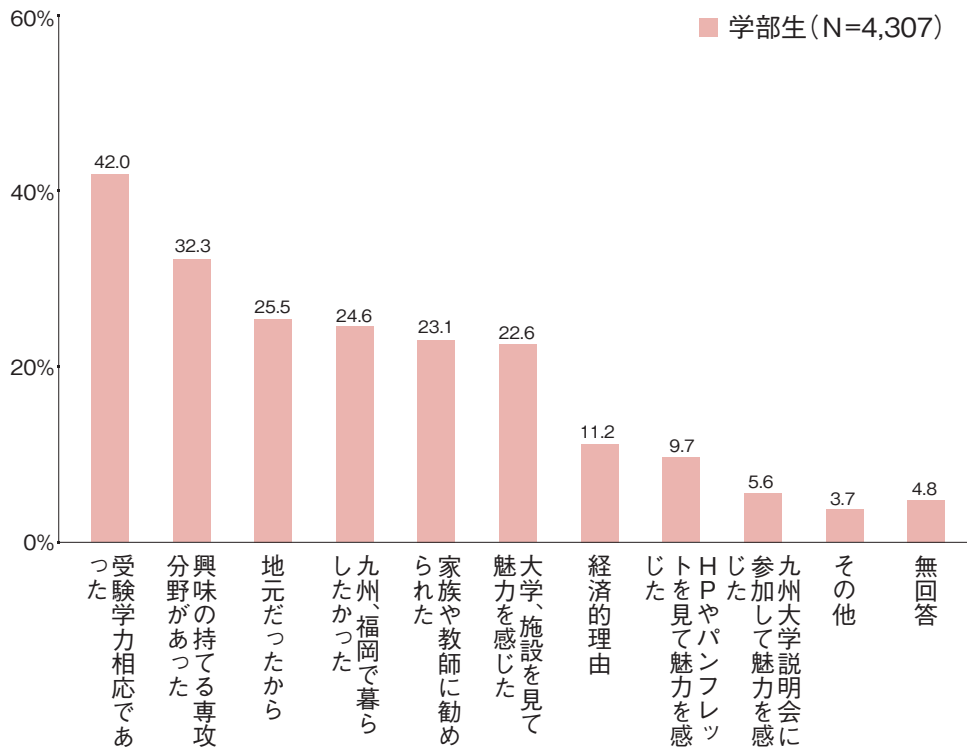


## (3) 九大に入学した主な理由

### 地元志向は相変わらず

入学の動機については「受験学力相応」や「興味の持てる専攻分野」が挙がっていますが、文系・理系に分離したところ、「地元」や「家族や教師の勧め」、「経済的理由」については違いが見られました。

調査数 (人)	受験学力相応であった	興味のある専攻分野があった	地元だったから	九州、福岡で暮らしたかった	家族や教師に勧められた	大学、施設を見て魅力を感じた	経済的理由	HPやパンフレットを見て魅力を感じた	九州大学説明会に参加して魅力を感じた	その他	無回答	
学部生	4,307	1,811	1,390	1,100	1,058	996	974	481	418	243	160	205

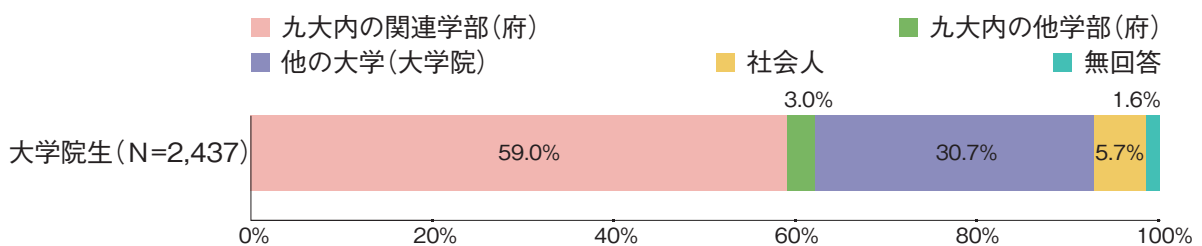


#### (4) 大学院生の出身学部等

##### 文系は他大学から、理系は本学から

大学院生の出身大学は、文系では他大学から進学してきた者が多く、一方、理系では九大内から進学してきたものが多く、この傾向は前回と同様でした。また、前回調査と比較して社会人の入学が増えており、特に文系での増加が目立ちます。

(人)	調査数	九大内の関連学部(府)	九大内の他学部(府)	他の大学(大学院)	社会人	無回答
大学院生	2,437	1,437	74	748	139	39

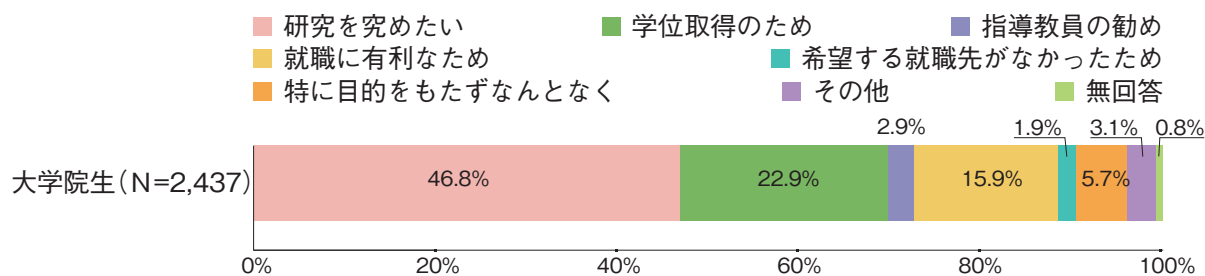


## (5) 大学院生の九大に進学した理由

### 大学院進学理由は「研究を究める」と「学位取得」

大学院に進学する理由は「研究を究めたい」と「学位取得のため」の回答が多く、理系では「就職に有利なため」も目立ちます。一方、前回よりは少なくなりましたが、「特に目的を持たず」も散見されるようです。

	調査数 (人)	研究を究めたい	学位取得のため	指導教員の勧め	就職に有利なため	希望する就職先が なかったため	特に目的をもたず なんとなく	その他	無回答
大学院生	2,437	1,140	559	71	387	46	139	75	20

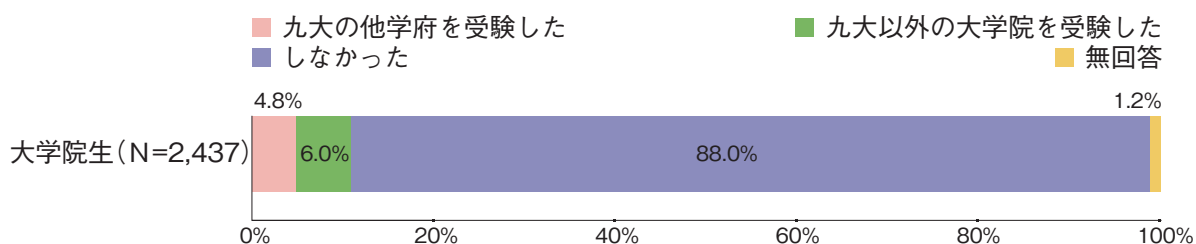


## (6) 現所属以外の大学院の受験の有無

### 「一本に絞って受験」が大勢

大学院進学に際して、現所属の大学院のみを受けた者が多いようですが、文系に関しては九大以外の大学院も受験した者が12%程いるようです。しかし、前回調査と比較するとその割合は大幅に低下しています。

	調査数 (人)	九大の他学府を 受験した	九大以外の大学院 を受験した	しなかった	無回答
大学院生	2,437	116	146	2,145	30

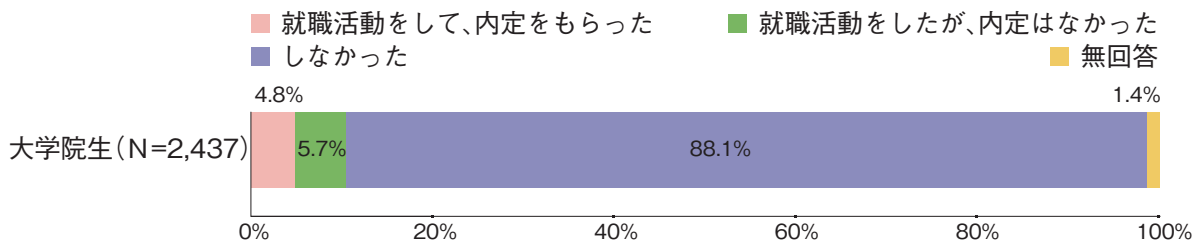


## (7) 大学院受験と並行した就職活動の有無

### 就活はせず

大学院進学時に平行して就職活動を行っていた学生は少ないようで、この傾向は前回調査と変化はありません。

(人)	調査数	就職活動をして、 内定をもらった	就職活動をしたが、 内定はなかった	しなかった	無回答
大学院生	2,437	118	138	2,146	35

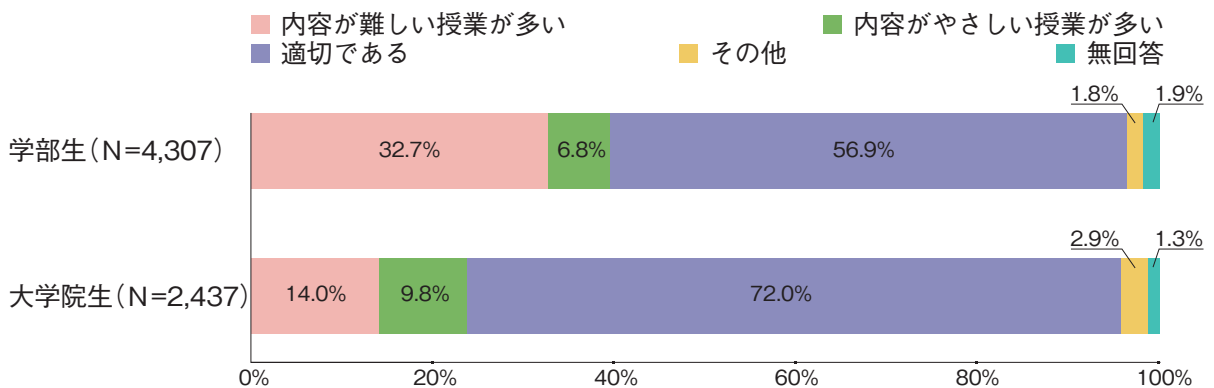


## (8) 授業内容の難易度

### 学部には内容の難しい授業も

授業内容の難易度については、文系の学部生、及び大学院生は適切であると感じている割合が7割程度と高く、前回調査と同様の傾向を示しています。一方で、理系の学部生は内容が難しいと感じている割合が高いようです。

(人)	調査数	内容が難しい 授業が多い	内容がやさしい 授業が多い	適切である	その他	無回答
学部生	4,307	1,407	294	2,449	77	80
大学院生	2,437	340	240	1,755	71	31

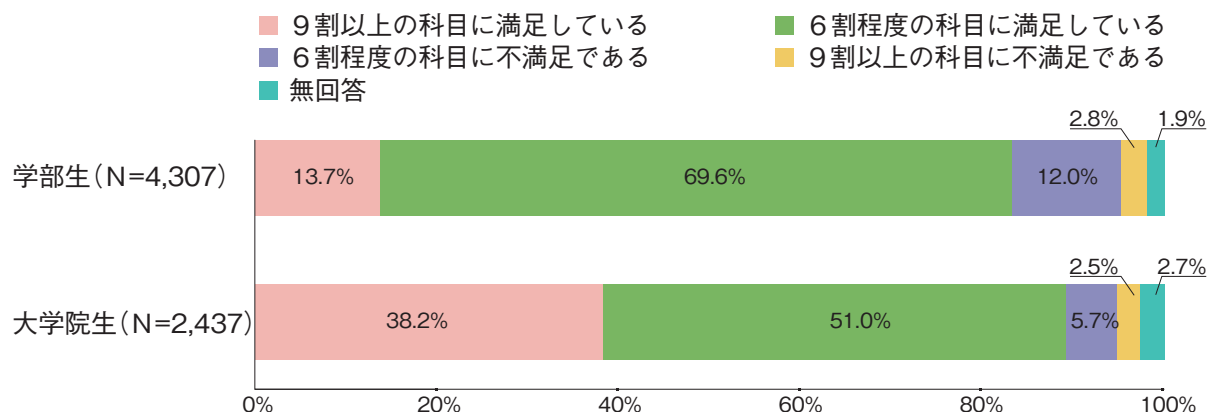


## (9) 授業の満足度

### 授業には概ね満足

授業の満足度に対して「9割以上」と「6割以上」の科目に満足と答えた割合は、学部生と大学院生ともに85%程度となっており、満足度はかなり高いと評価できます。授業の難易度のところでも言及しましたが、理系の学部生は不満足と回答する割合が若干高いようです。

(人)	調査数	9割以上の科目に満足している	6割程度の科目に満足している	6割程度の科目に不満足である	9割以上の科目に不満足である	無回答
学部生	4,307	590	2,999	516	120	82
大学院生	2,437	930	1,242	140	60	65

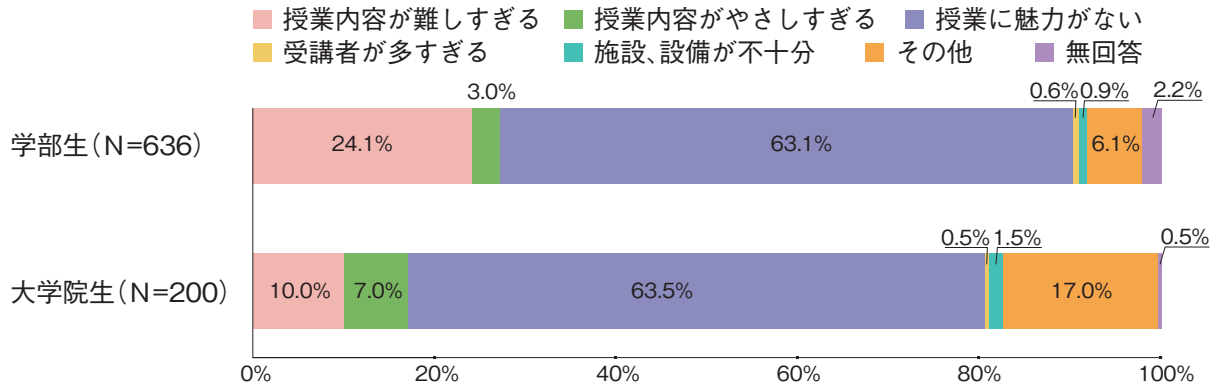


## (10) 授業に不満な理由

### 魅力ある授業を期待

「9割以上」と「6割以上」の科目に不満足と答えた学生に対してその理由を挙げてもらったところ、学部生と大学院生ともに「授業に魅力がない」が大多数を占めていました。また、「授業内容が難しすぎる」や「授業内容がやさしすぎる」については、集団によってその割合が異なっていることが判ります。

(人)	調査数	授業内容が難しすぎる	授業内容がやさしすぎる	授業に魅力がない	受講者が多すぎる	施設、設備が不十分	その他	無回答
学部生	636	153	19	401	4	6	39	14
大学院生	200	20	14	127	1	3	34	1

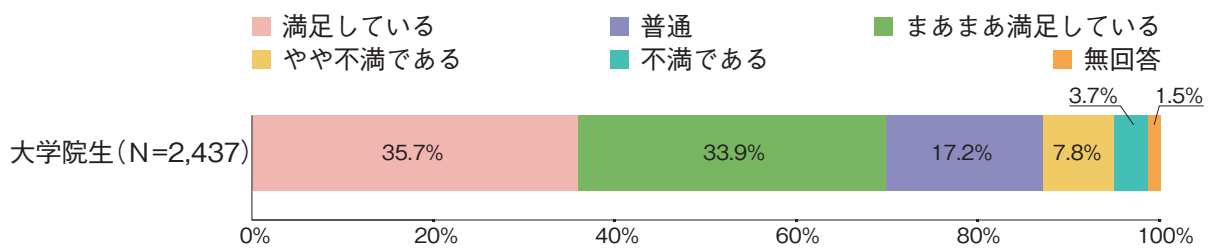


### (11-1) 大学院生の研究環境の満足度

#### 大学院生の研究環境は改善傾向

大学院生における研究環境の満足度は「満足」と「まあまあ満足」を合わせると7割程度で前回調査と同様の結果となっています。ただし、前は「満足」の方の割合が少なかったのですが今回は「満足」の方が多くっており研究環境が改善されたと捉えることができます。

(人)	調査数	満足している	まあまあ満足している	普通	やや不満である	不満である	無回答
大学院生	2,437	871	827	420	191	91	37



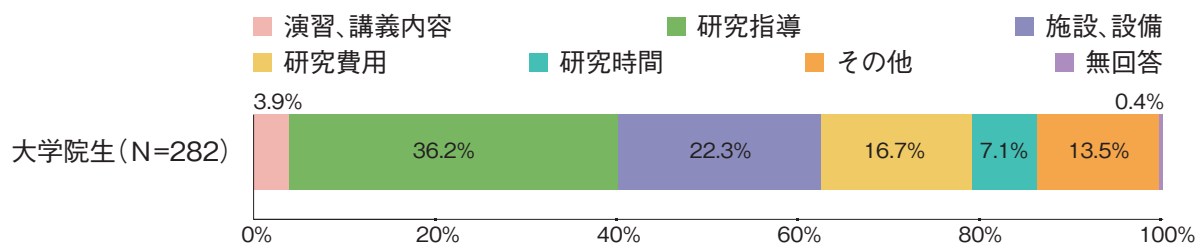
### (11-2) 大学院生の研究環境に不満な理由

#### 「研究指導」と「施設、設備」に不満がある

研究環境に対して「やや不満」や「不満」と回答した大学院生に対してその理由を挙げてもらったところ、「研究指導」、「施設、設備」、「研究費用」がその主なもので、前回調査と比較すると「研究費用」の伸びが著しく、一方「演習、授業内容」については減少しています。



(人)	調査数	演習、講義内容	研究指導	施設、設備	研究費用	研究時間	その他	無回答
大学院生	282	11	102	63	47	20	38	1

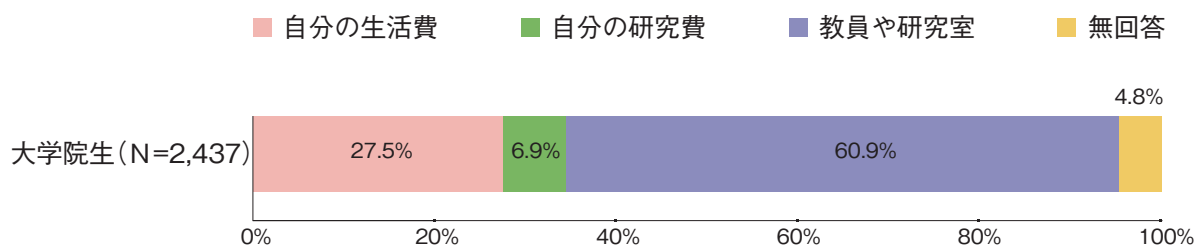


## (12) 大学院生の学会参加等に必要な費用の捻出元

### 文理で異なる研究経費の提供元

学会参加費や論文投稿に必要な経費の提供元としては、文系大学院生は自分の生活費から、また理系大学院生は教員や研究室から支出してもらっている割合が高く分野によって異なった傾向を示しています。

(人)	調査数	自分の生活費	自分の研究費	教員や研究室	無回答
大学院生	2,437	670	167	1,484	116



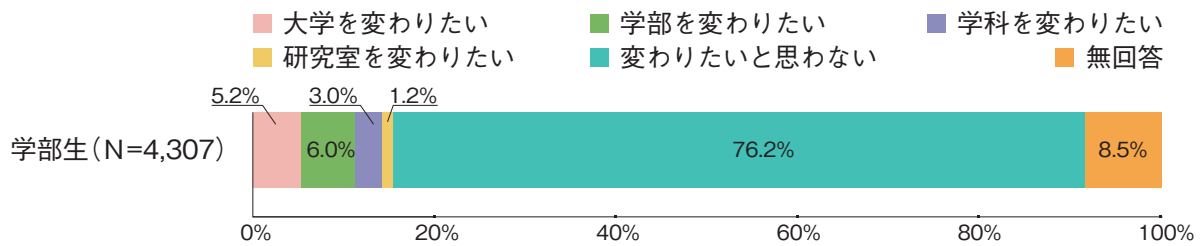
## (13-1) 学部・学科等の変更希望

### 15%程度が移動したいと考えている

転大学・転学部・転学科の希望状況については、前回調査とほぼ同じ結果となっているものの、依然として2割程度の学部生が何らかの不満を抱えていることが見て取れます。

また、学年とのクロス集計を見ると、1年次では転大学の希望が一番多く、2年次以降は転学部・転学科の希望が一番多いことが判ります。高年次になっても一定数の移動希望があることは注意しておく必要があるように思われます。

(人)	調査数	大学を 変わりたい	学部を 変わりたい	学科を 変わりたい	研究室を 変わりたい	変わりたいと 思わない	無回答
大学院生	4,307	223	258	128	50	3,284	364

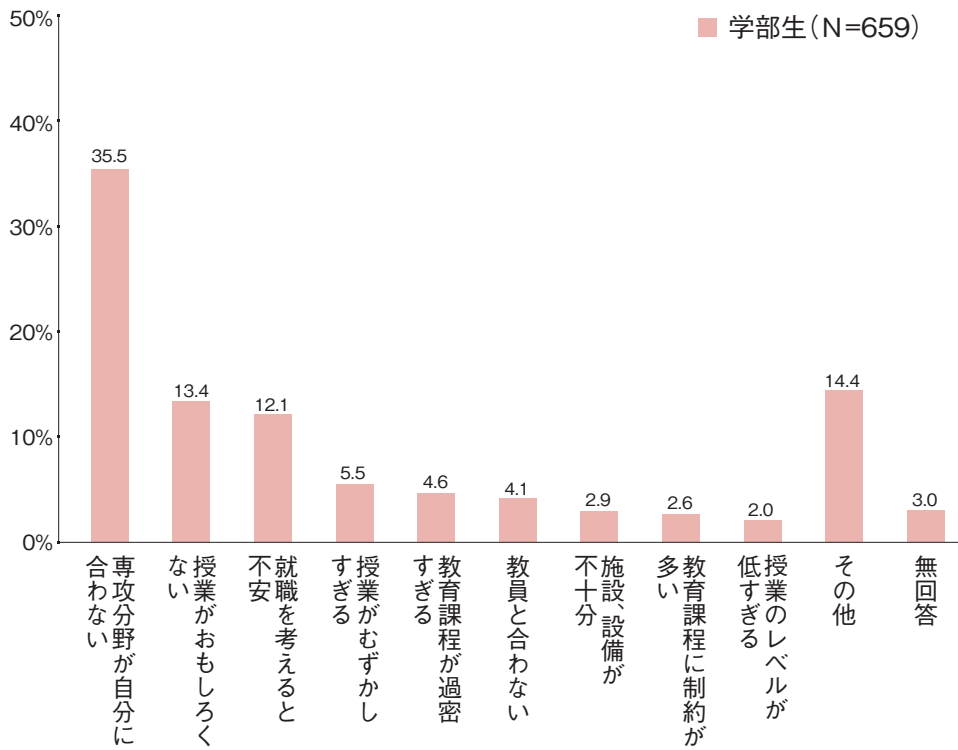


## (13-2) 学部・学科等を変えたい理由

### 「専攻分野が自分にあわない」が一番の理由

転大学・転学部・転学科を希望する主な理由は、文系・理系ともに「専攻分野が合わない」、「授業がおもしろくない」や「就職を考えると不安」が挙げられています。文系学部生ではこれらに加えて「授業がむずかしすぎる」を、また、理系学部生では「教育課程が過密すぎる」や「教員と合わない」も挙げられています。

(人)	調査数	専攻分野が 自分に合わない	授業がおもしろくない	就職を考えると不安	授業がむずかしすぎる	教育課程が過密すぎる	教員と合わない	施設、設備が不十分	教育課程に制約が多い	授業のレベルが低すぎる	その他	無回答
学部生	659	234	88	80	36	30	27	19	17	13	95	20

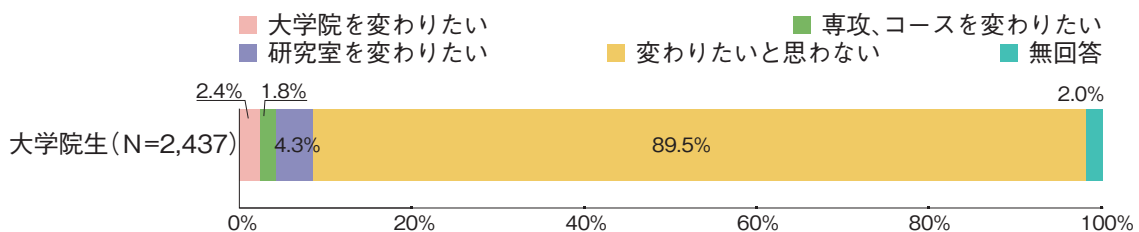


### (14-1) 大学院生の現在の所属の変更希望

#### 大学院生でさえ移動したいという希望が

転学府等の希望状況については、大学院生全体の9割ほどが継続して現在の所属で研究を続けたいと考えており、前回調査と同様の傾向にあります。

(人)	調査数	大学院を 変わりたい	専攻、コースを 変わりたい	研究室を 変わりたい	変わりたいと 思わない	無回答
大学院生	2,437	59	44	105	2,180	49

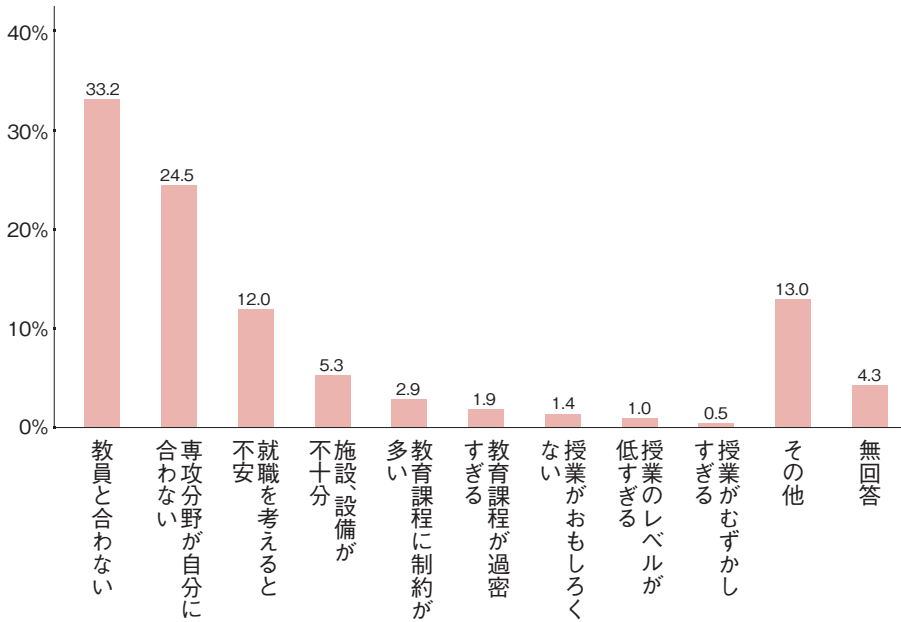


(14-2) 大学院生の現在の所属を変わりたい理由

「教員と合わない」と「専攻分野が自分に合わない」が主な理由

転学府等を希望する主な理由は、「教員と合わない」や「専攻分野が自分に合わない」、「就職を考えると不安」、「施設、設備が不十分」が挙げられていますが、文系と理系でやや傾向が異なるようです。

調査数 (人)	教員と合わない	専攻分野が自分に合わない	就職を考えると不安	施設、設備が不十分	教育課程に制約が多い	教育課程が過密すぎる	授業がおもしろくない	授業のレベルが低すぎる	授業がむずかしすぎる	その他	無回答
大学院生	69	51	25	11	6	4	3	2	1	27	9

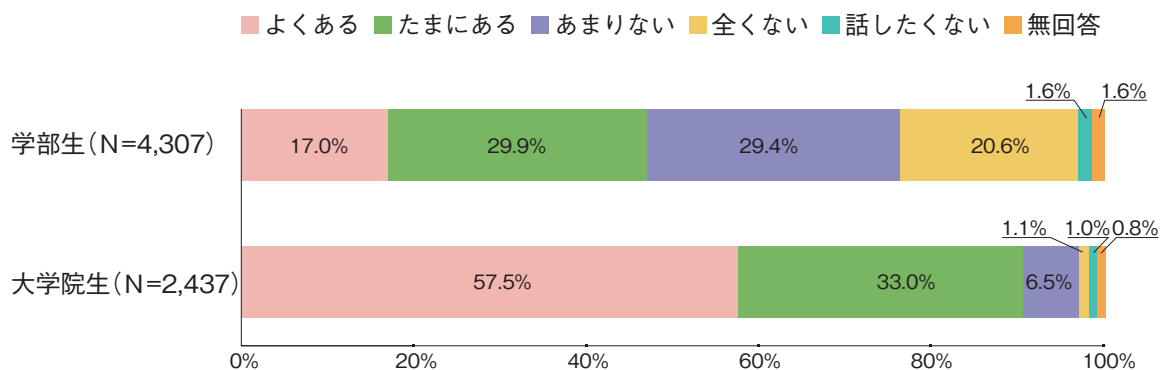


(15) 教員と直接話す機会の有無

大学院生でも教員と話す機会がない者がいる

教員と直接話す機会について、「よくある」と「たまにある」を合わせると大学院生では約9割、学部生では5割弱となっており、前回調査と同じ傾向にありました。教員との距離が近くなる大学院生では当然の結果と言えますが、一方で「話したくない」とする者も1.0%いるようで、どの様に研究指導・研究活動を遂行しているかが気になります。

調査数 (人)	よくある	たまにある	あまりない	全くない	話したくない	無回答
学部生	4,307	733	1,287	1,265	886	68
大学院生	2,437	1,401	805	159	28	25

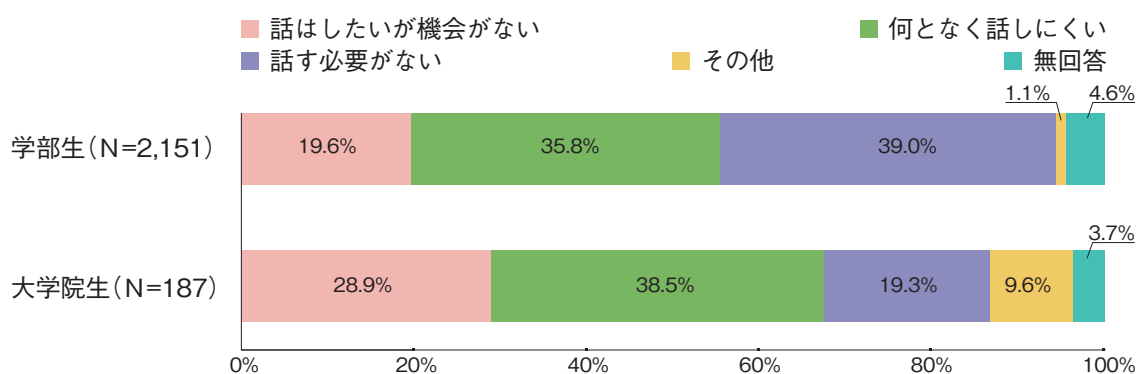


## (16) 教員と直接話す機会がない理由

### 教員と話す必要がないと考えている学生も少なからずいる

教員と直接話す機会について、「機会がない」、「話しにくい」、「話す必要がない」の何れの選択肢にもある程度の頻度があります。教員からの語りかけを待っていると捉えれば良いのでしょうか。

(人)	調査数	話したいが機会がない	何となく話しにくい	話す必要がない	その他	無回答
学部生	2,151	421	771	838	23	98
大学院生	187	54	72	36	18	7

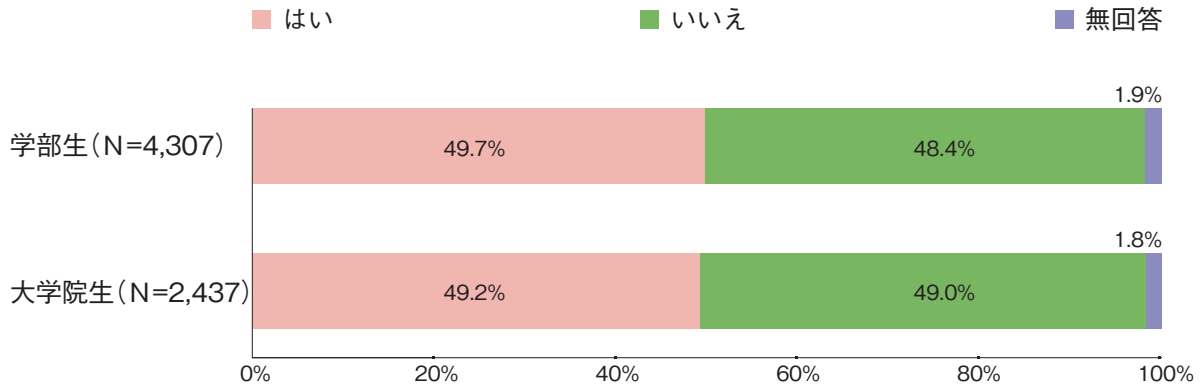


## (17) 教員ともっと直接話をしたいと思うか

### もっと教員と話したいと思う者がいる一方で

日頃教員ともっと直接話したいかについて尋ねたところ、学部生、大学院生ともに回答は拮抗しています。前回調査と比較すると、学部生はほぼ同じ傾向でしたが、大学院生については話したいと答える割合が増えています。また文系・理系に分けてみると、文系大学院生がより話をしたいと感じているようです。

(人)	調査数	はい	いいえ	無回答
学部生	4,307	2,141	2,083	83
大学院生	2,437	1,199	1,194	44

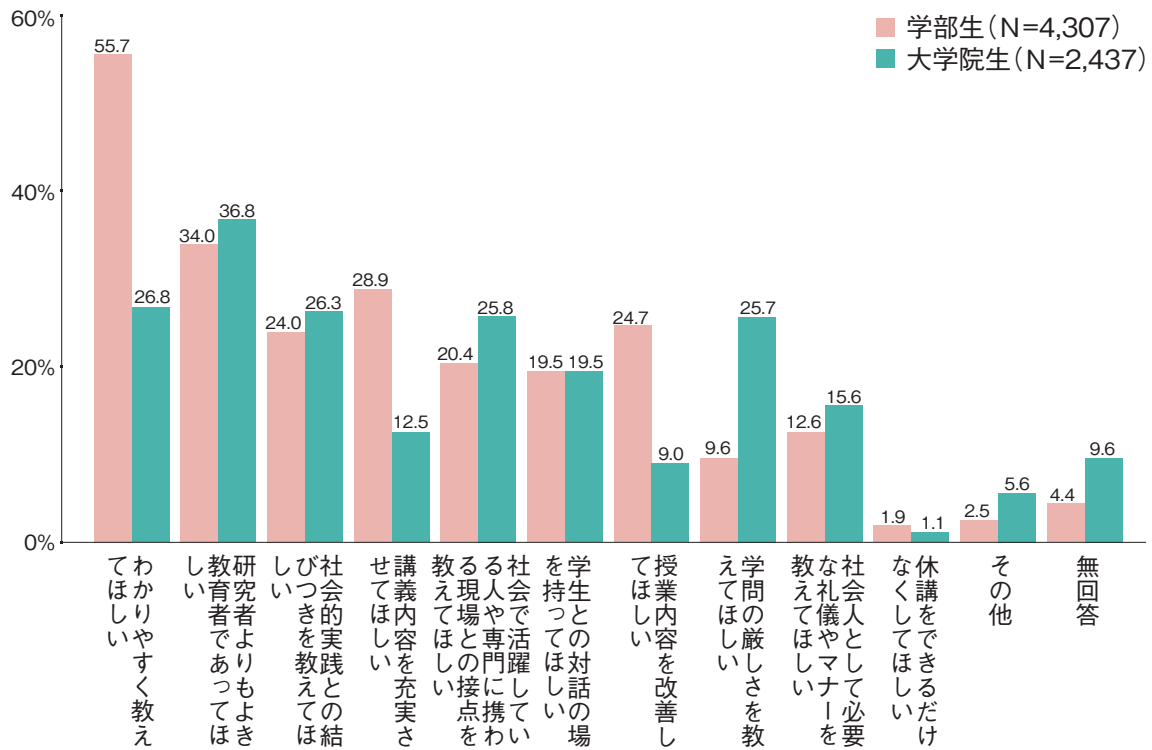


### (18) 教員に期待すること

#### 学部学生は「わかりやすく教えてほしい」、 大学院生は「教育者であってほしい」

教員に期待することとして学部生と大学院生ではやや求めるものが異なっているものの多くの期待があるようです。まず学部生では、「わかりやすく教えてほしい」や「研究者よりもよき教育者であってほしい」、「授業内容を充実させて欲しい」が挙げられ、一方、大学院生では「研究者よりもよき教育者であってほしい」、「わかりやすく教えてほしい」、「社会的実践との結びつきを教えてほしい」、「社会で活躍している人や専門に携わる現場との接点を教えてほしい」、「学問の厳しさを教えてほしい」が挙げられています。これらのそれぞれについても文系・理系でやや傾向が異なるようです。

(人)	調査数	わかりやすく教えてほしい	研究者よりもよき教育者であってほしい	社会的実践との結びつきを 教えてほしい	講義内容を充実させてほしい	社会で活躍している人や専門に携 わる現場との接点を教えてほしい	学生との対話の場を持つてほしい	授業内容を改善してほしい	学問の厳しさを教えてほしい	社会人として必要な礼儀や マナーを教えてほしい	休講をできるだけなくしてほしい	その他	無回答
学部生	4,307	2,401	1,466	1,034	1,244	878	838	1,064	414	542	80	106	190
大学院生	2,437	653	898	642	304	628	474	219	627	380	26	136	233

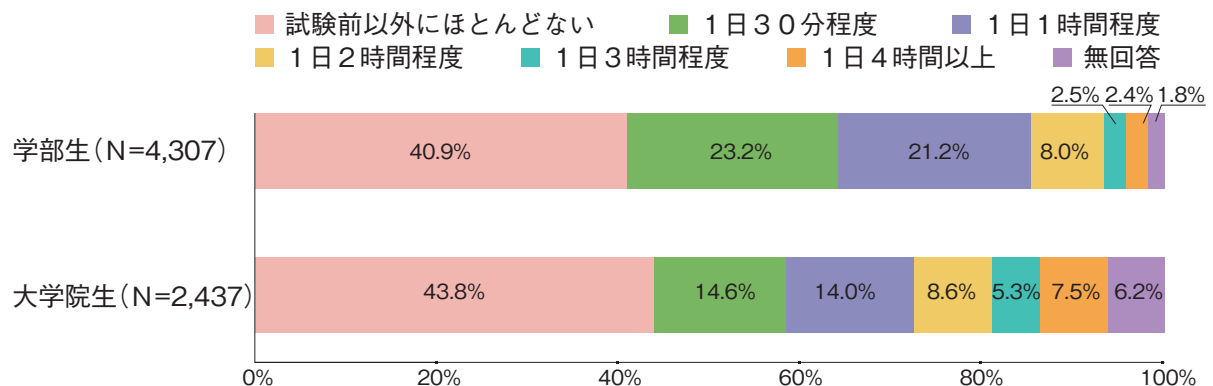


## (19)大学の予習復習に費やしている時間

### 一夜漬けは健在

大学生が勉強しないと言われて久しいですが、本学でも予習復習に1日2時間以上費やしている者は、学部生で12.9%、大学院生で21.4%と前回調査時とほぼ同じ傾向にありました。文系・理系に分けてみるとやや違いがあり、理系学部生の方が「試験前」に勉強する傾向がより強いことも判ります。

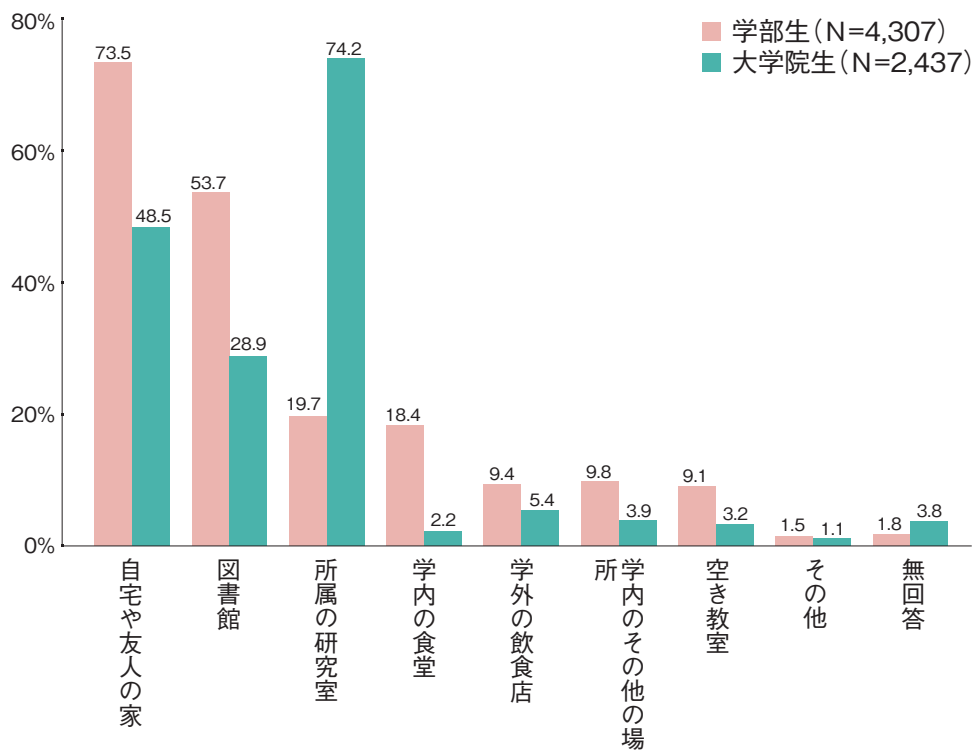
(人)	調査数	試験前以外にほとんどない	1日30分程度	1日1時間程度	1日2時間程度	1日3時間程度	1日4時間以上	無回答
学部生	4,307	1,762	998	914	343	109	104	77
大学院生	2,437	1,067	355	340	210	130	183	152



## (20)大学の学習(授業以外)を行っている場所

学習を行っている場所としては、「自宅や友人の家」や「図書館」が代表的な場所で、それに加えて大学院生では「所属の研究室」が1位に、学部生では3位になっています。また、文系・理系に分けてみるとその学習スタイルからか、文系学生は図書館の利用が多く、理系学部生は研究室が多いことも判ります。

	調査数 (人)	自宅や友人の家	図書館	所属の研究室	学内の食堂	学外の飲食店	学内のその他の場所	空き教室	その他	無回答
学部生	4,307	3,166	2,315	847	792	404	421	391	64	76
大学院生	2,437	1,182	705	1,809	54	132	95	79	28	93



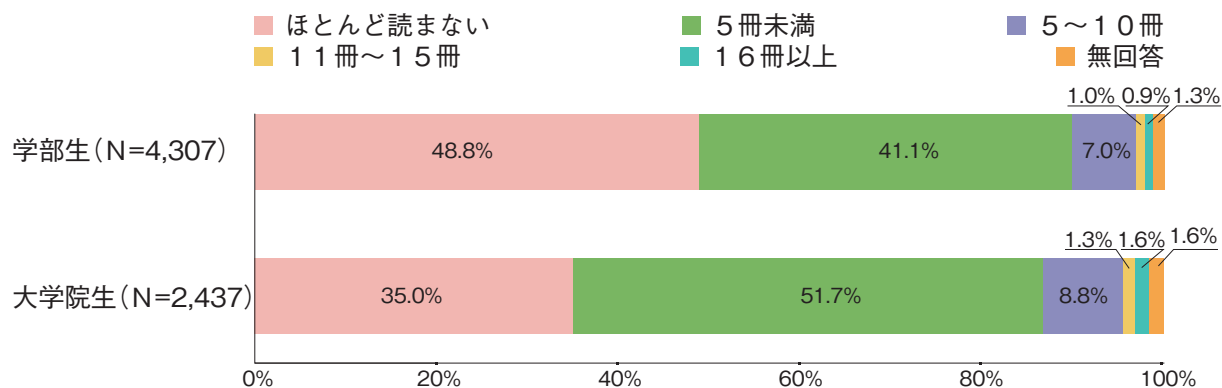
## (21) 1か月間の読書の状況

### ほとんど読書しない者が4割

一ヶ月当たりの書籍の読書量(教科書や参考書を除く)については、ほとんど読まないと回答した者が学部生で5割、大学院生で4割弱もあり、前回調査時と比較するとより読まなくなっている傾向が強くなっているようです。また、その学習スタイルから起因するのでしょうか、文系・理系に分けてみると文系学生の方が読む量が多いことも判ります。



(人)	調査数	ほとんど読まない	5冊未満	5～10冊	11冊～15冊	16冊以上	無回答
学部生	4,307	2,100	1,769	301	41	40	56
大学院生	2,437	852	1,260	215	31	40	39

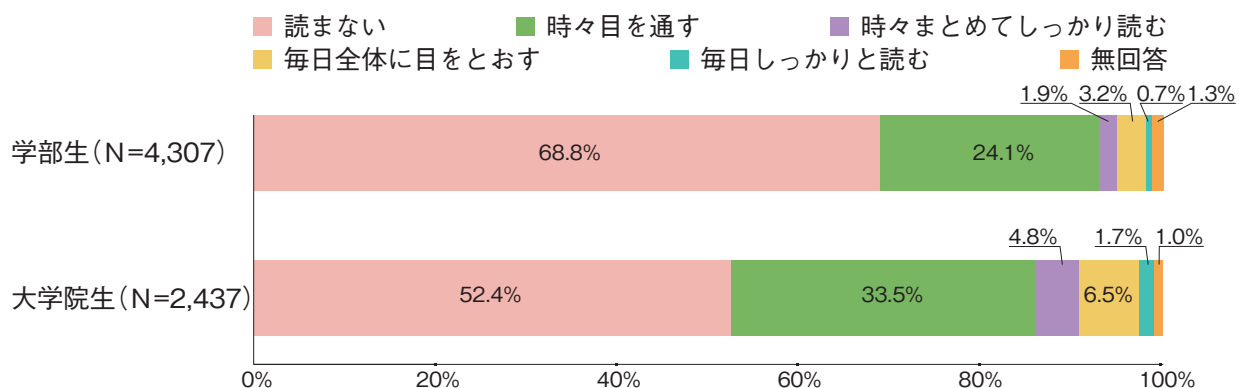


## (22)新聞を読む頻度

### 情報源は新聞からインターネットへ

新聞を「読まない」者が学部生で7割、大学院生で5割程度いることが判ります。スマートフォンの普及等でインターネットでの情報収集が主流になってきている影響もあるのですが、前回の調査時よりも新聞を読まない傾向が強くなっています。

(人)	調査数	読まない	時々目を通す	時々まとめてしっかり読む	毎日全体に目をとおす	毎日しっかりと読む	無回答
学部生	4,307	2,963	1,037	81	138	30	58
大学院生	2,437	1,277	817	118	159	41	25

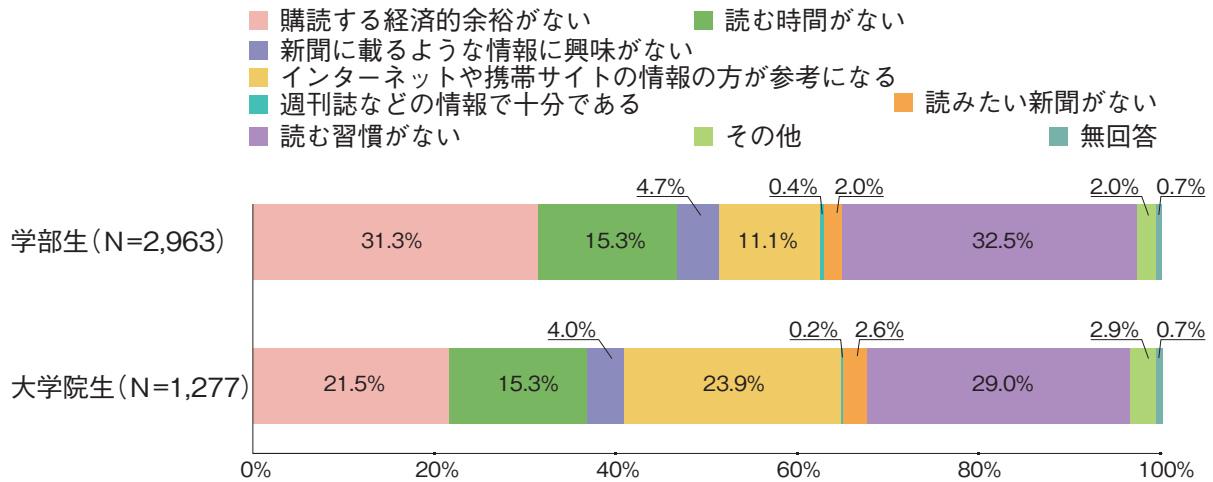


## (23)新聞を読まない理由

### 購読しないのは経済的理由と言っているが

新聞を「読まない」と回答した者にその理由を尋ねると、「読む習慣がない」と「購読する経済的余裕がない」が多く挙げられています。また、大学院生の方が「インターネットや携帯サイトの情報の方が参考になる」と考えている傾向にあるようです。

	調査数 (人)	購読する経済的 余裕がない	読む時間がない	新聞に載るような 情報に興味がない	インターネットや携帯 サイトの情報の方が 参考になる	週刊誌などの情報で 十分である	読みたい新聞がない	読む習慣がない	その他	無回答
学部生	2,963	927	453	140	329	11	59	964	59	21
大学院生	1,277	274	196	51	305	2	33	370	37	9

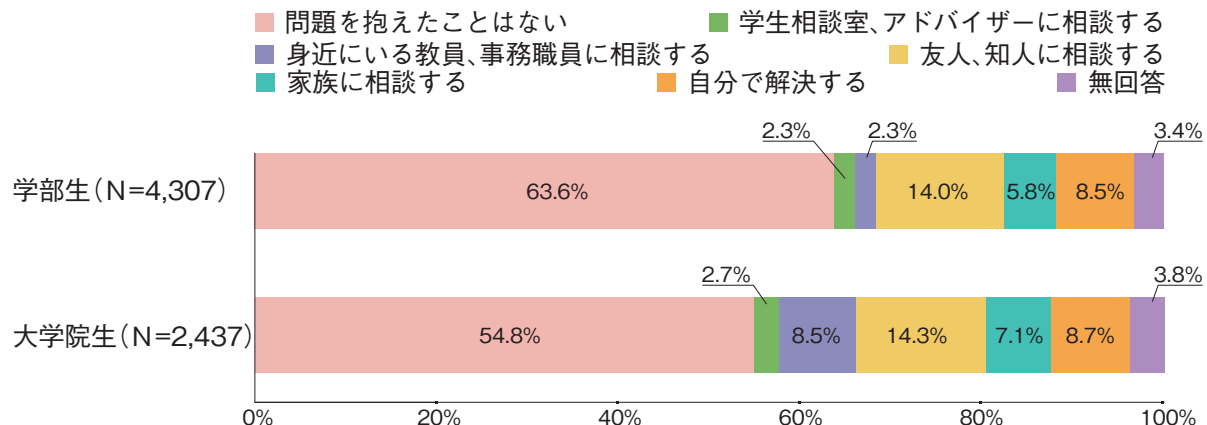


## (24)修学上の問題を抱えた経験

### 悩み事は身近な人と相談して解決

「修学上の問題を抱えたことがない」とする学生の割合は、学部生・大学院生ともに6割前後で、これは前回の調査時よりも増えています。質問紙の問い方も同じですが、問題を抱えている学生が減ったと単純に捉えて良いのでしょうか。また、問題を抱えた場合の解決方法として「友人、知人に相談する」や「自分で解決する」、「家族に相談する」を挙げていますが、学生相談室やアドバイザーを利用すると答えた者は3%もいませんでした。

	調査数 (人)	問題を抱えたことはない	学生相談室、アドバイザーに相談する	身近にいる教員、事務職員に相談する	友人、知人に相談する	家族に相談する	自分で解決する	無回答
学部生	4,307	2,741	98	97	605	251	367	148
大学院生	2,437	1,336	66	208	349	173	213	92

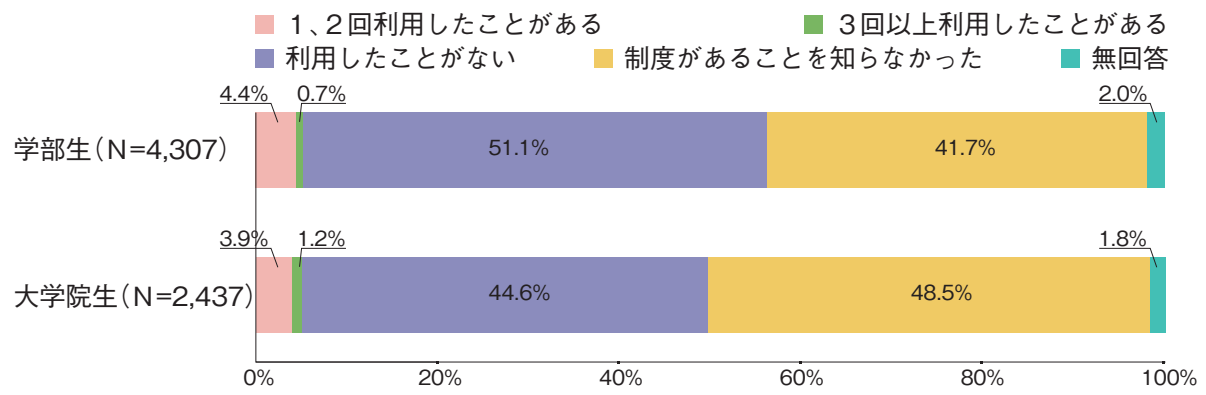


## (25)大学のピア・サポート制度や学習相談を利用した経験

### 学習相談室の周知が急務

前項で「修学上の問題を抱えたことがない」と答えた者が6割前後いることから、ピア・サポート制度や学習相談を利用したことがない者が5割前後いることに不思議はありませんが、一方で制度そのものの存在を知らない者が半数近くいることから、入学時のオリエンテーション等でのより一層の周知が望まれます。

	調査数 (人)	1、2回利用したことがある	3回以上利用したことがある	利用したことがない	制度があることを知らなかった	無回答
学部生	4,307	190	32	2,200	1,798	87
大学院生	2,437	96	30	1,087	1,181	43

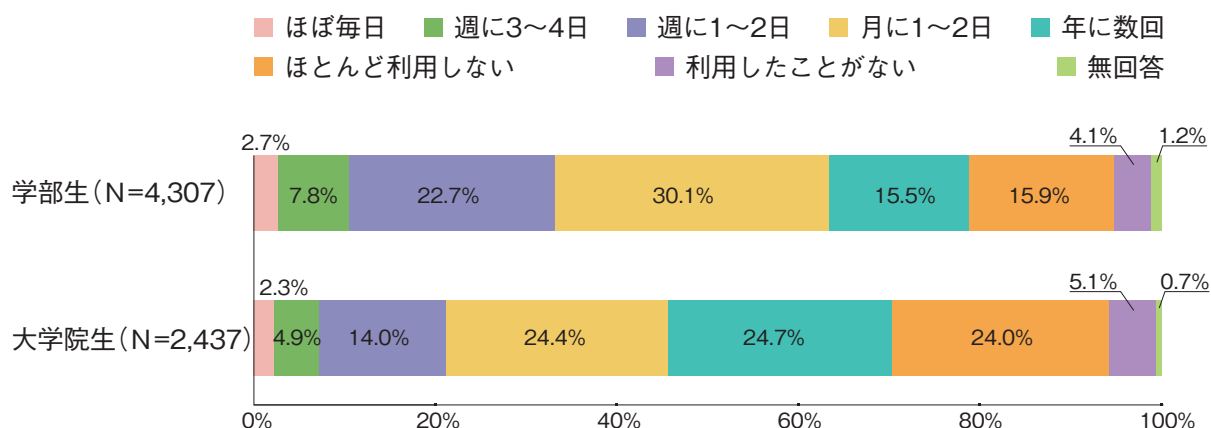


# 第11章 図書館について

## (1) 図書館の利用頻度

図書館に「週に3-4日」以上行く割合は10%程度、「週1-2日」を入れても学部生で33%、大学院生で21%と低く、月1-2回或は年数回が40-50%と多数派を占めることがわかりました。ほとんど或は全く利用しない者が学部生で20%、大学院生で30%もあることは問題です。なお、近年専門雑誌の電子化など、図書館機能がネット上に移行している事実も十分に考慮しなければなりません。

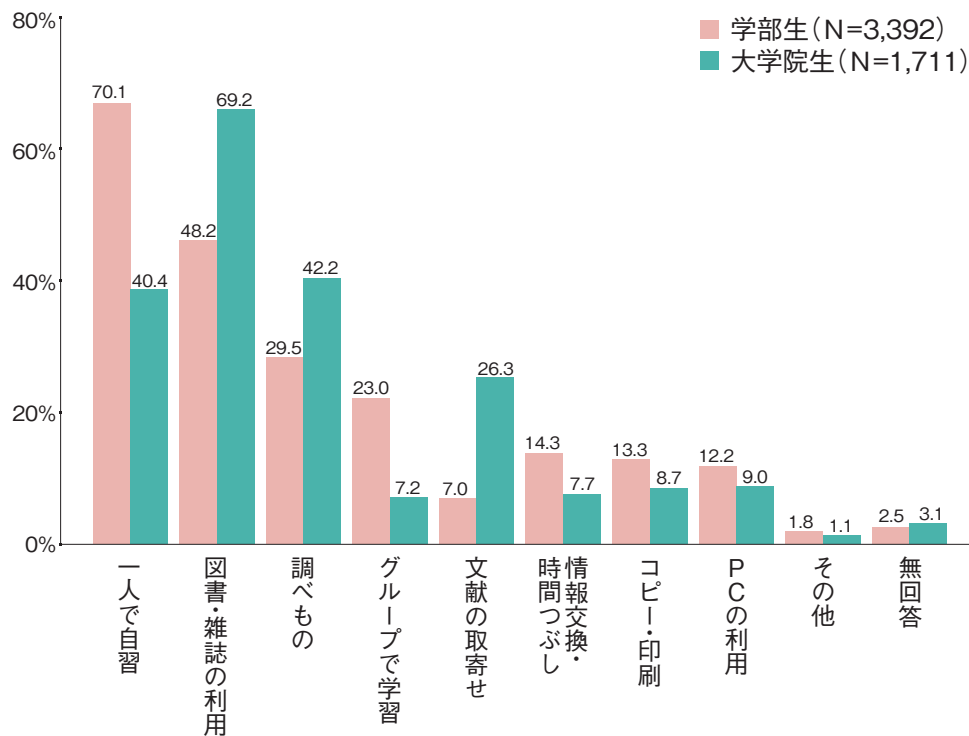
	調査数 (人)	ほぼ毎日	週に3~4日	週に1~2日	月に1~2日	年に数回	ほとんど利用しない	利用したことがない	無回答
学部生	4,307	115	337	976	1,296	668	685	177	53
大学院生	2,437	55	119	340	595	602	585	124	17



## (2) 図書館の利用目的

前回調査時と傾向は大きく変わっていません。学部生については自習の場所、大学院生は研究のための資料の調査収集が最も多い目的となっています。

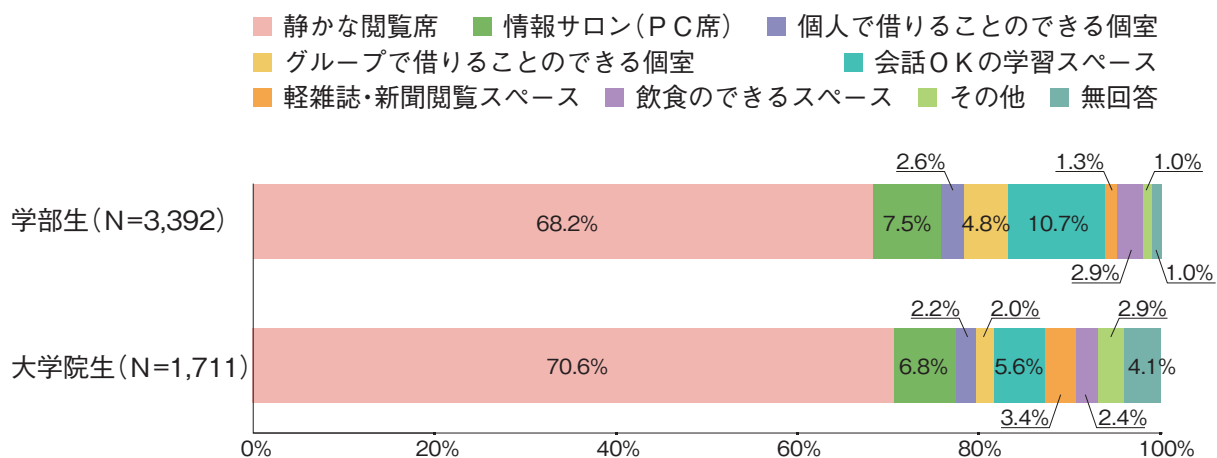
	調査数 (人)	一人で自習	図書・雑誌の利用	調べもの	グループで学習	文献の取寄せ	情報交換・時間つぶし	コピー・印刷	PCの利用	その他	無回答
学部生	3,392	2,379	1,634	1,002	780	238	486	450	413	62	84
大学院生	1,711	691	1,184	722	123	450	132	149	154	19	53



### (3) 図書館でよく利用するスペース

「静かな閲覧席」を利用する学生が2 / 3を超え多数派であり、その他「PCのある情報サロン」、「グループで使える個室」、「会話 OK の学習スペース」などサロンとして使用するものも有るようです。

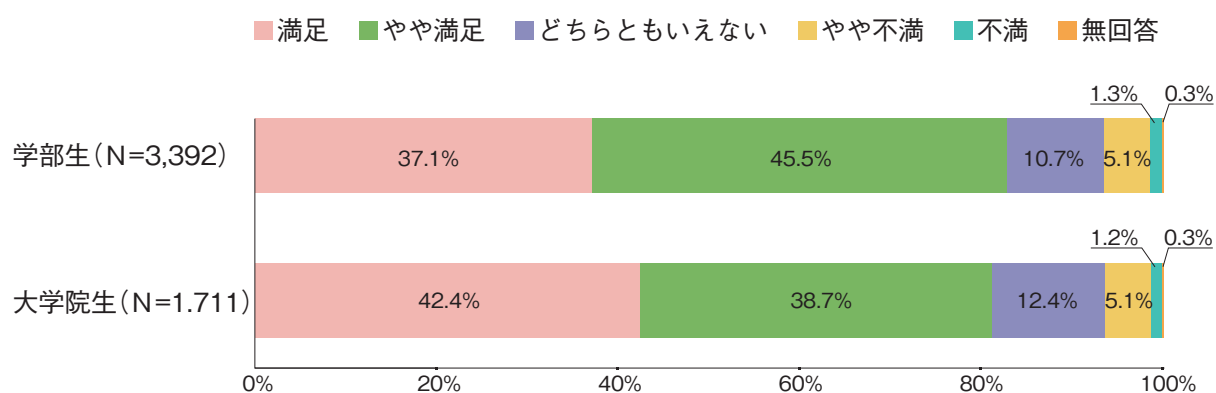
	調査数 (人)	静かな閲覧席	情報サロン (PC席)	個人で借りることのできる 個室	グループで借りることのできる 個室	会話OKの 学習スペース	軽雑誌・新聞 閲覧スペース	飲食のできる スペース	その他	無回答
学部生	3,392	2,315	253	87	163	364	45	97	35	33
大学院生	1,711	1,208	117	37	34	95	58	41	50	71



## (4) 図書館の満足度

「満足」、「やや満足」の回答が約80%を占め、「不満」「やや不満」が16-17%という結果でした。前回調査時の満足度は56%、不満足度は19%であり、一見、満足度が向上したようにも見えますが、前回は無回答が23%もあり、単純な比較はできません。

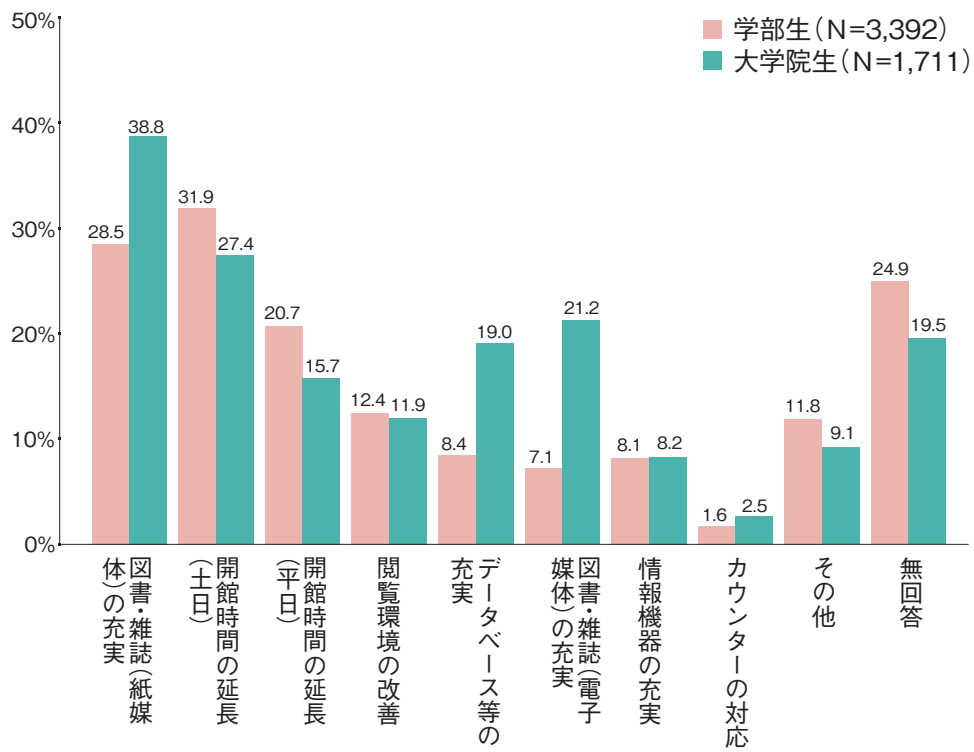
(人)	調査数	満足	やや満足	どちらとも いえない	やや不満	不満	無回答
学部生	3,392	1,257	1,545	363	174	43	10
大学院生	1,711	725	662	212	87	20	5



## (5) 図書館に改善してほしいこと

「図書・雑誌(紙媒体)の充実」「開館時間の延長」が最も大きな要望であることは、前回調査時と大きく変わりません。「開館時間の延長」の中でも特に土日の延長を望む声が大きくなっています。また、「データベース、電子媒体の図書・雑誌」のさらなる充実を望む声が大学院生を中心に多く有ることに対しては今後さらに努力していく必要があります。

(人)	調査数	図書・雑誌(紙媒体)の充実	開館時間の延長(土日)	開館時間の延長(平日)	閲覧環境の改善	データベース等の充実	図書・雑誌(電子媒体)の充実	情報機器の充実	カウンターの対応	その他	無回答
学部生	3,392	966	1,082	701	422	286	241	276	54	401	844
大学院生	1,711	664	469	268	204	325	362	141	42	156	334



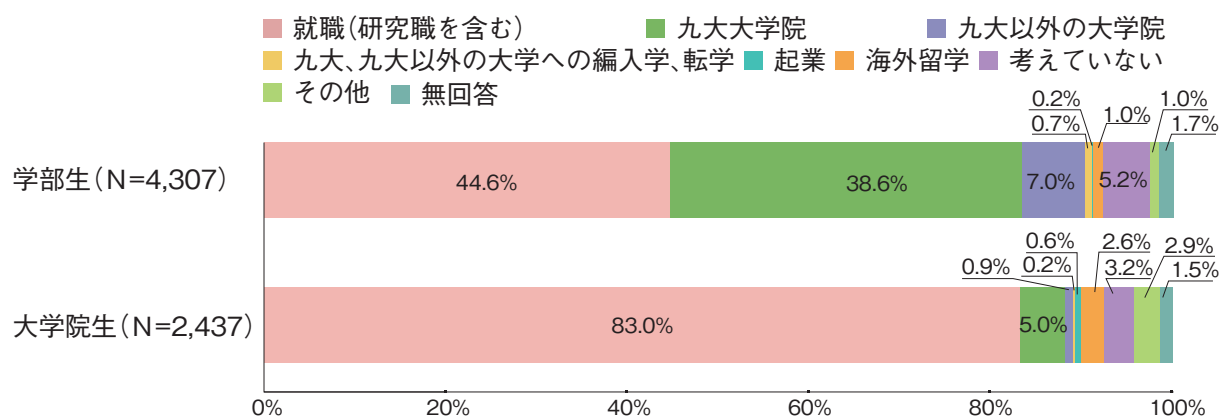


# 第12章 卒業後の進路について

## (1) 卒業後の進路希望

卒業・修了後の進路を考えていないとした学生は、学部生で4.5%、大学院生で3.2%であり、希望の進路としては、就職がそれぞれ44.6%、83.0%と最大でありました。学部生の就職希望が大学院生の半分であるのは、大学院への進学希望が45.6%と高い割合を示すからです。実際、九州大学における大学院への進学率は40%程度で推移しています。大学院への進学を希望している学部生は、その希望を叶えていると言えます。

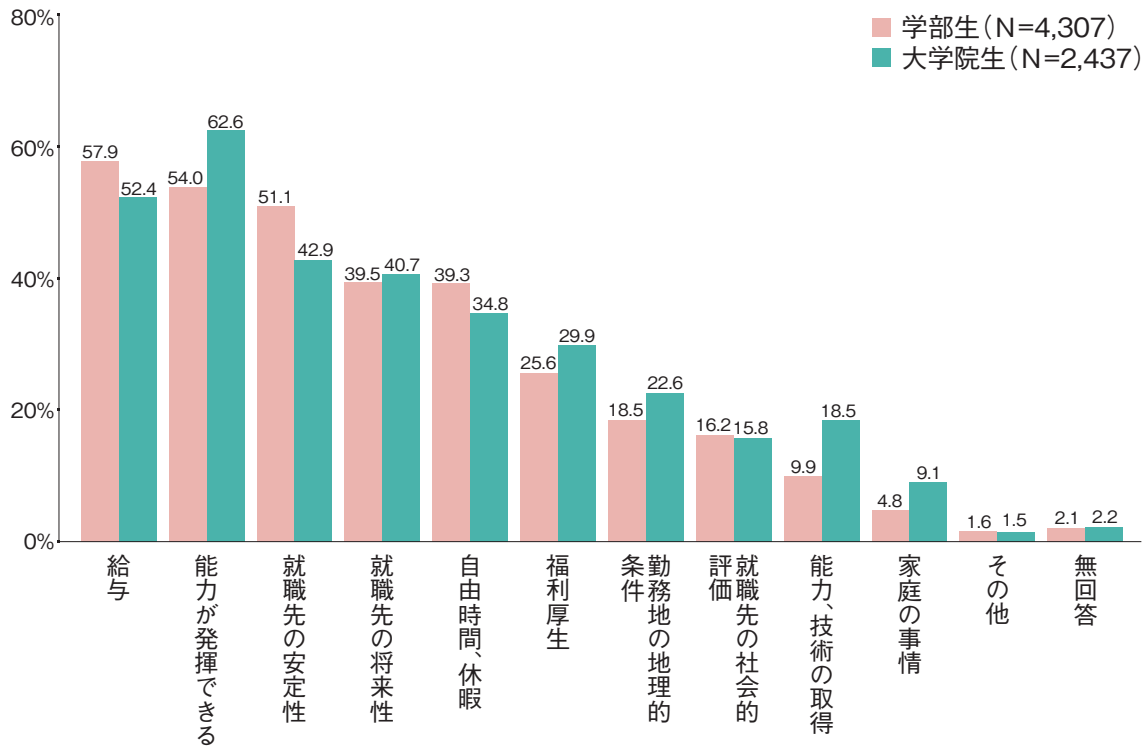
	調査数 (人)	就職 (研究職を 含む)	九大大学院	九大以外の 大学院	九大、九大以外 の大学への 編入学、転学	起業	海外留学	考えていない	その他	無回答
学部生	4,307	1,919	1,664	302	29	10	41	226	43	73
大学院生	2,437	2,023	122	23	5	14	63	79	71	37



## (2) 将来の就職に関して重要視するもの

学部生、大学院生とも、自分の能力が発揮できる職種という回答が最大であり、その傾向は大学院生でより顕著でした。これは、大学院生が、自分の強みとして、大学院で培った専門性を強く意識していることであると思われます。また、給与・自由時間・休暇・福利厚生といった職場環境やいわゆるライフ・ワークバランスへの意識が高いことが見て取れます。これは、就活支援業(マイナビやリクナビ等)でまとめている全国学生の動向調査で示された、楽しく働きたいであるとか個人の生活と仕事を両立させたいという現代学生の就職観とも一致するものです。九大生の特徴は、全国学生平均と一致する就職観の上に、自らの培ってきた専門性を活かしたいという思いが強く乗っていると言えそうです。理系率が高い、九州大学の特徴だとも捉えられます。学生が何を学ぶために九大を選択したかということとも関わっていると言えましょう。また、どこで働くかについてへの意識が高いことが読み取れます。これには、家庭の事情も含まれると考えられます。

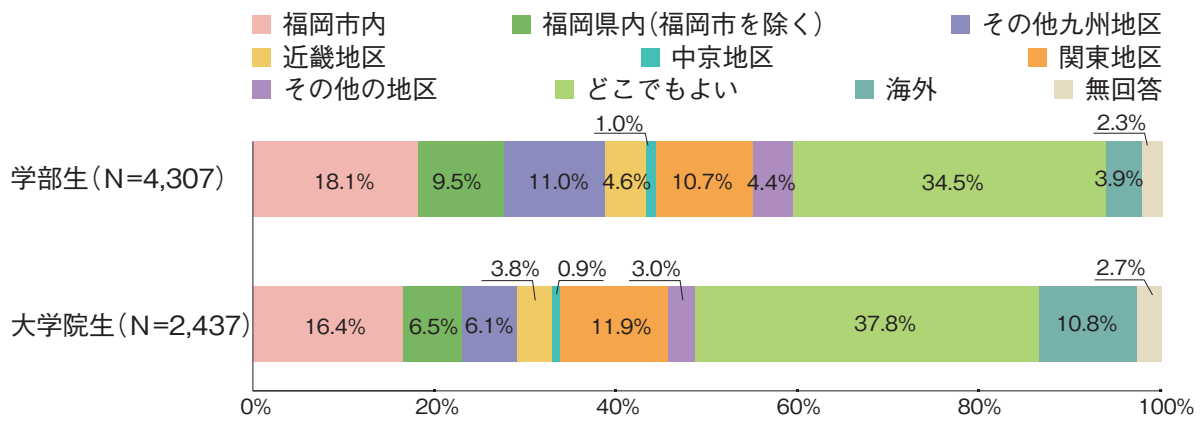
	調査数 (人)	給与	能力が 発揮できる	就職先の 安定性	就職先の 将来性	自由時間、 休暇	福利厚生	勤務地の 地理的条件	社会的評価 就職先の	能力、技術の 取得	家庭の事情	その他	無回答
学部生	4,307	2,495	2,326	2,203	1,701	1,693	1,102	797	698	428	207	69	91
大学院生	2,437	1,278	1,525	1,046	993	848	728	551	386	452	221	37	53



### (3) 希望する勤務地

学部生、大学院生とも、どこでもよいという回答が34.5%、37.8%と最も高い割合を占めます。一方、福岡市内、福岡県内、その他九州地区、といった、いわゆる地元志向型あるいは大学所在地定着型の回答も25.2%（全学平均）と高いものでした。就活支援業による全国学生調査では、希望勤務地として、福岡地区は高い数字を出しており、若年層流入数の傾向と一致しています。福岡地区が、全国的にも魅力的な生活圏であると言えるかもしれません。また、政府は人口減少と地域経済縮小の克服に向け、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」において、自県大学進学者の割合は平均36%、新規学卒者の県内就職の割合は平均80%を目指すという方向性を示しています。九大生の地元志向を、一概に内向き志向と断ずるのは難しいと言える環境になってきていることも配慮すべきかもしれません。

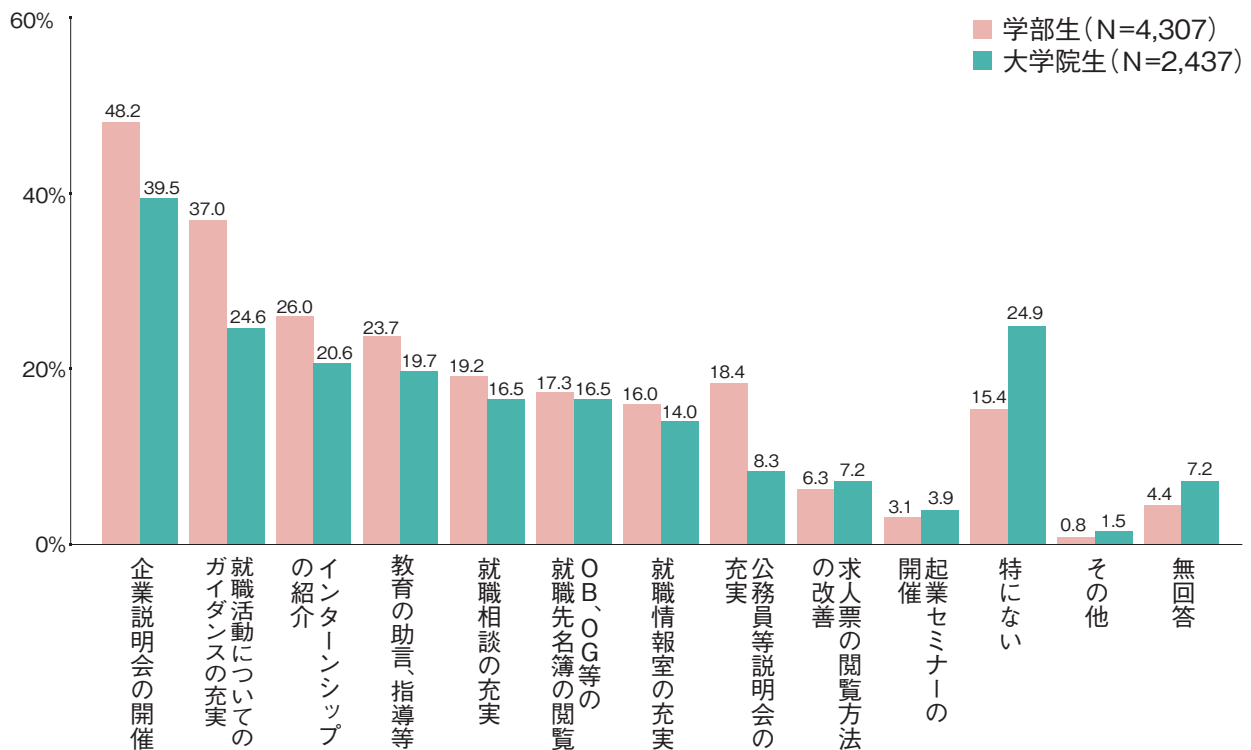
	調査数 (人)	福岡市内	福岡県内(福岡市を除く)	九州地区 その他	近畿地区	中京地区	関東地区	その他の地区	どこでもよい	海外	無回答
学部生	4,307	781	411	475	197	42	460	188	1,486	170	97
大学院生	2,437	400	159	149	92	23	289	73	922	263	67



#### (4) 就職に関して大学に希望すること

学部生、大学院生とも、企業説明会の開催(45.0%)、就活ガイダンスの実施(32.5%)、インターンシップの紹介(24.0%) (( )内数字は全学平均、複数回答可)が上位を占めました。また、教員による助言・指導を求める声も高く、学部生で23.7%、大学院生で19.7%でした。今後、全学あるいは部局による学生向け就活支援企画だけでなく、教職員への就活情報の提供等が、全学的に求められるのかも知れません。

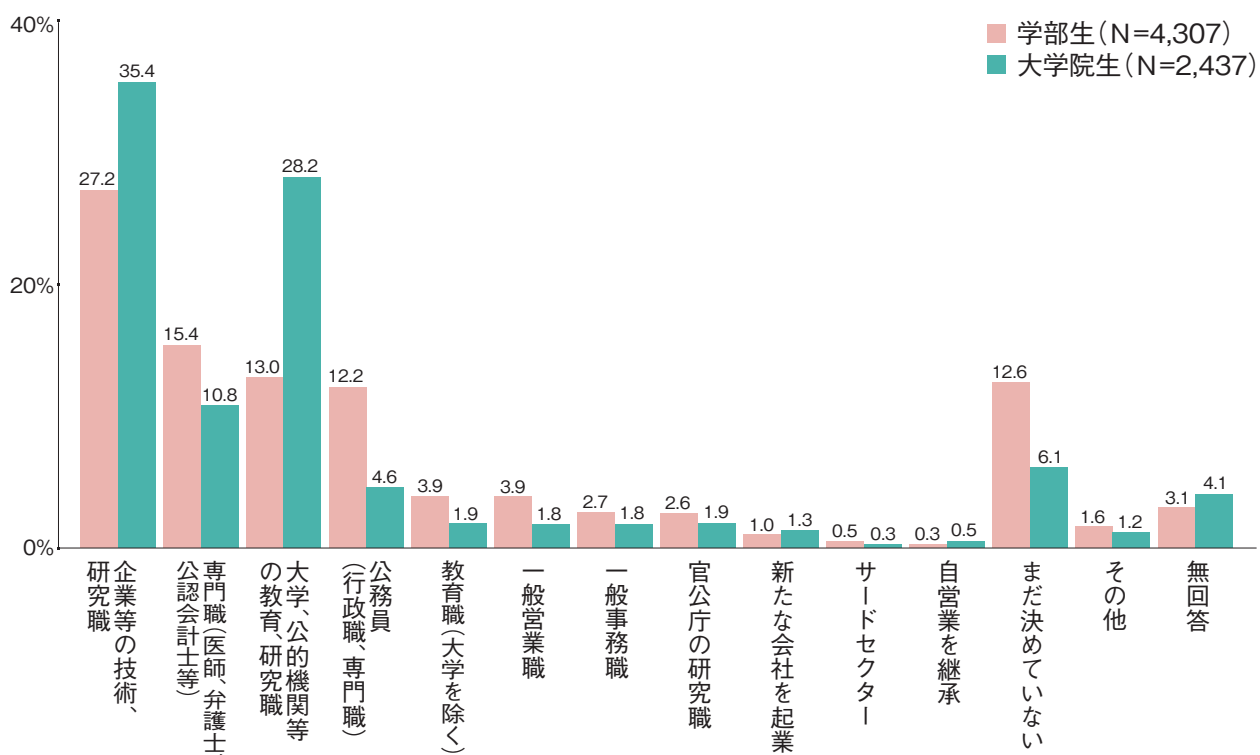
調査数 (人)	企業説明会の開催	就職活動についてのガイダンスの充実	インターンシップの紹介	教員の助言、指導等	就職相談の充実	OB、OG等の就職先名簿の閲覧	就職情報室の充実	公務員等説明会の充実	求人票の閲覧方法の改善	起業セミナーの開催	特になし	その他	無回答	
学部生	4,307	2,078	1,593	1,119	1,021	827	744	691	271	132	663	35	191	
大学院生	2,437	962	600	501	479	402	402	342	202	176	94	606	36	175



## (5-1) 就きたい職業第1位

就きたい職業については、自ら培ってきた専門性を活かすべく、企業等の技術、研究職(学部:27.5%、大学院生:35.4%)とか大学、公的機関の教育、研究職(学部:13.0%、大学院生:28.2%)を目指す者が多い。特に大学院においてこの傾向は強い。一方、国家資格を要する専門職(医師、弁護士、公認会計士等)においては、学部生(15.4%)の方が大学院生(10.8%)より目指す比率が高いことが特徴です。公務員志望でも、学部生(12.2%)の方が大学院生(4.6%)より目指す比率が高いことが見て取れます。このように、就職に向け、試験のための準備期間が必要なものでは、学部生の志望が高い傾向があります。また、新たな会社の起業を目指すものも、一定の割合存在することが見て取れました。全体に、理系学生の意向が強く出た結果でありました。

	調査数 (人)	企業等の技術、研究職	専門職(医師、弁護士、 公認会計士等)	大学、公的機関等の 教育、研究職	公務員 (行政職、専門職)	教育職(大学を除く)	一般営業職	一般事務職	官公庁の研究職	新たな会社を起業	サイドセクター	自営業を継承	まだ決めていない	その他	無回答
学部生	4,307	1,171	665	561	527	166	166	116	113	45	20	13	544	67	133
大学院生	2,437	863	264	687	113	46	45	44	46	32	7	11	148	30	101



### (5-2) 就きたい職業第2位

(人)	調査数	企業等の技術、研究職	公務員 (行政職、専門職)	官公庁の研究職	大学、公的機関等の 教育、研究職	教育職(大学を除く)	専門職(医師、弁護士、 公認会計士等)	一般事務職	一般営業職	新たな会社を起業	サイドセクター	自営業を継承	まだ決めていない	その他	無回答
学部生	4,307	414	365	289	305	157	174	191	145	85	24	26	-	10	2,122
大学院生	2,437	219	174	233	178	150	74	61	55	61	27	17	-	8	1,180

### (5-3) 就きたい職業第3位

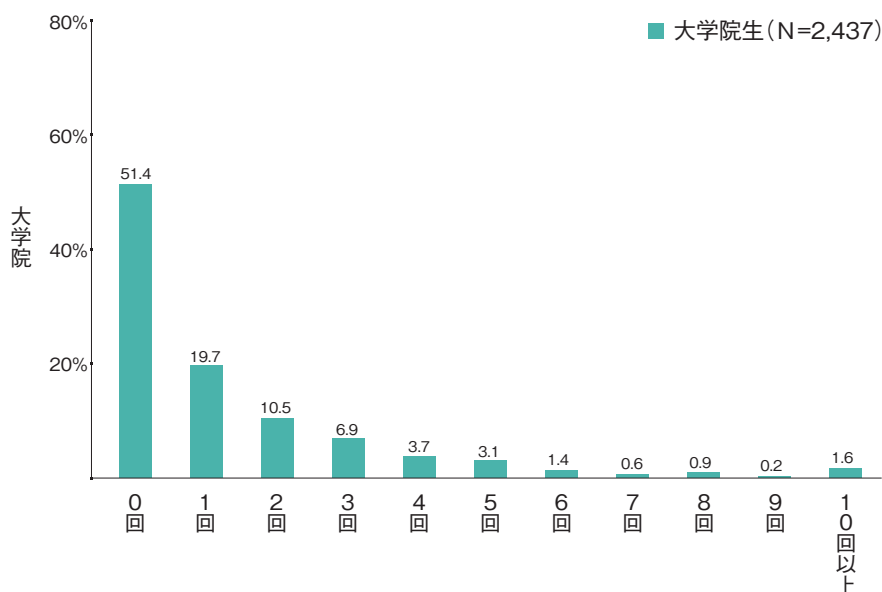
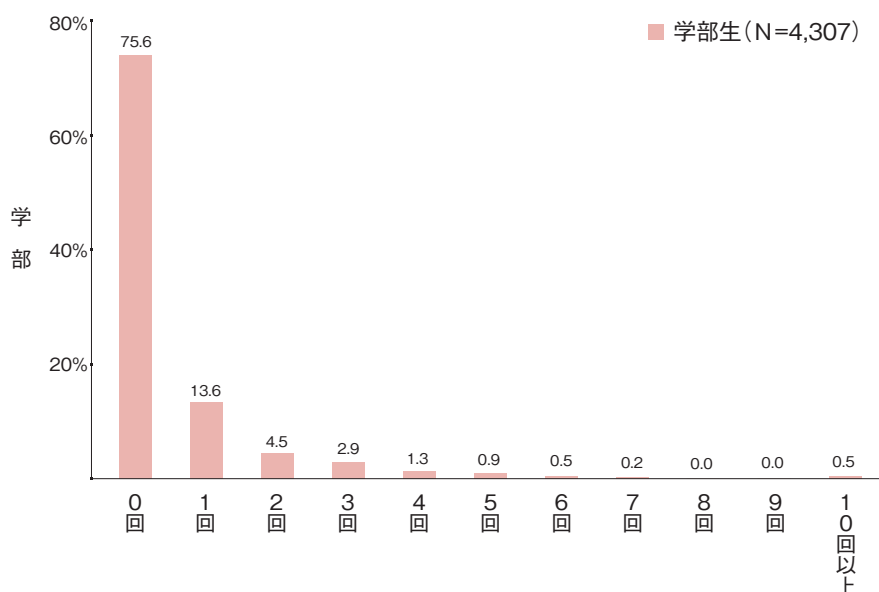
(人)	調査数	企業等の技術、研究職	官公庁の研究職	公務員 (行政職、専門職)	大学、公的機関等の 教育、研究職	一般事務職	一般営業職	新たな会社を起業	教育職(大学を除く)	専門職(医師、弁護士、 公認会計士等)	自営業を継承	サイドセクター	まだ決めていない	その他	無回答
学部生	4,307	216	179	224	188	133	136	82	78	75	30	33	-	12	2,921
大学院生	2,437	140	168	113	97	48	47	57	53	38	21	16	-	6	1,633

# 第13章 海外渡航・国際交流について

## (1) 九大入学後に海外渡航をした回数

学部生の3/4、大学院生の1/2が在学中に海外渡航を経験していないと答えています。前回調査時と大差はありませんが、学部生については、前は渡航経験者が32%あり、今回その数字は減っています。

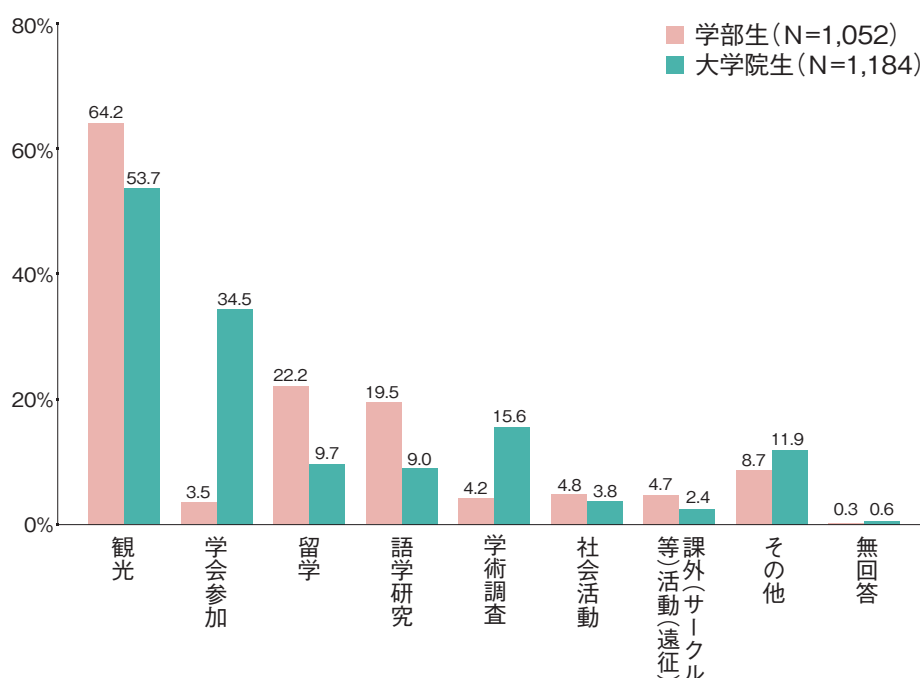
(人)	調査数	0回	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	10回以上
学部生	4,307	3,255	584	195	125	55	37	21	9	2	2	22
大学院生	2,437	1,253	481	256	167	90	76	35	15	23	4	37



## (2) 海外渡航の目的

学部生、大学院生ともに5 - 6割は観光目的で渡航しており、次いで、大学院生では学会参加と学術調査など研究上の渡航が大きな比重を占め、国際的に研究活動を行っていることがわかります。また、学部生では留学・語学研修がそれなりの目的になっています。

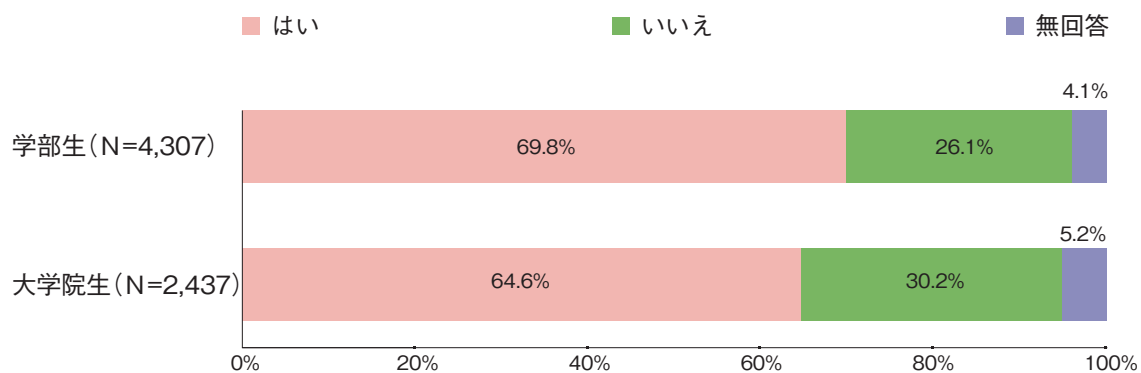
(人)	調査数	観光	学会参加	留学	語学研修	学術調査	社会活動	課外(サークル等)活動(遠征)	その他	無回答
学部生	1,052	675	37	234	205	44	51	49	92	3
大学院生	1,184	636	408	115	107	185	45	29	141	7



## (3) 交換留学制度の認知度

学部生および大学院生ともに本学の交換留学制度を知っている学生は6割を超えていて、前回調査時に比べ認知度は上がっているようです。

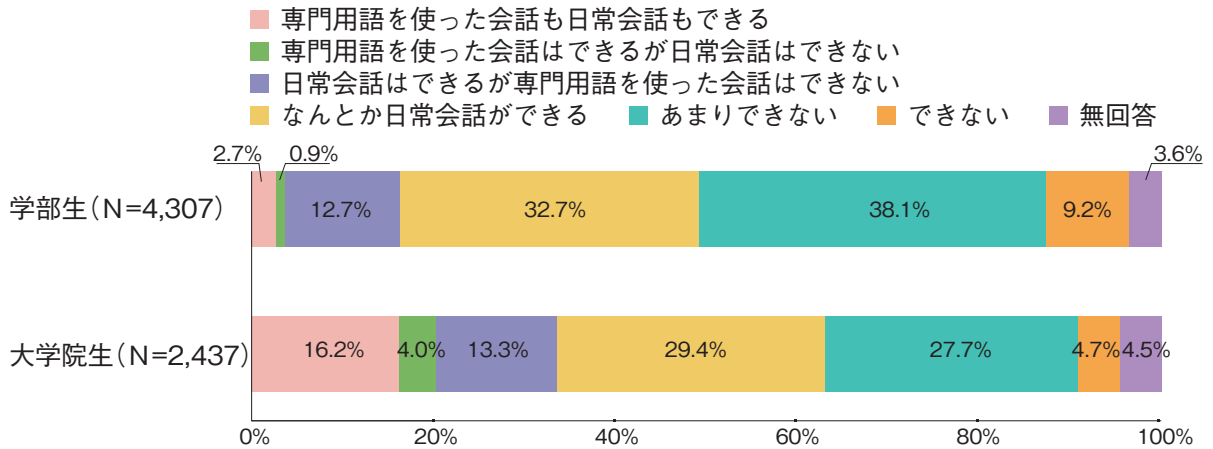
(人)	調査数	はい	いいえ	無回答
学部生	4,307	3,006	1,124	177
大学院生	2,437	1,574	737	126



#### (4) 外国語での会話の状況

前回調査時は無回答が20%前後有り単純な比較は出来ませんが、今回「あまりできない」、「できない」が学部生47%、大学院生32%で、前回調査時と比べ大きな変化は見られませんでした。ただし、大学院生で「専門も日常会話もできる」と答えた割合が、前回4%から今回16%に増えたことは心強く思います。

調査数 (人)	調査数	専門用語を使った会話も日常会話もできる	専門用語を使った会話はできるが日常会話はできない	日常会話はできるが専門用語を使った会話はできない	なんとか日常会話ができる	あまりできない	できない	無回答
学部生	4,307	117	39	548	1,407	1,643	396	157
大学院生	2,437	396	98	325	717	676	115	110

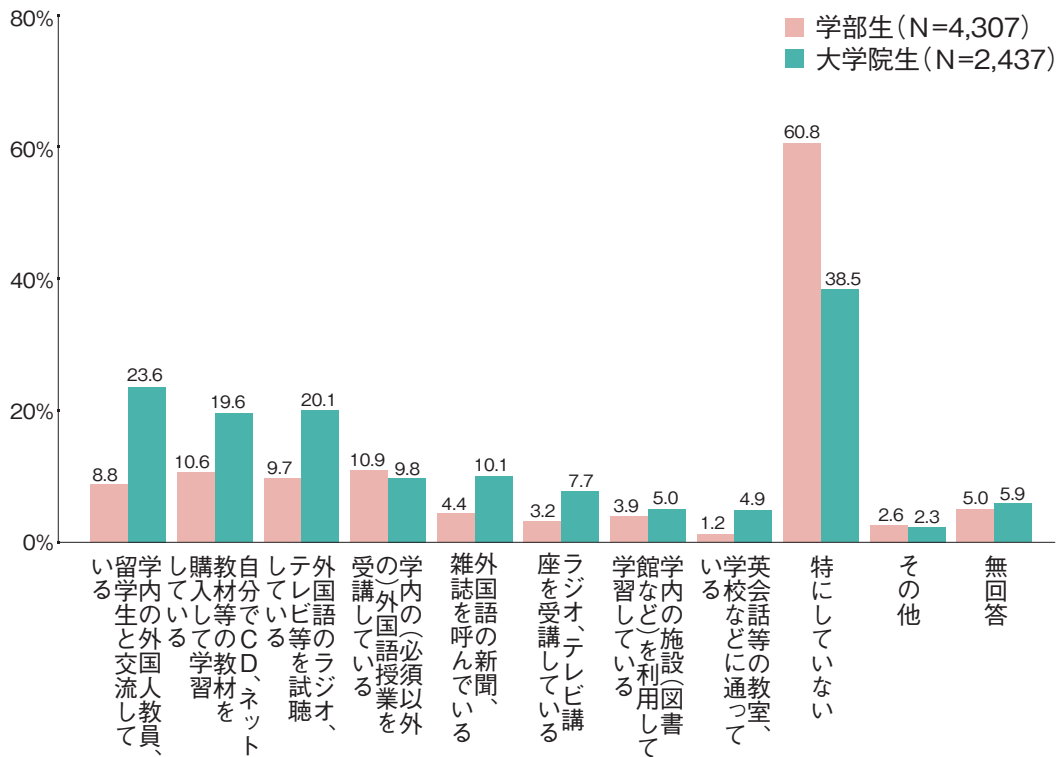


#### (5) 語学力を高めるために行っていること

大学院生になると語学への関心が高まる事が明確に現れています。しかし、「特にしていない」割合が、学部生で6割、大学院生で4割弱あることは、まずは語学向上の意識をより高める必要性を強く感じます。学内の外国人教員および留学生との交流も学部生で一割以下、大学院生でも1/4程度に留まっていることは非常に残念です。一方で、自由記述欄では、日本人学生と留学生との交流の場を提供してほしいとの声が多くあがっていました。

調査数 (人)	調査数	学内の外国人教員、留学生と交流している	自分でCD、ネット教材等の教材を購入して学習している	外国語のラジオ、テレビ等を視聴している	学内の(必須以外の)外国語授業を受講している	外国語の新聞、雑誌を読んでいる	ラジオ、テレビ講座を受講している	学内の施設(図書館など)を利用して学習している	英会話等の教室、学校などに通っている	特にしていない	その他	無回答
学部生	4,307	381	456	419	468	191	136	166	52	2,618	110	214
大学院生	2,437	575	478	491	238	247	188	123	119	938	57	145

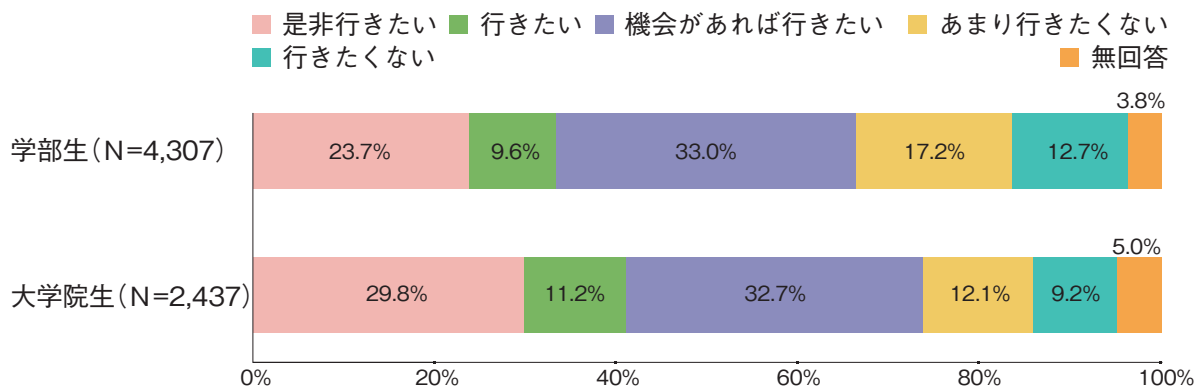




## (6) 留学や研究を目的とした海外渡航の意向

「是非行きたい」、「行きたい割合」が、前回調査時は、学部生 27%、大学院生 32%でしたが、今回学部生 33%、大学院生 41%と増加しており、「機会があれば行きたい」を含めれば2 / 3 以上は海外渡航を希望していると見ることが出来ます。しかし、海外渡航を望まない学生が学部生 30%、大学院生 21%の割合でいることは注意しなければなりません。

	調査数 (人)	是非行きたい	行きたい	機会があれば行きたい	あまり行きたくない	行きたくない	無回答
学部生	4,307	1,021	412	1,423	739	549	163
大学院生	2,437	726	272	798	294	225	122



## 第14章 自由記述

寄せられた意見や要望は多種多様でありましたが、いずれも真剣に考えて記述している姿勢が感じられる貴重な内容でした。文末を「～だ・である調」に統一した以外は基本的に原文そのままを掲載しています。(事実誤認等の場合も含まれている可能性があります。)

### Q01 [本調査について]

調査内容が多岐にわたり、質問項目数が多くなってしまい、学生への負担は大きなものになってしまいました。しかし、学生の生の声を聞く機会としては、重要であるとの意見も多く、さらに、調査結果を公表し、大学の改善に活かすことにつなげてほしいとの意見が多数寄せられました。大学移転の真っ最中であることから、直接的に改善に活かせる声もあるはずだとの指摘もありました。また、アンケートに答えることで、自らの学生生活を見直すきっかけになったとの意見も寄せられました。前回のアンケート結果から行った改善事例をまとめたことも、概ね高評価でありました。

- 全学生の生活のみならず、学習環境の向上において非常に有効であると思う。
- 正直、面倒くさいが、頻繁にやっていい。より良くするには生の声をきくのが一番だと思う。
- 学生のことを知ろうとするよい調査だと思う。ぜひ、毎年改良を重ねてやってほしい。
- 学生の声を聞く数少ない機会であるため続けてほしい。
- 大学への意見が言える良い機会だと思った。
- 不満や心配があってもどこに言ってもいいかわからないものも多いので、いい機会になった。
- 集まった意見を参考に、改善出来るところは改善してほしい。
- フィードバックされることを期待します。
- この調査を通じて自分を見つめ直すことができた。
- 前回の調査をもとに改善されたことが多くあると知っていいと思った。
- 学生の意見を汲もうとする意志が感じられてうれしい。

#### 留学生からの意見

- I think it is very good to provide this questionnaire to ask many students who living at Kyusyu university because you can pick up some suggestion/recommendation to improve and develop the university and other services.
- This survey is good and necessary to improve the quality of campus life.
- Very interesting. It should be conducted once per year. So Kyudai can improve regularly. Details are good enough.

このように、九州大学に在籍する学生として、積極的に調査に関わることで、大学の改善に関与したいという前向きな声とともに、本調査に対して懐疑的あるいは実施法の改善を求める声もかなりの数になりました。紙媒体ではなく Web アンケート形式を望む声や、学部生と大学院生では、同一の選択肢では答えにくいという声が目立ちました。特に、大学院生より、質問項目が明らかに学部学生を対象としているものも散

見られるとの指摘があり、今後の質問項目の検討が必要であることが判りました。さらに、経済状況を尋ねる設問は、かなりプライバシーに踏み込んでくるものもあり、答えづらいとの声がありました。また、調査票の配布・回収についても検討が必要です。以下に、それらの自由記述を示します。

- インターネットによる回答を検討してほしい。
- 量が多い。質問を絞って欲しい。
- 大学院生向けは別で作った方が良かった。
- 学部1年生では答えづらい問いも多かった。
- 臨床大学院生(医業系)には、質問の内容(収入・住居など)がかみ合わないと思われた。
- 留学生と日本学生を分けて調査してほしい。特に M(卒業後の進路)と N(海外渡航・国際交流)の質問は立場の違う問題がある。
- 自由記述 Q07 について。女子学生のみ尋ねるのではなく、男女両方に尋ねるべきだと思う。
- 大学としてこのような調査を行っていること自体はありがたい。ただ、学生が言いたいことと大学が調査したいことには、隔たりがあるように感じる。
- 一般的な問題が多く、生活と研究に関する具体的な問題の解決について不足だと思う。
- 支出と収入のことは書きづらい。必要性がわからない。
- 調査結果を各種環境の改善に役立てるためには、調査間隔を狭めた方がよい。
- 一旦研究室で回答を取りまとめて提出する場合、内容の秘密は守られているか不安。第三者が回収するとか web 上で回答すると言った方法であれば安心。
- 自分で学務課に取りに行くという方法では多くの学生が取りに来ないと思う。

## Q02 [教育体制について]

基幹教育と専攻教育について分けて記述します。

### 基幹教育について

まず、基幹教育についての自由記述について、開始後1年半の段階でのアンケート調査であるにも関わらず、非常に多くの声が集まりました。学生にも強い関心があることがうかがえます。アクティブラーナーの育成という趣旨は学生にも届いているように思われます。主体的に学ぶことの重要性は、学生にも届いていないのでしょうか。その趣旨が学生に届いた上での意見としてみるならば、基幹教育の形骸化について、既に言及がある点をしっかりと受け止めるべきなのかもしれません。各講義担当者が、基幹教育の趣旨を理解して、教えの最適化を考えて講義をしているか、疑問が持たれるとの意見には、耳を貸す必要があるのではないのでしょうか。

例えば、文系ディシプリン科目の理念として、文系研究の基盤となる専攻基礎をして教授するということが挙げられております。しかし一方で、自らの人生を豊かにするための教養を学ぶために受講したいとする、特に理系学生が一定数いることも見て取れます。この点のすり合わせを行っていかないと、基幹教育の理念が、講義担当者自らの研究領域に近いところを深く教えることで文系ディシプリンとすることの免罪符化につながってしまうことを意識しないといけないのではないのでしょうか。かといって、学生の要求や学習意欲だけをすくい取るようになって、それはそれで問題を引き起こすことになるのかもしれません。講義目的の明確化と、どのように社会につながるかという流れを意識することが重要になるのかもしれません。以下に、学生からの自由記述を示します。

- 基幹教育セミナーや課題協学科目など学生の学習に対する意欲向上や姿勢の見直しを図るということ

自体はよいが、あまりに学生のレベルに合わせた講義や活動が多くなるのは良くないのではないか。

- 「アクティブラーナー」になるという目的にふさわしい教育だと思う。前期に必修が多すぎた。後期がすかすかなのでバランスよくしてほしい。
- 大学が決めた教育体制をいかに教員の皆様に広めることができるかが課題かと。特に、基幹教育は、理念が重要だと思うので、その周知は徹底してほしい。課題協学や基幹教育セミナーについては、H25年以前入学者の立場から見た今の学部1,2年生の状況を見る限りある一定の効果があると見る。プレゼン力も。
- 基幹教育の益々の充実、昨・今年度の一部の講義では、教員自身が何をやったらよいのか分かっていないようであった。また、「課題協学科目」について、彼の講義内容で目的が真に達成され得るか、学生の実態等と照らし合わせて今一度考えるべきである。
- 理系ディシプリン科目で文系が習っていない分野を教授が把握することなく文系と理系に同じように学ばせるのは無理があると思う。
- 理系学生がもう少し文系ディシプリンをとりやすくしてほしい(時間制)。文系ディシプリンの学問内容が狭いものばかりで教養の点では不足の様な気がする。
- 基幹教育の間だけでも受けたい授業を受けられるようにしてほしい。特に文系ディシプリン科目、課題協学。CALLは骸形化が深刻。内容、システム共に改善を急いでほしい。
- "GPA値が2以上でないと卒業できない"といったような学生を追い立てる施策でなくて、少人数セミナーや総合科目、低年次専攻科目の充実など「学生をやる気にさせる施策」が必要だと思う。

## 専攻教育について

学部・大学院、理系・文系で特徴的な意見が提出されました。

大学への進学は、学生自らの専門性の獲得と深化が重要になっていきます。基幹教育のディシプリン科目だけでは、カバーされる領域に偏りがあるので、講義担当者から、幅広い研究領域についての講話が聞きたいという声があります。これは、学生にとって、その後の進路を考える上での大事な材料となるわけです。また、学部の先輩との交流がとれるように、大学(各部局)で具体的な方策を提供してもらいたいとの声もあります。初年次学生が、専門に触れるため、気軽に参加できるセミナーの開催を望む声もあります。

成績の基準についても、納得しかねている声が多いです。教室内の「学びに対する熱」についても、担当教員の責任と考えるならば、だらけている学生が一定数以上いることに対する対策も必要なのではないでしょうか。学生たちの学びに対するモチベーションを引き上げるために、社会(あるいは世界)とどのようにつながっていくのかを示すことは役立ちそうです。

また、大橋にいと、文系の講義に関する情報がほとんどなく、自らの教養を豊かにするための講義にアクセスできないとの声もあります。

病院地区では専攻教育のカリキュラムに窮屈さを感じているという声があります。カリキュラム理念を学生にしっかりと伝えることが大事になりそうです。

以下に、学生からの自由記述を示します。

### 【学部・文系】

- ゼミや就職等にGPAが関係するため、好きな授業というよりはGPAが取れる授業を受けなければいけないことがおかしいと思う。大学生の学力が落ちていると言われている所以なのではないか。
- シラバスの内容をちゃんと書いてほしい。
- 教職に対して、もう少し授業時間割を考慮してほしい。
- ブラウンバックレクチャー形式で気軽に休み時間に教授の面白い研究を簡単に知ることができる交流の場があれば、「大学の学問」に1年生の頃から興味を持てたと思う。
- 教員に研究者としてだけでなく教育者としても立派であってほしいし、力を注いでほしい。

- 教員との対話を希望。
- 学生と先生の距離が遠い。特別な授業のお知らせをもっとしてほしい。
- 先生はもっと自分の研究について話をしてほしい。
- 学生間の情報共有を更に深められる仕組みが欲しい。特に先輩—後輩間。各々の情報取得、コネクションに任せるのではなく、九大側が設けるなどしてほしい。
- 九大博物館の資料散逸の危機を何とかしてほしい。大学の本質に関わる。
- 21世紀プロジェクトにいる身としては大変満足。もう少し基礎を学びやすい体制(2プロ必修と他学部必修が重ならない等)を整えればよりよいと思う。

#### 留学生からの意見

- Japanese class is so interesting but, some professors and teachers are too busy to hear my questions and problems.
- Back in my home country, I am used to much more rigorous education system compared to here in Japan.

#### [学部・理系]

- 授業カリキュラムを一貫してほしい。体系的に学びたい。
- 授業科目の、研究への結びつきを明確に提示してくれれば、研究室選びの参考になる。
- 実習講義をより多く設けないと、学習した内容が身に付きにくいと思う。
- 他学部の内容(理系学部だが、文系学部の内容)も学びたいと思っているものの、情報がほとんど入ってこないまま卒業の年度を迎えてしまった。
- レクチャースタイルよりも、もっと積極的に、もっとオープンに討論し、アクティブラーニングを実行してほしい。
- もっと実習を増やすべきだと思う。カリキュラム変化のスペンが短すぎる。
- もう少し学生と教員や学生と学生の話し合いの場を提供してほしい。
- 評定方法・基準をもっと厳しくすべき。今のままだと高校の内容すら理解できなくても単位が取れる科目が多すぎる。
- 同じ科目でも教員によって指導方法、評価基準に差が有り過ぎるので、もう少し統一した方が良い。
- まわりの学生の中でも、授業に対し、積極性がなく、だらけているような人が多くいた。出欠や小テストなど学生の授業態度を向上させるようにしてほしい。
- 学部・学科の枠を越えて、もっと自由に授業をとれるようにしてほしい。
- 先生によって授業のレベルに差がある。(内容ではなく、授業への準備など)
- 大学に入学したはずなのに、まるで高校に通っているような感覚がある。もう大学生なのだから、もっと学生の自主性に任せても良いのではないだろうか。毎回、出席をとったり、課題を出す授業も多いが自分が興味ある分野なら皆進んで自分から学ぼうとするのではないか。
- 留学に対する援助が足りていないと思う。多くの学部・学科では、交換留学をすると一年間留年しなければいけないからだ。
- フィールドワーク系の集中講義を増やしてほしい。自分の専攻ではない学部・学科の授業も履修でき、単位がでるようにしてほしい。語学力を高めさせるようなイベント、特別講義などもっとしてほしい。
- 今年から言語文化研究院箱崎分室などの制度が変わり、英語の授業(必修でない)のレベルが下がった。「グローバルゼーション」を推すなら、もっと英語の授業を充実させたり、もっと留学生と交流しやすくしてほしい。また、他学部授業の受講のハードルが高すぎる。
- 世界の諸問題を伝えていくべき。
- 交換留学の先が少ないことに驚いた。海外との interaction が少ないのではないだろうか。
- もっと海外に出る学生を増やすべき。もっと留学生と関わる機会を増やすべき。もっと discussion をする授業を増やすべき。外国の先生が全部英語でする授業を増やすべき(単なる writing や Reading など

の英語の授業ではなく「The law and politics」のようなもの)。

- 最近はじめてQ-RECの授業を受け、もっと早く知っておけばよかったと心から思った。もう少しいろいろな制度についての認知度が上がればいいなと思う。

### [大学院・文系]

大学院は、教育機関なのではないかという根源的な声がありました。研究をより実りあるものにするために、『教育』ができることが多くあるのではないのかという提案であろうかと思います。

また、多くの研究室や教員(専門家)がいるのだから、もっと、交流を持ちたいという声もありました。社会(あるいは世界)とどのようにつながっていくのかを示すことは、学生たちの学びに対するモチベーションを引き上げることに役立ちそうです。以下に、院生からの自由記述を示します。

- 大学院生に対して、指導を多くして欲しい。研究の本質を理解させて欲しい。
- ゼミの充実と教員からの指導の充実を希望。
- 学内で、講義以外の時間で、種々な研究に携っている方々を招いて、話を聞ける機会が増えると嬉しい。国外問わず第一線で働いている方々の話を聞くことで勉学のモチベーションも格段に上がるのではないかな。
- 大学院基幹教育は講義テーマがあらかじめ定められたものが多く、専門の学習、研究との兼ね合いもあって参加をためらっている。専門外の諸分野や学際的交流は趣味としては個人的に学んだり実践したりしているが、授業という制度の中では自分のペースで無理なくやっていくことが難しい。講義テーマを特に定めず、自分の専門分野や研究についても発表し合うことで学際的交流経験を提供する科目が開講されれば、より多くの院生が関心を持ち、また新たな発想を生み出す場になるのではと考える。
- 総合大学なので、幅広い分野を受容する機関であって欲しい。
- 留学の機会をもう少し増やして頂きたい。

### 留学生からの意見

- もっと海外の大学を見てほしい。この大学に来てもっとも残念だと思った事の1つが教育の質である。
- Please providing more information of the curriculum in English.
- 留学生向けの教育指導や情報公開などを改善してほしい。語学力、特に学術語学力を高める講座や指導を受けたい。論文の母語話者のチェックなどの支援をしてほしい。
- 日本で就職したいが、就職について情報が少ない。企業との交流会や卒業生との交流会(特に留学生の先輩)があれば、留学生の就職に役に立つと思う。
- 留学生と日本人学生の隔たりを感じる。もったいないと思う。

### [大学院・理系]

九大には多くの研究室があり、多岐にわたる教員(専門家)がいるのだから、もっと、交流を持ちたいという声がありました。専攻あるいは学府横断型の実践教育を取り入れる等、社会(あるいは世界)とどのようにつながっていくのかを示すことは、学生たちの学びに対するモチベーションを引き上げることに役立ちそうです。以下に、院生からの自由記述を示します。

- 各研究室の学生同士の研究発表会は良い刺激になる。しかし、各研究室の教授の研究を聞く機会がないので、ちゃんと研究しているのかよく分からないし、教授の研究発表を聞いてノウハウとかを学びたい気持ちがある。
- 専攻間、学府間での講義等を通じた交流が欲しい。異分野間での発表の場が無く、所属ごとにレベル差を生じかねない。
- 大学院は特に研究室の外に出ることが少なくなりがちなので、縦の枠組みを超えた教育・指導体制があると見識が広がると思う。

- 他の大学との共同研究が多くなればありがたいと思う。また、院生の授業の成績基準をもっと厳しくしないと、と思う。
- 工学的知識をもっと得たかった。もっと外部にコミットする為の働きかけも欲しい。
- 教養に関して、もっと自由度を高めてもいいのではないかと思う。最終的には専門に入る所以他学部との交流も増えて見聞を広げる機会が増えればいいなと思う。
- 理系にも文系科目の履修は必要だと思う(教養として)。逆もしかり。
- 院生の授業に関して、課題が多すぎて研究をする時間がだいぶ削られた。研究者である教授の考えを一般企業に就職する学生に押し付けないでほしい。自分の目で見える世界がすべてだと思わないでほしい。見えない所で頑張っている人もいる。
- 言語を学べる制度などがあれば嬉しい。理系は学生が進むにつれて忙しいが時間の合間をぬって言語(英だけでなく他言語)を学べるシステムが欲しい。
- 「教員が自分の研究にさける時間」を増やすべきだと考える。
- 教育的な研究環境作りをして欲しい。学生は労働力ではない。
- 学会参加を奨励する仕組みがもっとほしい。例えば、国際学会での発表や査読付き論文を単位認定するなど、自分の分野と関連の少ない授業に追われ、研究がおろそかになるのは大学院生としては本末転倒に感じる。
- 大学院が就職予備校の様になっている風潮を改めるべき。
- 九大の教育は、他大学の後追いになっている。時代の流れを読み、九大だからこそできる教育というものをを見せてほしい。
- 研究者育成という大学側の目的が強すぎて、学部生の頃に就職について考えることが全くなかったように思う。1度だけでもいいので、公務員や企業の紹介などを皆がいる場でしてほしい。
- 授業を行う講師は、自身が「教育者」でないと感じていると感じる。「教える」事を考えなおし、改めてほしい。「研究者」である「教育者」だからできることもあるはずだ。
- 学部の講義は学生の意見を拾うアンケートなどがあるが、研究室やゼミの方が、学生の人生を左右しかねない重大なものなのに、そういう機会がないのが気になる。先生方は研究のプロであることは保障されている(されているべき)一方、学生指導もプロでなければ大学に対する満足度は下がってしまう。

#### 留学生からの意見

- Encourage/introduce open days (maybe monthly) for different schools to get to share about the kind of research being undertaken, or on emerging things. Because currently, students are only limited to what their laboratory is doing. Therefore we miss out on so much knowledge and opportunities and sharing that the university has within each campus. We fail to appreciate the current potential of the university.
- Thanks to the professors, students and staffs. I am very satisfied with the education system.
- The system is good for Japanese students but not enough good for international students.
- I appreciate the education system here at Kyusyu University is real good system. But I would suggest to encourage use of English language for Japanese students and teachers and wherever possible to conduct more English classes than Japanese classes.

## Q03 [学生支援・相談体制について]

学生支援や相談体制は、全学的な対応と部局ごとの対応がありますが、周知不足であるといわざるを得ない状況です。

全学的な対応組織としては、学生支援センター（新入学生サポート制度・学習サポート制度・進路・就職相談室等）およびキャンパスライフ健康支援センター（健康相談室・学生相談室等）があり、さらに、部局ごとに相談員（教員あるいは専門員）を置いております。

また、弱っている学生が、自ら動くというのは大変なことなので、それを支援できる体制が重要になるかもしれません。全学の対応組織が、部局の学生係や相談員の教員と、密に連携できる体制を作る必要があります。留学生への多岐にわたる支援についても今後の大きな課題です。全学組織と部局とで連携をとって、課題の吸い上げから行う必要があると思われます。

以下に、学生からの自由記述を地区ごとに示します。

### 伊都キャンパス

- 存在を知らない(忘れてい)人も多いので、定期的に告知した方がいいと思う。
- 知らなかった。いつも場所がよく分からないためアクセスをもう少しアピールしてほしい。
- あまりオープンなイメージがない。気軽という概念があやふやであるかと。
- 結局、自分でやらないといけないのだから意味があまりない気がする。先輩などのコミュニティに入れてほしい。
- 九大の中に、学生支援や相談などが充実していることを知らなかった。広報に力を入れるべきだと思う。
- 充実しているとは思いますが、支援・体制があること事体を知らない。使った事のない学生が多いと思う。
- 奥まった部屋などにあり、入りづらさもあるので、もっとオープンな相談室を作って欲しい。
- 相談窓口がいくつもあって、何が何やらわからない状況である。どういった施設でどういった支援が受けられるのかを一枚のポスターか何かにもまとめて頂けると分かりやすい。
- 実際の相談例、解決までの流れをパンフレット等で紹介してほしい。
- 相談をする時に、名前を言わなければいけないのではないかとか、個人情報聞かれるのではないかとかが理由で相談しにくい。どうなっているのか知りたい。
- 相談したくても、研究室のコアタイムがあるため抜けられず、相談に行けない。できれば夜 20 時までとか土日も開いてほしい。
- 就職活動をして感じたことだが、所属コース全体として、就活に対して応援や支援する姿勢がなく、博士への進学を進めることしかなかった。
- 就職活動に関して、OB・OG がいる会社をリストアップして、学生が働きたい会社の OB・OG の方と連絡できるような環境が欲しい。
- 就職相談員さんが 2 人しかおらず、いつも人がいっぱいだった。部屋は 4 つ位あるのに。
- 各学府の学生相談の先生に問題があるときはどうしたらよいのか。しかも、他の先生に話しても、担当でない、彼(女)はそういう人ではない、と言われる。学生目線と教員同士で見せる姿は違うと思うのだが…。
- 就職支援を積極的にしてもらいたい。
- 就活に対して、もっと学生を支援してほしい(九州は遅れており、学校からの支援も遅い。逆に就活を本気でしようとしても、学業が壁になる場合がある)。
- 院生のうち、外部から入って来た人は孤立してしまう可能性も高いので、気を配ってもらえたらと思う。
- 相談に行ったら、期待したアドバイスをもらえないことがままあった。
- 健康相談室の利用状況、予約をネット上で出来るようにしてほしい。
- 英語対応出来る人を配置してほしい。



#### 留学生からの意見

- Provide more guideline in English.
- Service should be given in English. Internships, part time jobs, seminars and other opportunities should have postings in English.
- Student support is good. Do not know about the counseling systems.
- Sometimes I feel reluctant to use the facilities because I am afraid that I will force communication difficulties.
- May need more advertisement.
- For the student support, all staffs of support center are so kind to provide the necessary information that I would like to know. Except for, "supporter" or "Tutor" who is form international student support center provided to me, he should help me to understand many thing that I need to do within 3 months. I know that they have duties to tallectare me until December, but I don't know he could'nt.

#### 箱崎キャンパス

- キャンパスライフ・健康支援センターの健康相談の可能日が少ないように感じる。
- 利用できる日時を増やしてほしい。予約がなくても入れる日を増やしてほしい。
- 行きづらい。行こうという気持ちにならない。いざ困った時に思い出さない。
- アドバイザーは短いスパンでどんどん変えていった方がいいと思う。どうしても好きになれない人がアドバイザーだと、相談したくとも、「その人はちょっと・・・」とためらう。2年位で変われば「次の人になら言ってみよう」と思える。守秘義務を守れていない相談員も学部(学府)の中の相談員には存在するのも事実。
- 学習サポーターを箱崎にも。
- 基本メールに届くアナウンスが大変見辛くなった。

#### 留学生からの意見

- So far so good, but provide staff can support the international students.
- Sometimes difficult to reach due to language problem.
- メールなどで気軽にしやすいと もっと利用しやすいと思う。1人か2人は英語を喋られる人がいたほうがいい。

#### 病院キャンパス

- 学習支援をしてくれる相談室や人数はもっとあってほしい。
- このアンケートの中で全く知らないサポートの仕組みが多数出てきた。
- 健康(学生)相談室のカウンセラーの先生とのスケジュールがあまり合わない為、カウンセリングにおける時間が十分に取れていない。
- 薬学部・病院キャンパスは就職活動の面では劣っている気がする。
- 病院キャンパスは、他キャンパスに比べて相談体制があまり整っていないように感じる。(学生相談室や就職相談室など)
- 伊都に比べて馬出は手薄である。
- 医学部出身学生の就職活動に関する情報や支援に関する情報をどこで入手すればよいか教えてほしい。
- 社会人学生で、もう結構いい年齢なので、いろんな制度を利用してよいのか、自分も支援対象になるのかが良く分からず、遠慮してしまうところがある。

#### 留学生からの意見

- ほとんどのサポートが日本語で親切ではない。
- 留学生であっても、留学生対応専門の外国人先生より日本人の先生に相談したい。日本人の先生の方が日本のことに詳しく、より周りに融け込むためのアドバイスができると思う。
- 留学生に対する学生支援・相談体制が不足だと思う。実用性の高いものがほしい。特に、健康相談と就職に対して、実用性を考えてほしい。最近、留学生に対する就職セミナーは、伊都キャンパスだけで開催すること、とても不便と思う。箱崎でも開催してほしい。

#### 大橋キャンパス

- 相談室が学務課の中にあるため、他の学生に相談室利用を見られそうで、利用しにくい。別室にしてほしい。
- 利用している人が少ないため、利用したいけど、どうするか分からない。
- 健康面については充実している。一方で、ハラスメントの相談については、どこまで真剣に取り組まれているのか不透明に感じる。
- パワハラ相談室に相談しても、自分が不利益をこうむるのではないのかという不安がある。
- 遠い所にいる大人より近い所にいる学生を頼った方が数倍有益。

#### 筑紫キャンパス

#### 留学生からの意見

- Inform new and current students of where to access which kind of information/opportunities from the university (which websites for which category of information, and how regularly they are updated.)
- Notice board with posters to have English translations for all the information relayed. Most international students miss out on many things because of lack of understanding.

### Q04 [大学の経済支援等の諸制度について]

給付型奨学金や留学に対する経済支援など一層の充実を求める声が多く寄せられた中、経済支援制度の充実に向けた大学の努力を評価する声も一定数ありました。しかし、制度の周知に対する不満の声も多かったです。情報提供は掲示だけでなく、本学ホームページ及び学生ポータルシステムなど、大学が用意する情報ツールを用いているにもかかわらず学生に情報が伝わらないことが課題として浮かび上がり、情報を得ていない学生の普段の情報入手手段を把握する必要があります。

授業料免除制度は、平成26年度まで半額免除のみであったところを経済困窮度に応じて手厚く支援するため、平成27年度から全額免除及び4分の1免除を導入しました。全額免除導入による感謝の声がみられるものの、平成26年度は半額免除であったが27年度は4分の1免除となったなど、制度移行期における不満を示す意見がみられます。また、授業料免除に関する決定通知から、授業料納付期限までの期間を延長してほしいという声もありました。これは、免除申請が不採択あるいは減額となった場合に、まとまった金額を準備することに、日程的余裕がほしいとする、留学生の要望であります。

さらに、伊都キャンパス近辺ではアルバイトの機会が少ないため、学内アルバイトの充実を求める意見がありました。

以下に、学生からの自由記述を示します。

- 奨学金の制度、募集期間をもっと大々的に告知すべき。(文系・学部生)
- 知らない制度が多く、周知が不十分だと感じた。(理系・大学院生)
- 奨学金制度をより充実させてほしい。(文系・学部生)
- GPA だけで判断するのではない、もっとユニークな奨学金があるとよい。(文系・学部生)
- 半額免除だった人間が4分の1免除になるのはかなり厳しい。(理系・学部生)
- 課外活動をもっと支援してほしい。(理系・学部生)
- 九州大学にボランティアセンターを作してほしい。大学内でできるアルバイトを増やしてほしい。(理系・学部生)
- 経済面で厳しい人でも留学や海外体験ができるような制度があってほしい。(理系・学部生)
- 経済支援の仕組みが分かりにくい。(理系・学部生)
- 教科書の中古など九大内で安く買えたらよいと思う。(理系・学部生)
- 授業料が半額免除から4分の1免除に変わって面喰った部分があった。対象を広げすぎてないかという懸念がある。(文系・学部生)
- 給付型の奨学金で、少額で条件の厳しくないものがあればありがたい。(文系・学部生)
- 奨学金等の案内を学生全員に確実に届けることができる体制を作してほしい。(理系・学部生)
- 予想され得る将来を考えると奨学金は借り辛い。奨学金の利子がつらい。(理系・学部生)
- 学会参加支援、奨学金をもっと充実してほしい。(文系・大学院生)
- 経済的余裕の不足→アルバイト→勉学の時間減少→GPA 下がる→授業料・入学料免除から外れる→経済的余裕の不足…このデフレスパイラルがあることを知ってほしい。(理系・大学院生)
- 全額免除の基準は厳しくても仕方がないが、半額免除の基準はもう少しゆるくして欲しい。免除が無くても生活にあまり支障がない学生も含んだ多くの学生に4分の1免除を与えるくらいなら、本当に必要な学生に半額免除を与えた方がよいのではないか。(理系・大学院生)
- もし本当に産学連携を進めるなら、社会人から博士学生になる人への支援を、もう少し充実させてほしい。貯金を切りくずしてギリギリの生活でやっている人が支援されず、一方で仕送りや奨学金を受けている人が内部進学で事実上有利に支援されていたり、このシステムが本当に目指すところがどこなのか、よく分からない。(理系・大学院生)

#### 留学生からの意見

- 授業料免除の通知から振込までの期間をもう少し長くして欲しい。(文系・大学院生)
- I know so many scholarship in this university and it's very good to support the financial not only for Japanese students but also foreign students.
- There should be more scholarships that does not require Japanese ability.(理系・学部生)
- Scholarships should be given to those even without Japanese Ability. It is a discrimination for foreigners not to receive financial assistance.(理系・学部生)
- I hope University will have more scholarships to financially support our students. And offer student long-term apartment.(文系・大学院生)
- Please increase financial support for attend/join foreign conference/university for short time.(理系・大学院生)
- I think Kyudai should give some informations or part time jobs(to student need it) . Because financial issues is one important things for some students.(理系・大学院生)
- I wish Univ. can provide more support to doctorate student so that we can concentrate on the research without being worried of financial difficulties.(文系・大学院生)
- I think the university programs' financial support is good, but it will be better if university can provide more part-time job positions.(理系・大学院生)

## Q05 [大学の施設・設備について]

食堂および図書館(学内での自習場所)に関する意見が非常に多く寄せられました。また、キャンパスごとに特徴的な意見も多く、以下、キャンパスごとに整理していきます。

### 伊都キャンパス

理学部の移転もあり、昼食時学食の混雑緩和を訴える声が多く寄せられました。また、学内移動等と関連して、駐車場・駐輪場の充実を望む声もありました。また、学食の土日営業を望む声もあります。さらに、夜間の安全確保、例えば、街灯の拡充を訴える声もあります。以下に、学生からの自由記述を示します。

- 食堂を充実させてほしい。栄養バランスをもっと考えてほしい。
- 営業時間を延長して欲しい。食堂を土日営業して欲しい。
- 学食の混雑をやはりどうにかしてほしい。
- 全ての食堂でミールカードが使えないのが不便。
- 図書館(伊都)の利用時間の拡大を検討してほしい。
- 研究設備を充実させてほしい。
- 夜間も使える勉強場所がほしい。
- 駐輪場をもっと確保してほしい。
- 二輪車を置くスペースが少なすぎる。特に総合学習プラザ裏の駐輪場は授業を受ける学部生がよく使う場所のため、昼間はスペースに置けなかった。学生が芝生の上に駐輪することが常態化していて非常に危険だと感じる。
- キャンパス移転による人数の増加に対応できていない気がする。今後病院、大橋などを除く全学部が移転して来るのであれば、交通網の整備(増便、またバス以外の通学手段)や道路の整備、交通整理等が行われないと、対処しきれなくなると思われる。また原付、バイク、自転車も増え、事故が多発する恐れもある。
- 学内の歩行者の安全性をより整えるべき。
- 建物内で人が迷っていたり、何処から入れればいいのか地図を見ただけだと分からない所が多いように感じる。
- 工学府のウエスト3号館からバス停(工学府前)へに行く道が(水素ステーション横)夜とても暗いので、外灯等を設置してほしい。
- 課外活動を支援するための施設・設備が足りなさすぎる。学生は授業があり、時間がかぎられているにもかかわらず、使用したいときには施設は閉まっております、施設そのものの閉館時間も早すぎる。
- 箱崎キャンパスの体育館が閉鎖されるのに、伊都に新しい体育館ができないというのは本当に困る。
- 有料でいいからシャワールームをつけてほしい。自転車通学は大変。
- 喫煙スペースを移動するか、煙が周辺に流れ出ないように工夫する等してほしい。建物の出入り口付近等、人が良く通る場所で喫煙するのは止めてほしい。

#### 留学生からの意見

- Very excellent facilities perhaps in the future Kyusyu University provide praying hall for the muslim communities.
- Please add more "Halal" menu in cafeteria.
- More halal outlet please. Consider that the number of muslim students are a lot, please help us in finding convenience especially during lunch-time.
- Please make more English text books available in the library at least for the international students.
- The facilities are very good. But, sometimes we need explanation or procedures manual to use the facilities in English.

- language is a big problem, we offer suffer from look of information due to language. Please use bilingual(Japanese+English) for all document, nails, etc.
- 街灯が少ないと感じる部分がある。施設の英語表示の統一をはかってほしい。

### 箱崎キャンパス(含・文系キャンパス)

学食の混雑緩和、営業時間の延長および土日の開業を望む声は高いです。学内での自習用スペースの拡充、例えば、図書館の土日開館等への要望があります。事務系の分散化による不便を訴える声もあります。講義室数の不足について、学生からも指摘がありました。また、キャンパス移転に伴う、施設の間引きの前倒しを憂う声もあります。以下に、学生からの自由記述を示します。

- 図書館の開館時間の延長を求む。
- 土・日の図書館の開館と学食の営業時間をもう少しのばしてほしい。
- 文系の食堂が衛生的に不安。もっときれいにしてほしい。
- 箱崎文系棟は自習スペースが極めて少ない。また、食堂の混雑がすごい。
- 売店や、食堂が全体的に汚れていて、衛生的にあまり利用したいとは思わない。そこを改善してほしい。
- 貝塚の事務室にも、定期通学の申請が出来るようにしてほしい。箱崎の事務室まで行かなければならず、大変不便。
- まだ箱崎キャンパスにいる予定なのに、移転より先に様々な施設(特に体育館・グラウンド・図書館等)が使えなくなるのは気に入らない。
- 箱崎キャンパスの体育館が使えなくなったら、伊都の体育館だけで、すべての部活とサークルを抱えるのは、不可能だと思う。はやく建ててほしい。このままだと七大戦も、ずっと7位のままだと思う。
- 農学部に限定した話かもしれないが、AEDが全館に設置されておらず緊急時に大変不便である。

#### 留学生からの意見

- Since I study in old campus (Hakozaki), I often worried about the building construction especialy if unexpected situation may happened. Also about toilet facilities, I feel it is limimited in out building.
- We need praying room(since I am a moslem) or praying spot.
- Because I study in Hakozaki campus, the facilities is quite old. But enviroentment is good. Quietly, fresh and good view from my laboratory.

### 病院キャンパス

駐輪場の不足を訴えています。馬出キャンパスにおいても、食堂の混雑緩和を訴える声は高いです。以下に、学生からの自由記述を示します。

- 自転車の駐輪場が足りてない。病院キャンパスの図書館前にちゃんとした駐輪場がほしい。
- 食堂の混雑解消をしてほしい。
- 夜に学食のメニューを増やしてほしい。揚げ物ばかりで、不健康である。
- トイレに石けんを置いてほしい。
- トイレをもっと清潔にしてほしい。切実に。それだけ。本当にそれだけです。

#### 留学生からの意見

- The facilities and equipment is great.
- \*is very helpfuru \*but in order not to miss any information, please consider English translation of equipments, annoucements, traffic road instructions...

## 大橋キャンパス

大橋キャンパスでは、キャンパスの施設に関する意見(学食に関することやトイレの改善)以外に、井尻寮の施設改善に関する声がありました。以下に、学生からの自由記述を示します。

- 大橋キャンパスの食堂問題(営業時間の拡張、味、混雑)は解決してほしい。周囲にお店は多いが、どんどん値上がりして負担が大きい。
- 図書館でデザインについての本が少なく、充実できればよい。
- 音響設計の技術者のより高い能力育成のため、理想的な音響環境を持ったホールがあるべきだと思う。
- 芸工のピアノ室のピアノを調律してほしい。
- 大橋キャンパスのトイレを綺麗にしてほしい。石けんを置いてほしい。
- 1-3年のうちにもう少しグループで集まったり個人で利用できたりするスペースが欲しい。サークルで利用できる倉庫がもう少しあると良い。学校行事でも使えると思うので、簡易ステージをもう少し増やせると良い。
- 井尻寮の洗濯機や乾燥機など多くが故障中で使用可能な台数が10月現在50%程度(12台中7台)と明らかに室全数に対して足りていません。困ります。どうかしてください。
- 大橋キャンパスの正門の所の、大学名表記がずっとポロポロとれているのはいかがなものかと思う。
- 大橋キャンパスを伊都キャンパスに移動させてほしい。大橋キャンパスにいたら、大学での目標のうちの1つである色々な学部の人と話をし、視野を広げることができない。また他のキャンパスから遠いのでサークルに入っても参加できないこともよくある。私のいる間は無理でも、同じことを思っている人は多数いるので、是非お願いしたい。

## 筑紫キャンパス

以下に、学生からの自由記述を示します。

- 筑紫キャンパスに体育館がほしい。

### 留学生からの意見

- 留学生のために、設備等についても英語のマニュアルを用意してほしい。

## Q06 [大学生活全般について]

総合大学の利点である、専門教育の多様性を活かせる仕組みを取り入れてほしいという声が上がっていました。非公認サークルについて、大学の対応が厳しすぎるという声と、甘すぎるという両方の声が上がっています。大学として、これらの声が上がってくる理由について、理解を深める必要があるようです。また、大学院生からは、研究環境の改善に資する意見が散見されました。キャンパスごとにまとめて整理をします。

## 伊都キャンパス

公共交通機関の拡充を求める声があります。また、大学回りの生活を支える店舗の充実を望んでいるようです。以下に、学生からの自由記述を示します。

- 4年になって、突然院試だ、研究だ、で忙しくなるが3年のうちに何を準備しておくべきかのアドバイスが欲しい。
- 大学に入れば自ずと将来何をしたいか決まるだろうと思っていたが、甘かった。逆に自分がどこに今向かっているのか(何かしたいのか)分からなくなってしまい、沈んだ毎日を送っている。
- 4年で研究室に入ってから、他の研究室や他コースの関わりが減ったので、もっと関わる機会があったらいい。
- 留学生と関われるようなイベントをもっと開催して欲しい。他学部・学科・他大学ともっと関われるようなイベントを開催してほしい。糸島などの地域住民と関われるような。
- 研究や勉強以外、豊富な活動やイベントに参加したい。留学生が容易に参加できる環境を作って欲しい。
- 今のところいいけどもっと国際的なイベントや文化イベントをしてほしい。そうしたらお互いにもっと興味を持てるのに。
- SALCがちょっと入りづらい。
- 休憩所が切実にほしい。
- 公式サークルの認定が厳しい。
- 広大は、非公認サークルでも団体登録すれば教室等を利用可能なシステムがあるらしい。サークル公認基準や施設利用の基準があまりに厳しく、新設サークルの活動を阻害している。自主ゼミもでない。学生運動の過去があるのも理解できるが、より時代に即した変化を期待したい。
- 大学公認でない非正規サークルに九大は甘すぎる。他の大学をみならってほしい。
- 周りの公共交通機関の充実、お店の充実等。
- スーパーが遠く、自炊などがしにくい。
- 入学時にミールカードをすすめて来たのに、センターゾーンでしか使えない。高額を入れたのに意味がなかった。1年時にしか使う機会がないとか書いてほしかった。または、ウエストゾーンにもミールカードを使える食堂を作って欲しい。
- 学部・学科による就職の違いがあるため、それぞれの説明がもっとあればうれしい。また、就職に直結しなくてもOB、OGの人と出会い、情報共有できたらうれしい。
- 宗教団体の声かけが学内外で行われている。自分の周りでもこのようなことがあったと聞いており、その人もかなり迷惑がっているようである。学校としてどう考えているのか、問題と考えるなら対策をしてほしい。
- 工事の大まかなスケジュールの開示を求める。何の作業がいつ頃に終わるのか、いつからどこが通れないのか、全く情報がなくて困っている。また、そのような情報が私達学生に届いていないという事実を工事現場の方々は知らず、口論にも発展することがある。
- 証明書自動発行機の利用時間を長くしてほしい。場所によって利用時間が異なっているのも、統一してほしい。

#### 留学生からの意見

- The university arranges many activities for international students, also Japanese students are very friendly. The academic level is also advanced here and I can get sufficient knowledge. I'm very appreciate for the good environment here provided by the university.
- Foreigners should be allowed to stay in dormitories for the entire duration of their study. It is very difficult for foreigners to find cheap accomodations.

#### 箱崎キャンパス・病院キャンパス

箱崎・馬出地区にも、キャンパスコモンスペースがほしいという声があります。文化交流の場を設定してもらいたいとの意見もあります。分散キャンパスによる課題があるとの意見であると思われます。以下に、

学生からの自由記述を示します。

- 友人同士で話す場がほしい。(食堂や飲食可で話し声 OK な自然に集まれる場所。)教室がもっとほしい。(授業で、受講希望者の立ち見があり、教室不足で他の部屋に変わらない。)
- 私は現在、研究室に所属しているが、キャンパス内に研究室以外の居場所がないように感じている。キャンパス内で落ち着いて本や PC を広げることができるスペースがあまりないと思った。
- 新入生のときにもっと周囲のサポートが受けやすい環境であつたらな、と思っている。何事も最初が重要。
- 九州大学は、自分がその気になればいろいろとコミュニティが広がりやすい環境にあると思う。自分ももっと積極的に参加しておけばよかったと思う。
- 先生が一方的に講義すると、学生が興味を感じられなく授業中寝てしまうとかは、先生の思い込みだと思う。教え方が正しければ、興味津々に聞いていた。授業を学生にまかせないでほしい。
- 箱崎キャンパスの売店が閉まるのが早くて夜研究しているとき買い物できないのが不便。文系の売店ももう少し遅くまでやってほしい。
- 大学はこの程「スーパーグローバル大学創成支援事情」のうちの大学の1つとして採択されたかと思う。当然、現在でもさまざまな行事や学会が催されており、外部からも多くのお客様が訪問されている。そこで気になったのが、「売店、食堂での支払い方法」である。大学としては独自の IC カードを導入し、学生や教職員に対して利用を促進しているが、一部を除けば、売店や食堂の支払いは「現金、もしくは大学の IC カード」のみで、日本で広く普及している交通系 IC カードやクレジットには対応していない。グローバル戦略に力を入れる以上、外部からのお客様も交通系 IC カードやクレジットを持つ方々が多数お越しになると思うが、そうした支払いが限られた方法であることは、外部からのお客様との待遇と学内者との待遇に差が生じてしまうと感じるし、グローバルを呼ぶ一方で売店や食堂の支払いは閉鎖的だと感じている。グローバル戦略に力を入れるということは、多様なものと受け入れることも大事になるのではないか。
- 就職に対する取組が他大学にくらべて少ないと思った。

#### 留学生からの意見

- Interaction between Japanese student and foreign student, should be more shinghten. It should come from both side.
- Not enough activities for foreign students who can't speak Japanese.
- In some places, I find some difficulties because there is no English sign or explanation of something in English.
- So far so good, but I think Kyudai should make much more international events or culture events so we can interact with each other both international student and Japanese student often.

#### 大橋キャンパス・筑紫キャンパス

大橋・筑紫キャンパスでも、駐輪に関する課題を挙げる学生が多くいます。また、文化交流や国際交流イベントの立ち上げを望む声もあります。以下に、学生からの自由記述を示します。

- 食堂前の駐輪場でしばしば自転車が溢れ返っているのを見かける。これは学生のマナーが悪いというのが一番の問題であるが、人が集まりやすい食堂であるにもかかわらず駐輪場が狭い、ということも要因のひとつかもしれない。食堂前の駐輪場を広くとることで、放置自転車の問題が解決するとともに、食堂利用者も増加するかもしれない。
- 国際留学もいいですが、国内留学、学内留学制度も積極的にやって欲しい。
- ku-portal に変わってから、配信されるメールの量が多すぎる。また、以前の方が、内容が読みやすかつ



た。

- 井尻寮内の設備に不備が出ている。洗濯機、乾燥機の故障が度々あり、生活を送る上で不便している。冷水器は壊れて要請してから1年近く経つが、いまだに修理されないままである。
- 他学部との交流の機会を増やしてほしい。筑紫だけ秘境すぎるので、移転してほしい。

## Q07 [女子学生にお尋ねします]

**[女子学生であることにより勉学・研究・就職活動において何らかの区別を感じたことがあれば記述してください。]**

女子学生的心声を積極的に収集するために、新たに設置した項目でしたが、なぜ女子学生だけに項目が設けられたのかという疑問の声も多く、アンケートの実施方法については、再考が必要であると考えられます。内容については、学生の男女比が大きく異なることを鑑み、文系・理系ごとにまとめました。

### [文系]

文系女子学生にとって、学内での差別はあまり感じていないようですが、特に就業後に起こりうることについて、気を回しているように感じました。今回のアンケートで、本自由記述項目を設けたことについての意見が非常に多いものでした。以下に、学生からの自由記述を示します。

- 大学進学するまでが大変だった。
- 学内ではあまりないが、社会人の方とあった時にセクハラ等があった。どうすればいいか気軽に話せると嬉しいのだが…。
- この欄が女性向けだけに設けられていること。「性別によって」というくくりで良いのでは？
- 研究職や大学院を考えていると言うと、「女の子はねえ…」と濁されるときがある(先生にも)。
- 大学生までやって結婚したら親ががっかりするのが良く分からない。キャリアを折るなという圧ですね。
- 就職活動中はしばしば感じた。受けられない職種があったり、勤務地の差があったりなど。
- 就職活動においては、男子学生と同一視できない現実がある。
- 学会等の場で不必要な性的発言がある事があまりにも多すぎる。
- 学内ではなくても社会ではあるでしょう。
- 子どもがいるので、夜遅い時間まで学校にいられず、研究室の仲間と時間を共有できない事がネックに感じる。

### [理系]

圧倒的に男子学生が多い環境となる理系の学部や大学院では、差別とともに区別も存在しており、配慮すべき課題が山積しているように思われました。ただし、多くの課題は、就活や就業時に押し寄せてきそうです。以下に、学生からの自由記述を示します。

- 工学部は女子学生が少ないので、健スポ、グループワーク、実験のとき(のグループ分け)が大変。
- 女子学生だから厳しい点数(GP)をもらったことがあるが、逆の先生もおられるようだ。アンケートの意図するところは理解出来るが、男子学生の「区別」覧も在っても良いのかもしれない。LGBTの方への配

慮も必要かと。女性専用駐車場が安全なのかが気になる。

- 就職活動中にスーツを着用することが多々あったが、「パンツスタイルよりスカートスタイルの方が良い」と言われたことがある。
- 研究室で電話を取らされたり、お茶を出したりしなければならない。
- 徹夜で勉強したら学内でシャワーとかできる場所は男子しか持っていない。勉強や研究は難しいと思う。
- 気を使って女子同士組まされること。
- 男子学生に対する指導の方が厳しい教員もいらっしゃる。卒業後家事をする役割を担うのは当然といった発言が授業中にみられる。
- 学部2年生ぐらいの頃の、コースのオリエンテーションで、コースの教授が「4年生に上がる時に研究室の希望調査があるが、女子学生は3人も4人も同じ研究室を希望しないように」といった意味のことを言っていた。就職の斡旋の便宜上のため、というような理由を説明されたが、男女差をあからさまに気にする企業も大学職員もどうかと思った。
- 学部の人数が少ないため孤立感が大きい。友達がつくりにくい。
- 就職活動において、キャリア形成の考え方によって(特に結婚など)大きく選択が変わってくると思う。それは、大学院に進学する人にとっても同じだと思うので全員に向けた情報発信が欲しい。
- 女子博士後期課程留学生の就職の支援情報や紹介などが欲しい。
- 公務員の女性採用者数が少ないように感じる。
- 教員に気をつかわれている。言いたい事を言ってくれていないように思える。
- 学部の教授職に女性教員がいない。
- 最近では、女子というだけで優遇されることが多いと感じるが(学校、就活 etc…), 逆差別される方が嫌な気持ちになる。学校→女子には先生の評価が甘い。就活→同評価なら、男子より女子を通す。
- 研究室においては、男性優位が根強く、女だからということで肩身の狭いことがある。また、就職もどうしても女性にはハンデがあるように感じた。
- 有機系薬品や重量のある分析機器を扱う際、また普段の生活においても十分な配慮が感じられる。
- 今は、博士課程に進学しているが、かつて就活をした際、ある企業では、研究職の正社員採用は実質的にゼロだった。女子は嘱託のみだった。研究に関しては、実際、女子は出産のことなど考えるとむずかしいと感じることは多々ある。
- 研究においては、女子だからいつかは(結婚、出産、育児で)いなくなるだろうと思われているように感じる。教員には、育児と研究の両立なんて絶対に不可能だと言われ、博士課程進学を前に自信をなくしつつある。
- 私は技術職・研究職を受けており、その際に女性は辞めやすいという事を言われた時に、少し不利なのかなと感じた。例えば、結婚もして子供も産みたいと言った際に「うちは忙しいから子育てとかしながらは大変だよ」と言われた事があり、結婚・出産・育児に関する見方は、まだ厳しい所があるのだろうなと思った。

#### 留学生からの意見

- Sometimes, for woman students who has family, it will be difficult to manage the time. Based on my experience, I have friend who send back her kid to their country because their worried about study.

## 平成 27 年度学生生活実態調査実施部会

部 会 長	丸 野 俊 一	(理事・副学長)
委 員	高 木 彰 彦	(人文科学研究院・教授)
〃	松 山 倫 也	(農学研究院・教授)
〃	家 入 一 郎	(薬学研究院・教授)
〃	坂 田 年 男	(芸術工学研究院・教授)
〃	大 瀧 倫 卓	(総合理工学研究院・教授)
〃	東 田 賢 二	(工学研究院・教授)
〃	割 石 博 之	(基幹教育院・教授)
〃	丸 山 徹	(基幹教育院・教授)
〃	江 島 定 人	(学務部長)

## 学生生活実態調査実施ワーキンググループ

座 長	丸 野 俊 一	(理事・副学長)
委 員	高 木 彰 彦	(人文科学研究院・教授)
〃	松 山 倫 也	(農学研究院・教授)
〃	東 田 賢 二	(工学研究院・教授)
〃	割 石 博 之	(基幹教育院・教授)
〃	丸 山 徹	(基幹教育院・教授)
〃	林 篤 裕	(基幹教育院・教授)

平成 27 年度  
学生生活実態調査報告書 九州大学

発行日 平成28年3月  
編集発行 九州大学学務部  
〒819-0395 福岡市西区元岡744  
九州大学 学務部 学生支援課  
TEL 092-802-5961  
印刷 株式会社 ミドリ印刷